前橋市 0107 遺跡（２）

（一）南新井前橋線（2期工区）道路改築事業（地方道・連携）に伴う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

2022

群　馬　県　前　橋　土　木　事　務　所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋市 0107 遺跡（２）

（一）南新井前橋線（2期工区）道路改築事業（地方道・連携）に伴う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

2022

群　馬　県　前　橋　土　木　事　務　所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書では(一)南新井前橋線(２期工区)道路改築事業(地方道・連携)に伴う埋蔵文化財の発掘調査の調査成果を報告します。一般県道南新井前橋線は北群馬郡榛東村大字新井の陸上自衛隊相馬原駐屯地前を起点とし、北群馬郡吉岡町、前橋市池端町を経由し前橋市川端町で一般国道17号上武道路と接する幹線道路です。

この道路のバイパス整備事業に伴う発掘調査は前橋市池端町の前橋市0107遺跡において、令和２年度と令和３年度に行われました。本書はその調査報告となります。なお当地では平成28年度と平成30年度にも本事業に伴う発掘調査が行われ、その報告は既に刊行されております。

発掘調査が実施されました当地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である前橋市0107遺跡地内に立地し、周囲には古代の集落遺跡である清里・陣場遺跡や弥生時代の環濠集落で知られる清里・庚申塚遺跡が存在します。また隣接する吉岡町中御所遺跡では古代の竪穴建物や中世の掘立柱建物が発見されています。

発掘調査では古代の土坑や中世の墓や溝が発見され、古代から中世にいたる人々の暮らしの様子の一端が明らかになりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県前橋土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が前橋地域における歴史の解明に広く役立てられますことを念じて、序といたします。

令和４年10月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理　事　長　　向　田　忠　正

例　　言

1　本書は(一)南新井前橋線(２期工区)道路改築事業(地方道・連携)に伴う前橋市0107遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。報告書作成は令和３年度(一)南新井前橋線　社会資本整備(国土強靭化)（防災・安全)事業に伴う埋蔵文化財の整理事業として実施された。なお前橋市0107遺跡は、令和２年度に遺跡の一部についての発掘調査報告書が刊行されているため、本書では書名に(２)を付した。

2　調査地の所在地

令和２年度　　群馬県前橋市池端町字屋敷小路71-３、72-２、114-１、114-２、115、129-11、129-12

令和３年度　　群馬県前橋市池端町字屋敷小路116-１、117-１、128-１

3　事業主体　　群馬県前橋土木事務所

4　調査主体　　公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

5　発掘調査の期間と体制

令和２年度	発掘調査履行期間	令和２年７月１日～令和２年11月30日
	調査期間	令和２年８月１日～令和２年９月30日
	調査担当	唐沢友之、原　雅信
	遺跡掘削工事請負	株式会社　飯塚組
	地上測量委託	技研コンサル株式会社
令和３年度	発掘調査履行期間	令和３年４月１日～令和３年７月31日
	調査期間	令和３年４月１日～令和３年５月31日
	調査担当	唐沢友之、新井　仁
	遺跡掘削工事請負	株式会社　飯塚組
	地上測量委託	技研コンサル株式会社

6　調査面積　　令和２年度　　809.34㎡

令和３年度　　960.00㎡

7　整理作業履行期間　　令和４年３月31日～令和４年12月31日

整理期間　　令和４年４月１日～令和４年10月31日

8　本書の作成分担

編集	佐藤元彦
デジタル編集	齊田智彦
遺構写真撮影	発掘調査担当者
遺物観察	石器・石製品：岩﨑泰一　　金属製品：板垣泰之
	縄文：橋本　淳　　古代：神谷佳明　　中近世：大西雅広
遺物写真撮影	金属製品：板垣泰之　　中近世：大西雅広　　その他：佐藤元彦

9　発掘調査及び報告書作成には、群馬県前橋土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会をはじめ、関係機関ならびに関係各位に多くのご協力、ご指導を賜った。

10　出土遺物及び写真・図面等記録類の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターである。

凡　　例

1　本報告書(以下本書)に用いた遺構名称は、混乱を避けるため発掘調査終了時点の名称を踏襲した。また埋没土および発掘調査現場の土層・土質等にかかわる記述は発掘調査時点の調査所見に基づく。

2　本書に用いた座標・方位はすべて世界測地系(日本測地系2011、測地成果2011)、平面直角座標系第IX系による。

　世界測地系による当所の所在は、北緯36度25分46秒、東経139度00分36秒であり、当所における座標北と真北との偏差は＋０度29分20.47秒、磁北線の偏角は８度10分である。

　また、遺構図中の十字記号は世界測地系(日本測地系2011、測地成果2011)、平面直角座標系第IX系に基づく基準点を示す。Ｘ値とＹ値の整数部末尾３桁を付記した。

3　遺構の主軸方位は座標北を基準とした。形状の確認できる遺構においては長軸を主軸とし、その傾きを度で示し、形状の不明なものについては計測不能のため不明とした。

4　遺構の標高は、原則として遺構断面図中に「Ｌ＝○．○m」と表記した。計測値は主軸方向を縦とし、縦：横：面積の順に記した。主軸方向の不明な遺構については長：短：面積の順での記載を原則とした。

5　全容が確認できない遺構については、検出部分の計測値を()付きで表記した。

6　遺構面積の算出に際しては、縮尺１：20の平面図を計測に用いることとした。

7　本書の個別遺構図版の縮尺は以下を基本とする。

　　溝　１：80　　竪穴状遺構、土坑、ピット　１：40

8　本書の遺物図版縮尺は縄文土器、石製品、中近世の土器や陶器磁器については1/3を原則とした。

9　本書における遺構略称は以下のとおりである。

　　竪穴状遺構　竪穴状　　井戸　井　　土坑　土　　ピット　P

10　本書で使用したトーンは以下のとおりである。

　　攪乱

11　本書における土層註記及び遺物観察表記載に用いた色彩表現は、農林水産省水産技術事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1996「新版標準土色帳」に基づく。

　なおデジタル現像等のデジタルデータの処理に際して、ICCプロファイルなどICCの規定に基づく色管理はなされていないので、編集時点において被写体本来の色調や色相は担保されない。

12　本書で使用した地形図、地勢図、地質図は以下のとおりである。

　国土地理院１：25,000地形図「伊香保」平成24年９月１日発行

　国土地理院１：25,000地形図「渋川」平成14年10月１日発行

　国土地理院１：25,000地形図「下室田」平成28年９月１日発行

　国土地理院１：25,000地形図「前橋」令和１年６月１日発行

　国土地理院１：50,000地形図「榛名山」平成２年４月１日発行

　国土地理院１：50,000地形図「前橋」平成10年３月１日発行

　国土地理院１：200,000地勢図「宇都宮」平成24年５月１日発行

　国土地理院１：200,000地勢図「長野」平成23年６月１日発行

　国土地理院ウェブサイト「https://maps.gsi.go.jp/#13/36.440964/138.979368/&base=std&ls=std%7Chillshademap&blend=0&disp=11&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1」陰影起伏図

国土地理院ウェブサイト「https://maps.gsi.go.jp/#16/36.429673/139.008873/&base=std&ls=std%7Cslopemap%7Chillshademap&blend=00&disp=111&lcd=hillshademap&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1」陰影起伏図

産業技術総合研究所地質調査総合センター『20万分の１日本シームレス地質図』2014年１月14日版、産業技術総合研究所地質調査総合センター

国土地理院「地形地域区分図」『土地条件調査解説書「前橋及び高崎地区」』国土地理院2010年11月

13　同一遺跡の発掘調査報告書として、下記の報告書が刊行されている。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1981『清里・陣場遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『前橋市0107遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第１章　調査経過と調査の方法 ・・・・・・・・・・・・・ 1
　第１節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　第２節　調査の経過と方法 ・・・・・・・・・・・・・ 1

第２章　周辺の環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　第１節　地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　第２節　歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第３章　確認された遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・18
　第１節　調査区の概要と基本土層 ・・・・・・・・・18
　　第１項　調査区の概要
　　第２項　基本土層
　第２節　１面の遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・31
　　第１項　１面の概要
　　第２項　検出された遺構
　第３節　２面の遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・64
　　第１項　２面の概要
　　第２項　検出された遺構
　第４節　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75

第４章　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82

抄録
写真図版
奥付

挿図目次

第１図　遺跡の所在 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第２図　調査区位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第３図　調査区設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第４図　遺跡周辺地質図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第５図　遺跡周辺の地形(広域)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第６図　遺跡周辺の地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第７図　周辺の遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第８図　前橋市 0107 遺跡３区全体図１面 ・・・・・・・・・・・・・ 19
第９図　前橋市 0107 遺跡３区全体図２面 ・・・・・・・・・・・・・ 20
第10図　前橋市 0107 遺跡３区西、西・東部・・・・・・・・・・・・ 21
第11図　前橋市 0107 遺跡３区中央１面 ・・・・・・・・・・・・・・ 22
第12図　前橋市 0107 遺跡３区中央２面 ・・・・・・・・・・・・・・ 23
第13図　前橋市 0107 遺跡３区東、中央トレンチ ・・・・・・・・・ 24
第14図　前橋市 0107 遺跡３区基本土層１ ・・・・・・・・・・・・・ 25
第15図　前橋市 0107 遺跡３区基本土層２ ・・・・・・・・・・・・・ 26
第16図　前橋市 0107 遺跡３区基本土層３ ・・・・・・・・・・・・・ 27
第17図　前橋市 0107 遺跡３区基本土層４ ・・・・・・・・・・・・・ 28
第18図　前橋市 0107 遺跡３区基本土層５ ・・・・・・・・・・・・・ 29
第19図　前橋市 0107 遺跡３区基本土層６ ・・・・・・・・・・・・・ 30
第20図　49号溝１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第21図　49号溝２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
第22図　49号溝３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
第23図　50号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
第24図　51号溝、52号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
第25図　５号墓、12号井戸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
第26図　13号井戸１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
第27図　13号井戸２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第28図　土坑１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
第29図　土坑２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
第30図　土坑３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
第31図　ピット１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第32図　ピット２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
第33図　ピット３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
第34図　ピット４ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
第35図　ピット５ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第36図　規則的な配置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
第37図　48号溝、６号竪穴状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
第38図　集石１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
第39図　集石２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第40図　２面土坑１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
第41図　２面土坑２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
第42図　２面土坑３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第43図　２面ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
第44図　出土遺物１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
第45図　出土遺物２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
第46図　出土遺物３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
第47図　遺構分布１ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
第48図　遺構分布２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
第49図　遺構分布３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
第50図　時代別遺跡分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
第51図　中御所遺跡４号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86

表 目 次

第２－１表　　遺跡一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
第３－２－１表　１面土坑一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第３－２－２表　１面ピット一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
第３－３－１表　２面土坑一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
第３－３－２表　２面ピット一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第３－４－１表　遺物出土状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第３－４－２表　遺構出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
第３－４－３表　遺構外遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
第３－４－４表　未掲載出土遺物(古代) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
第３－４－５表　未掲載出土遺物(中世以降)・・・・・・・・・・・・・・・ 81

写真目次

PL. 1
1　前橋市0107遺跡３区から榛名山を望む(南東から)
2　前橋市0107遺跡３区西調査区、西・東部調査区(１面、南東から)
PL. 2
1　前橋市0107遺跡３区西・東部調査区(１面、西から)
2　前橋市0107遺跡３区中央西調査区、中央東調査区(２面、東から)
PL. 3
1　前橋市0107遺跡３区中央東調査区(１面、西から)
2　前橋市0107遺跡３区東調査区(１面、南西から)
PL. 4
1　49号溝西端(南から)
2　49号溝西端付近(北から)
3　49号溝断面(西から)
4　49号溝土層断面(３区西　東壁、西から)
5　49号溝(東から)
6　49号溝土層断面(３区西・東部　東壁、西から)
7　49号溝(南から)
8　49号溝土層断面(３区中央西、西から)
PL. 5
1　49号溝(横位52号溝、東から)
2　52・49号溝土層断面(北西から)
3　49号溝南端付近(北東から)
4　49号溝土層断面(３区中央西　西壁、東から)
5　49号溝土層断面(３区中央西、西から)
6　49号溝土層断面(３区中央東　南壁、北から)
7　50号溝(南から)
8　50号溝土層断面(南から)
PL. 6
1　51号溝(南から)
2　51号溝土層断面(東から)
3　52号溝(縦位49号溝、西から)
4　５号墓(西から)
5　５号墓(東から)
6　５号墓土層断面(東から)
7　12号井戸(北から)
8　12号井戸(南東から)
PL. 7
1　13号井戸(東から)
2　13号井戸土層断面(上層、南から)
3　13号井戸土層断面(中層、北から)
4　13号井戸(底部、北から)
5　111号土坑(北から)
6　111号土坑土層断面(南から)
7　112号土坑(北から)
8　112号土坑土層断面(西から)
PL. 8
1　113号土坑(北から)
2　113号土坑土層断面(南から)
3　114号土坑(北から)
4　114号土坑土層断面(南から)
5　115号土坑(北から)
6　115号土坑土層断面(西から)
7　116号土坑(北から)
8　116号土坑土層断面(東から)
PL. 9
1　123号土坑(南から)
2　123号土坑土層断面(南から)
3　124号土坑(南から)
4　124号土坑土層断面(南から)
5　134・125・135号土坑(南から)
6　134・125・135号土坑土層断面(南から)
7　134号土坑土層断面(南から)
8　135号土坑土層断面(南から)
PL. 10
1　125号土坑土層断面(南から)
2　128・129号土坑(西から)
3　128・129号土坑土層断面(西から)
4　130号土坑(南から)
5　130号土坑土層断面(南から)
6　131号土坑(南から)
7　131号土坑土層断面(南から)
8　132号土坑(南から)
PL. 11
1　132号土坑土層断面(南から)
2　133号土坑(北から)
3　133号土坑土層断面(南から)
4　139号土坑(北から)
5　219号ピット(南から)
6　220号ピット(南から)
7　221号ピット(南から)
8　222号ピット(南から)
9　223号ピット(南から)
10　224号ピット(南から)
11　225号ピット(南から)
12　226号ピット(南から)
13　227号ピット(南から)
PL. 12
1　228号ピット(南から)
2　229号ピット(南から)
3　230号ピット(南から)
4　231号ピット(南から)
5　232号ピット(南から)
6　233号ピット(南から)
7　234号ピット(南から)
8　235・270号ピット(南から)
9　236号ピット(南から)
10　237号ピット(南から)
11　238号ピット(南から)
12　239号ピット(南から)
13　240号ピット(南から)
14　241号ピット(南から)
15　242号ピット(南から)
16　243号ピット(南から)
17　244号ピット(南から)
18　245号ピット(南から)

PL. 13
1　246号ピット(南から)
2　247号ピット(南から)
3　248号ピット断面(北から)
4　249号ピット(南から)
5　250号ピット(南から)
6　251号ピット(南から)
7　252号ピット(南から)
8　253号ピット(南から)
9　254・255号ピット(南から)
10　256号ピット(南から)
11　257号ピット(南から)
12　258号ピット(南から)
13　259号ピット(南から)
14　260号ピット(南から)
15　261号ピット(南から)
16　262号ピット(南から)
17　263号ピット(南から)
18　284・264号ピット(南西から)
PL. 14
1　265号ピット(南から)
2　266号ピット(南から)
3　267号ピット(南から)
4　268号ピット(南から)
5　271・269号ピット(南から)
6　272号ピット(南から)
7　273号ピット(南から)
8　275、274号ピット(東から)
9　276号ピット(南から)
10　277号ピット(南から)
11　278号ピット(南から)
12　279号ピット(南から)
13　280号ピット(南から)
14　281号ピット(南から)
15　282号ピット(南から)
16　283号ピット(南から)
17　294号ピット(南から)
18　295号ピット(南から)
PL. 15
1　296号ピット(南から)
2　298号ピット(南から)
3　301号ピット(南から)
4　302号ピット(南から)
5　310号ピット(南から)
6　311号ピット(南から)
7　312号ピット(南から)
8　314号ピット(南から)
9　317号ピット(南から)
10　319号ピット(南から)
11　320号ピット(北から)
12　321号ピット(北から)
13　323号ピット(南から)
14　324号ピット(南から)
15　325号ピット(南から)
16　327・326号ピット(南から)
17　332号ピット(南から)
PL. 16
1　48号溝(南から)
2　48号溝礫群(南から)
3　６号竪穴状遺構(東から)
4　６号竪穴状遺構土層断面(北から)
5　３～５号集石(西から)
PL. 17
1　３号集石(西から)
2　４号集石(西から)
3　５号集石(西から)
4　６号集石(南から)
5　119号土坑(西から)
6　119号土坑土層断面(西から)
7　120号土坑(北から)
8　120号土坑土層断面(南から)
PL. 18
1　136号土坑(南から)
2　136号土坑土層断面・遺物出土状況(南から)
3　137号土坑(東から)
4　137号土坑土層断面(東から)
5　138号土坑(南から)
6　138号土坑上層土層断面(南から)
7　138号土坑礫群検出状況(南から)
8　138号土坑底部(西から)
PL. 19
1　285号ピット(西から)
2　286号ピット(西から)
3　287号ピット(西から)
4　288号ピット(西から)
5　289号ピット(西から)
6　290号ピット(西から)
7　291号ピット(西から)
8　292号ピット(西から)
9　293号ピット(西から)
10　334号ピット(南から)
11　335号ピット(南から)
12　336号ピット(南から)
13　337号ピット(南から)
14　338号ピット(南から)
PL. 20
出土遺物１
PL. 21
出土遺物２

第１章　調査経過と調査の方法

第１節　調査に至る経緯

本書は、(一)南新井前橋線(２期工区)道路改築事業(地方道・連携)に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査の調査成果を報告するものである。

群馬県道161号南新井前橋線（以下本路線）は群馬県北群馬郡榛東村大字新井字雛子を起点とし、同郡吉岡町大字陣場地内、前橋市池端町地内を経由して同市川端町に至り一般国道17号上武道路に接する幹線道路である。本路線は高速自動車国道関越自動車道新潟線、一般国道17号上武道路、群馬県道25号高崎渋川線バイパス等の主要幹線道路を東西に結ぶ幹線道路として産業、経済、観光、社会、文化及び生活における重要な機能を担っている。本路線内には群馬県道路構造条例に定められた車線幅員を満たしていない区間や歩道の幅員が１ｍと狭小な箇所があるなど、生活道路としての危険性が指摘されるほか、渋滞により幹線道路としての機能が発揮されないなどの現状が指摘されていた。こうした状況を改善し、安全かつ円滑な自動車交通の確保と駒寄スマートインターチェンジへの交通アクセスの向上を主な目的として、一般県道南新井前橋線バイパスが整備されることとなった。この北群馬郡榛東村大字新井字雛子地内から同郡吉岡町大字大久保字片貝地内までの延長2,804ｍ区間のバイパス整備事業の２期工区（延長1.1㎞）が本発掘調査の起因事業である。一般県道南新井前橋線（２期工区）バイパス整備事業は平成24年度から令和３年度までの10年間を事業期間として着手され、令和３年10月１日をもって全線開通を迎えた。

本路線の中でも２期工区は前橋市0107遺跡及び中御所遺跡として周知される埋蔵文化財包蔵地内に位置することから、事前の試掘・確認調査が必要と判断され、平成27年度より群馬県教育委員会文化財保護課による試掘・確認調査が行われることとなった。当時の試掘・確認調査から本調査に至る経緯については「公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『前橋市0107遺跡』」に詳しい。以後試掘・確認調査とこれに伴う本調査は数次に分けて実施され、前述の『前橋市0107遺跡』のほか「公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『中御所遺跡』」として既に刊行されている。令和元年度にいたり、群馬県地域創生部文化財保護課(以下保護課)による試掘・確認調査が令和元年７月11日に前橋市池端町地内で実施された。幅１ｍのトレンチ３か所が設定され、地層の堆積状況と遺構・遺物の埋蔵状況の確認がなされ、土坑と溝が検出されたことから本調査が必要と判断された。この試掘・確認調査の結果を踏まえて、群馬県前橋土木事務所と保護課による調整が行われ、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団により本調査が行われることとなった。発掘調査は令和２年度と令和３年度の二次にわたり行われることとなり、令和２年８月１日～令和２年９月30日及び令和３年４月１日～令和３年５月31日を調査期間として発掘調査を行うこととなった。

第２節　調査の経過と方法

発掘調査は令和２年度と令和３年度に実施された。

令和２年度の発掘調査は群馬県前橋土木事務所を事業主体とし、令和２年８月１日～令和２年９月30日に実施された。調査対象地(以下用地)は平成30年12月に発掘調査が実施された前橋市0107遺跡２区に接した位置にあたることから３区として発掘調査を行うこととなった。同年８月１日から調査区整備や表土掘削等の作業を開始し、用地内で確認された埋蔵文化財の記録保存調査を行い、同年９月30日までに埋戻し及びプレハブ事務所撤去等の作業を完了し、同日付けで群馬県前橋警察署に埋蔵物発見届を提出し、発掘調査を終了した。

今回の用地を一括して３区としたが、令和２年度の調査対象地が３区の東西に離れて位置することから、それぞれ３区西、３区東と呼称した。保護課による試掘・確認調査により50㎝前後の表土の堆積が確認されていたことから建設機械による表土掘削を行った。調査区や周辺の道路が狭小のため、掘削した表土は用地内に集積した。なお、調査中は排土にブルーシートを被覆し、保全した。遺構確認及び遺構調査は作業員による人力掘削による。

（国土地理院20万分の１地勢図「長野」「宇都宮」を編集、加工。）

第１図　遺跡の所在

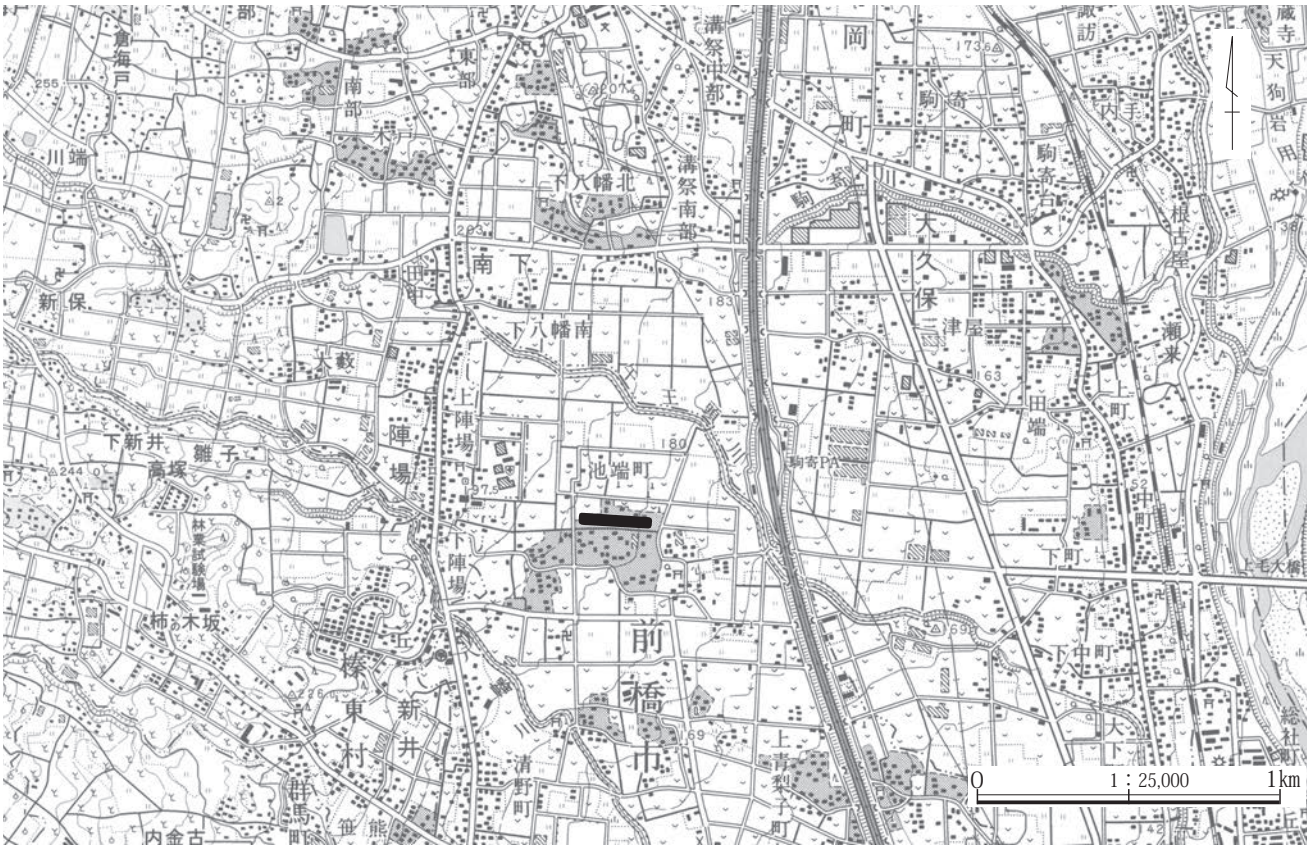
３区東及び３区西の両調査区とも２面の遺構確認面が認められたため、各面での調査を実施した。遺構面は部分的に削平、攪乱を受けていることから、上層の遺構が下層の遺構面で認められる場合もあり、確認面が遺構の時期を限定しない例も存在した。なお、遺構番号はこれまでの調査と齟齬が生じないように個々の遺構種ごとの連番とし、踏襲した。

令和３年度の発掘調査は群馬県前橋土木事務所を事業主体とし、令和３年４月１日～令和３年５月31日に実施された。調査地点が令和２年度に発掘調査を実施した前橋市0107遺跡３区の中央部分に存在することから、３区中央と呼称し発掘調査を行った。４月１日から調査区整備や表土掘削等の作業を開始し、用地内で確認された埋蔵文化財の記録保存調査を行い、５月31日までに埋戻し及びプレハブ事務所撤去等の作業を完了し、同日付けで群馬県前橋警察署に埋蔵物発見届を提出し、発掘調査を終了した。

令和２年度は用地の東西２区画を対象に発掘調査を実施しており、令和３年度はその東西の調査区に挟まれた場所を調査対象とすることから、調査区を３区中央区とし、住民生活道路を境にして３区中央東調査区と３区中央西調査区とに区分けし調査を進めた。試掘・確認調査と前年度の発掘調査を踏まえ、表土掘削には建設機械を用いた。前回同様調査区や周辺道路が狭小のため、掘削した表土は用地内に集積した。排土は前年度調査の３区東調査区に置き、飛散流出対策を施した。遺構確認及び遺構調査に際しては作業員によるジョレンを用いた人力掘削により調査を進めた。

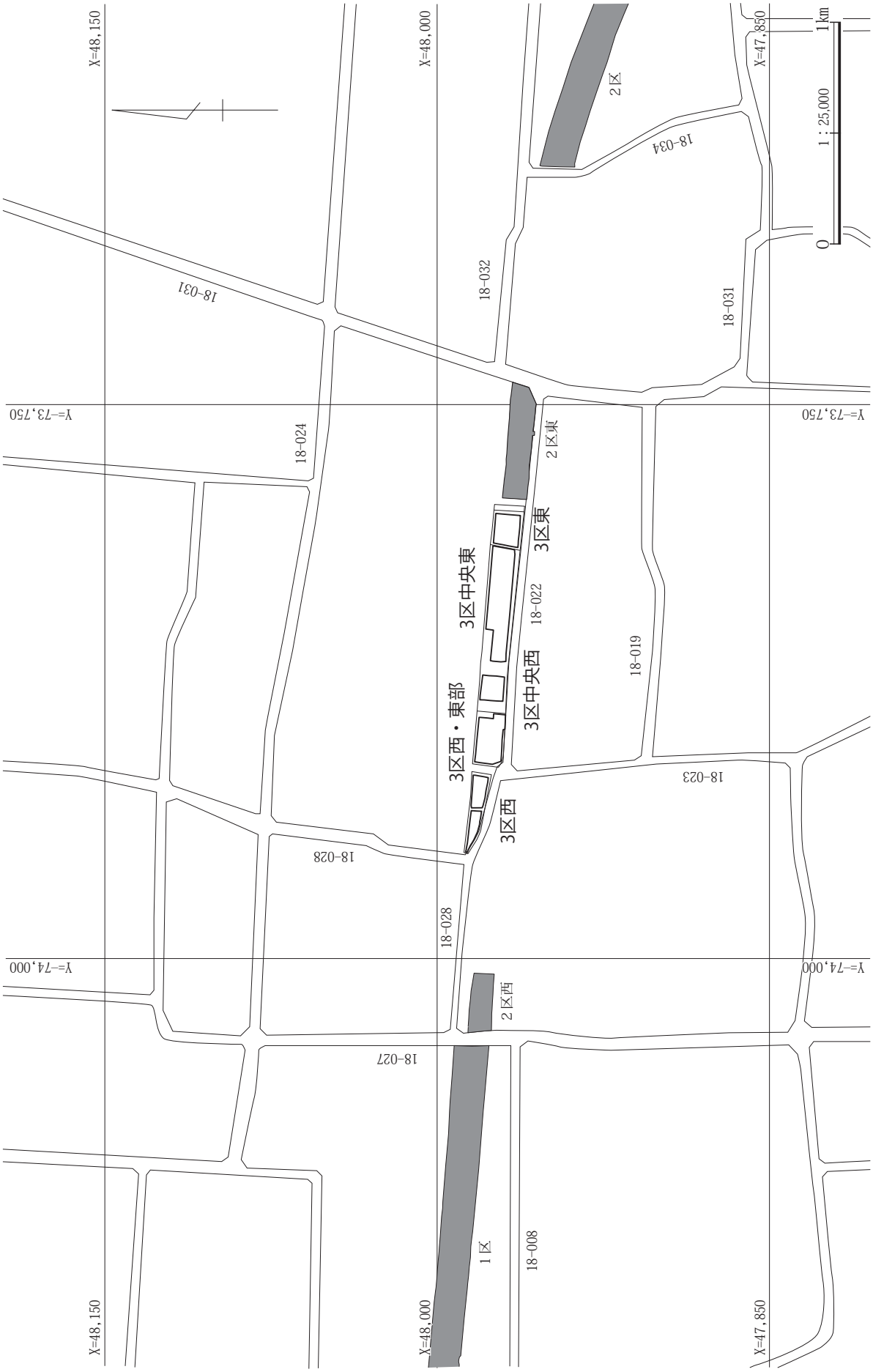
３区中央東及び３区中央西の両調査区とも２面の遺構確認面が認められたため、各面での調査を実施した。遺構面は部分的に削平、攪乱を受けていることから、上層の遺構が下層の遺構面で認められる場合もあり、確認面が遺構の時期を限定しない例も含まれるのは前年と同様であった。なお遺構番号については前年と同様に個々の遺構種ごとの連番とし、踏襲した。

なお両年度とも、遺構の観察・記録、写真撮影等は発掘調査担当者が行い、各遺構の図化は測量会社への測量委託とした。遺構写真の撮影に際しては2020万画素の一眼レフ・デジタルカメラと６×７判の一眼レフ・フィルムカメラを使用した。



（国土地理院２万５千分の１「伊香保」「渋川」を編集、加工。）

第２図　調査区位置図



（公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『前橋市0107遺跡』第２図を加工。）

第３図　調査区設定

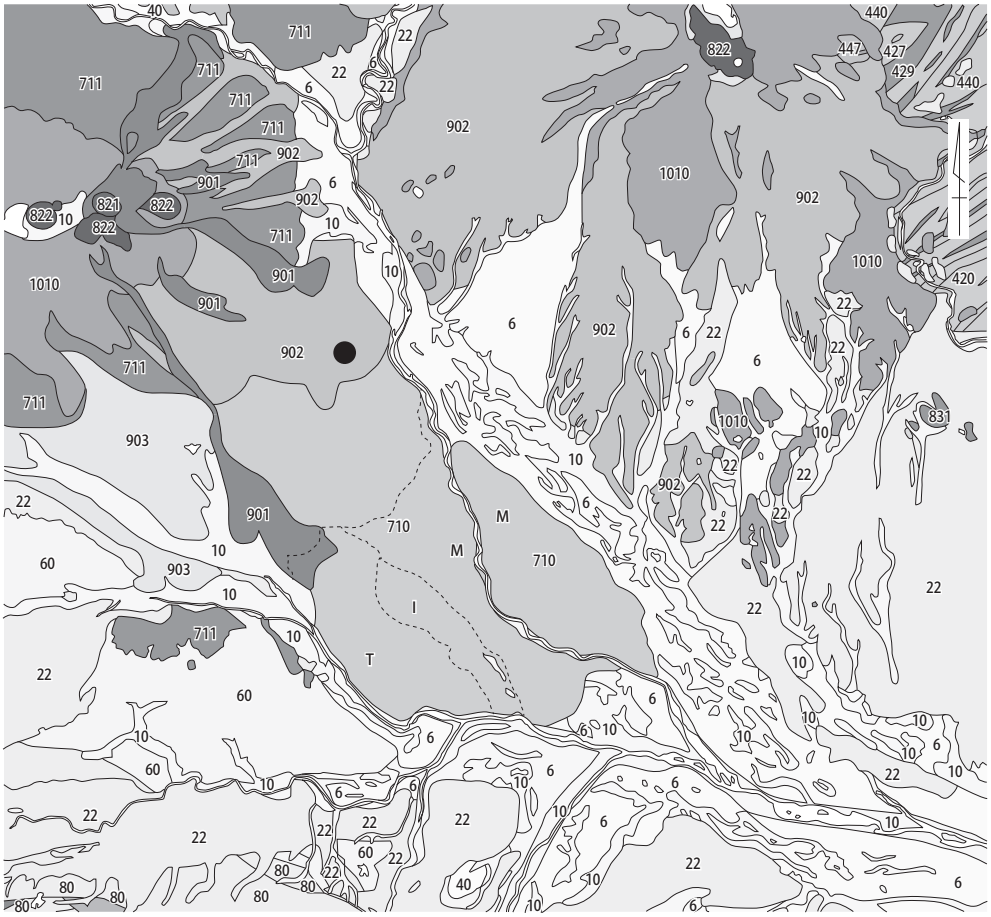
第２章　周辺の環境

第１節　地理的環境

前橋市0107遺跡（以下本遺跡）は群馬県前橋市池端町に所在する。池端町は、群馬県の中南部に位置し、赤城山から関東平野北西端にかけて広がる前橋市の西端に位置する。北に北群馬郡吉岡町、西に同郡榛東村、南に高崎市が位置し、四つの自治体が近接する場所である。

前橋市は群馬県の中央付近に位置する。北は赤城山の山頂付近（標高1827mの黒檜山の南面）から、南は利根川河畔の下阿内町（標高64m）まで広がるが、市の中央部から南部にかけては海抜100m前後の関東平野の平坦地に立地する。明治14年に県庁所在地となり、明治22年に町制を施行、明治25年には市制に移行している。また明治34年以来近接町村との合併により市域を拡大させてきたが、平成16年に東に隣接する大胡町・宮城村・粕川村、平成21年には北に隣接する富士見村と合併し今日に至っている。

前橋市にはかつて路面電車が活躍していた時期もあるが、現在稼働している鉄路は次の３系統である。前橋市の南部を東西に横切る両毛線（前橋市新前橋駅－栃木県小山駅）、西部を南北に走る上越線（高崎市高崎駅－新潟県宮内駅）のほか、前橋市と東の桐生市を結ぶ上毛電鉄（中央前橋駅－西桐生駅）の３系統である。また主要交通路としては従来から、東京都日本橋を起点とし新潟県新潟市に至る一般国道17号と、前橋市を起点とし茨城県水



6　後期更新世-完新世(H)の自然堤防(含：浜堤)堆積物
10　後期更新世-完新世(H)の海成または非海成堆積岩類
22　後期更新世(Q3)の低位段丘堆積物
40　前期更新世(Q1)の海成または非海成堆積岩類
60　中-後期中新世(N2)の海成または非海成堆積岩類
80　前期中新世-中期中新世(N1)の海成または非海成堆積岩類
420　前-中期ジュラ紀(J1-2)の付加コンプレックスの基質
427　前-中期ジュラ紀(J1-2)の付加コンプレックスの玄武岩ブロック(石炭紀-ペルム紀)
429　前-中期ジュラ紀(J1-2)の付加コンプレックスのチャートブロック(石炭紀-後期三畳紀)
440　中-後期ジュラ紀(J2-3)の付加コンプレックスの基質
447　中-後期ジュラ紀(J2-3)の付加コンプレックスの玄武岩ブロック(石炭紀-ペルム紀)
710　第四紀(Q)の火山岩屑
711　完新世(H)の火山岩屑
821　完新世(H)の非アルカリ珪長質火山岩類
822　後期更新世(Q3)の非アルカリ珪長質火山岩類
831　暁新世-前期始新世(PG1)の非アルカリ珪長質火山岩類
901　完新世(H)の火山岩類(非アルカリ火砕流)
902　後期更新世(Q3)の火山岩類(非アルカリ火砕流)
903　中期更新世(Q2)の火山岩類(非アルカリ火砕流)
1010　中期更新世(Q2)の非アルカリの苦鉄質火山岩類

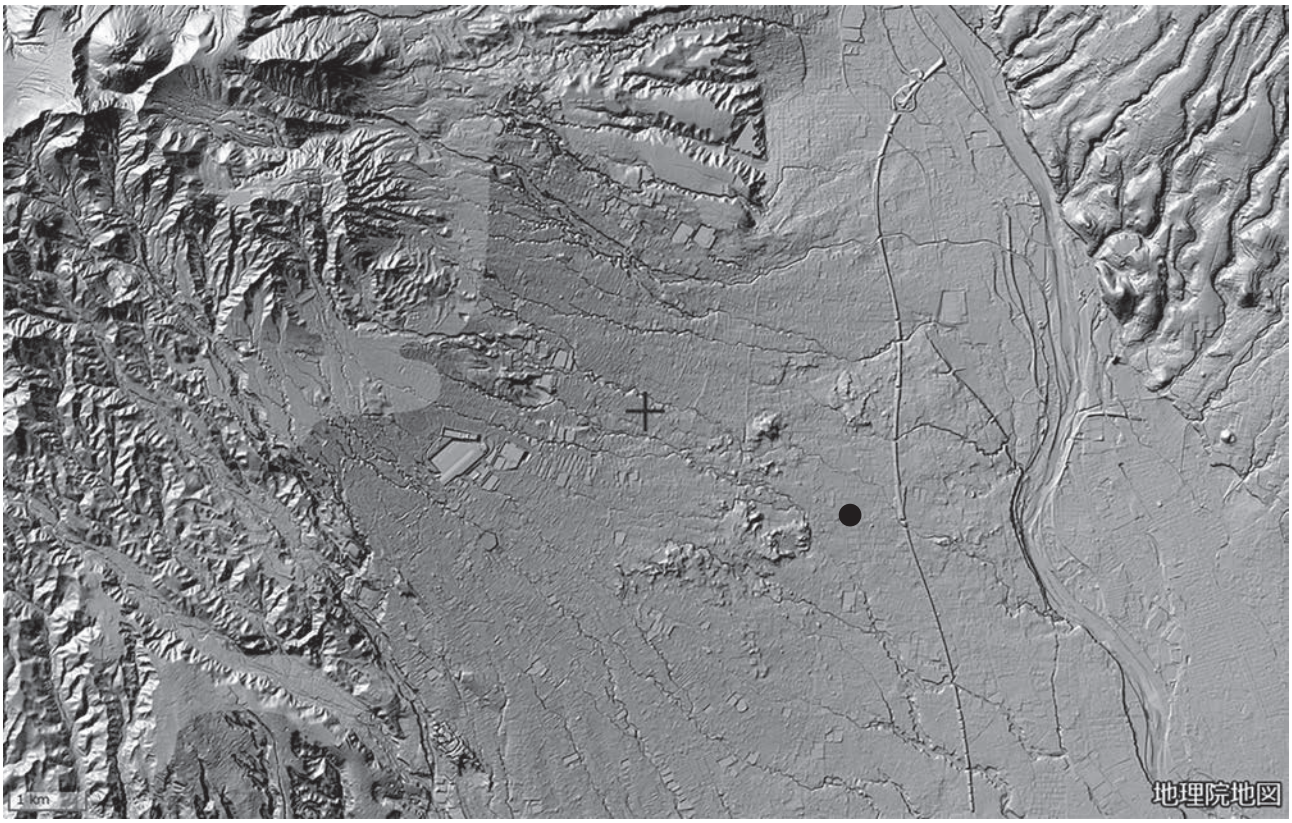
（産業技術総合研究所地質調査総合センター『20万分の１日本シームレス地質図』2014年１月14日版、産業技術総合研究所地質調査総合センター、国土地理院「地形地域区分図」『土地条件調査解説書「前橋及び高崎地区」』国土地理院2010年11月を編集、加工。）

上図の破線で加筆した前橋台地（M）、高崎台地（T）、井野川低地（Ｉ）の各領域は国土地理院の土地条件調査解説書「前橋及び高崎地区」2010によった。なお元図は「前橋高崎台地」とし両者を分けていない為、井野川低地から井野川沿いに上流に向け境界線を設定した。

第４図　遺跡周辺地質図

戸市に至る一般国道50号が存在している。国道17号はかつての五街道の一つである中山道とこれから分岐し北上する三国街道を継承する路線でもある。また南北のアクセス向上のため、国道17号のバイパスとして埼玉県熊谷市と前橋市田口町をつなぐ一般国道17号上武道路が整備され、また高崎市と茨城県ひたちなか市を結ぶ高速自動車国道北関東自動車道も開通したことにより、東西のアクセスも改善されている。

赤城山とその麓を流れる利根川に囲まれた前橋市の地形は北から「赤城火山斜面・赤城南麓斜面」、「広瀬川低地面・広瀬川低地帯」、「前橋台地面」と呼び分けられている。赤城山は底面の径約35×22㎞の大型の成層火山であり、国土地理院により「日本の典型地形」の一つとして紹介されている。これによると、赤城山のもつ長大な裾野は、火山麓扇状地、岩屑なだれ堆積面、火砕流堆積面から構成されており、北麓から西麓にかけては火山麓扇状地が広く展開し、南麓には火砕流台地と泥流丘が存在する。約50～40万年前から始まったとされる赤城山の活動は、古期成層火山形成期、新期成層火山形成期、中央火口丘形成期の三期に区分されている。古期成層火山形成期の岩屑なだれ堆積面は、約20万年前に発生した山体崩落による大規模な岩屑なだれであり、南西麓及び南東麓から東麓に痕跡が残される。岩屑なだれ堆積物としては南東麓の梨木泥流が著名である。また南麓の火砕流台地は新期成層火山形成期の火砕流によるものとされ、大胡火砕流が知られている。大胡火砕流は約7.5万年前の鍋割山の噴火によりもたらされたとされる。なお中央火口丘形成期以降は浸食作用により土砂が山麓に堆積し、扇状地が形成されている。赤城山は標高500m付近を境に山地斜面の傾斜が急変し、これより低いところでは緩やかな山麓となっている。この赤城南麓斜面は赤城白川、藤沢川、寺沢川、荒砥川、神沢川、粕川などの河川が放射状に流下して丘陵地形を侵食し、西南麓から東南麓にかけて白川扇状地、荒砥川扇状地、粕川扇状地などが形成されている。台地を下刻する河川や湧水などにより丘陵部は樹枝状に開析され、台地と低地が複雑に入り組む起伏にとんだ地形となっている。赤城南麓斜面の南端は、旧利根川により削られ、そうして形成され



（国土地理院ウェブサイト「https://maps.gsi.go.jp/#13/36.440964/138.979368/&base=std&ls=std%7Chillshademap&blend=0&disp=11&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1」陰影起伏図を加工。）

第５図　遺跡周辺の地形（広域）

た広瀬川低地帯との境には比高数mから10m程度の崖線が形成されている。

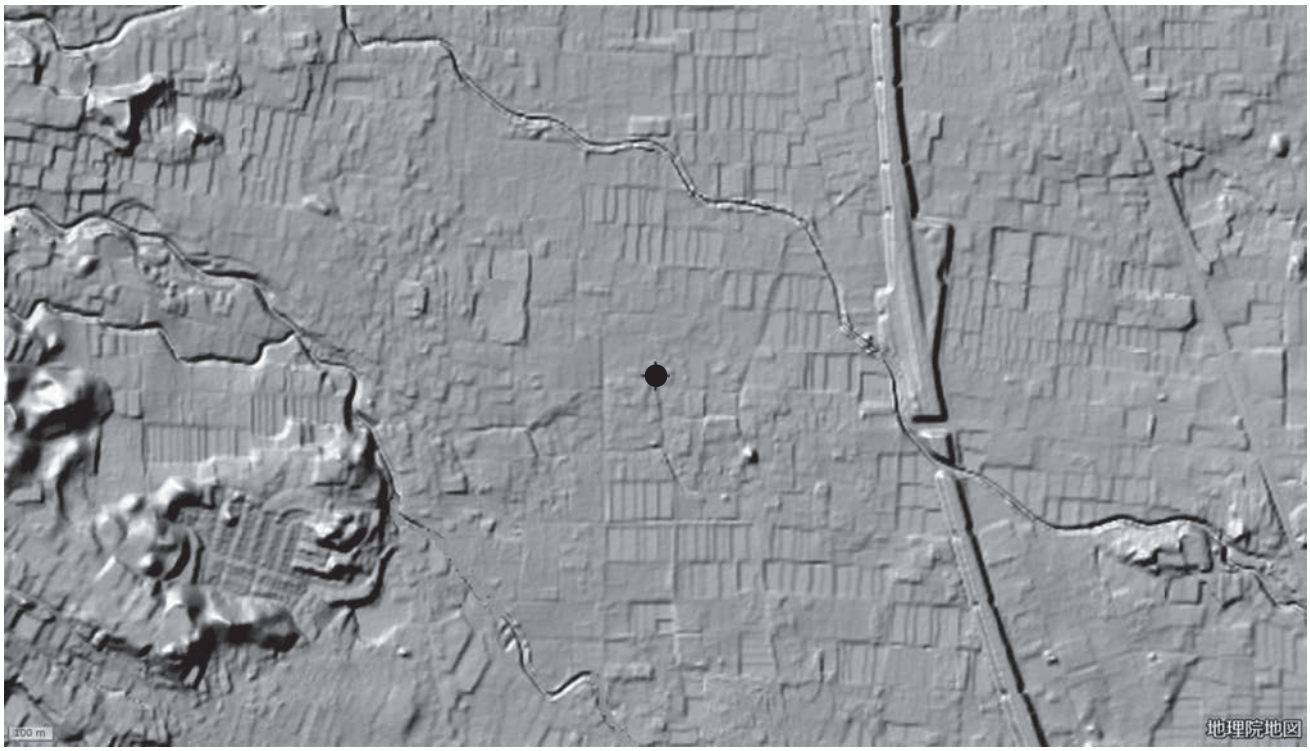
広瀬川低地帯は赤城山南麓崖線と前橋台地の北東側崖線に挟まれた、幅３km程度の地溝状の低地部である。現在の利根川は前橋台地を貫通して流れているが、かつては赤城山麓沿いに流れていたと考えられ、この時の氾濫原が広瀬川低地帯を生じさせたとされる。利根川の川筋は何度か流れを変えたとされるが、約２万年前に発生した榛名山相馬山溶岩ドーム起源の陣場岩屑なだれにより、榛名山麓沿いを流れていた川筋が赤城山麓寄りに大きく押し出され、広瀬川低地帯を形成するに至ったと考えられている。広瀬川低地帯に現存する広瀬川や桃ノ木川が旧利根川の川筋のひとつであると想定されている。利根川が現在の流路に移った経緯については洪水により支流と本流が入れ替わったとする説が有力であるが、掘割や用水といった人為要素が導因となったという考え方も存在している。なお東遷していた利根川が西遷し現在の流れとなった時期については、概ね15～16世紀頃の出来事と考えられている。

前橋台地は前橋砂礫層と呼ばれる層厚200m以上の砂礫層の上に前橋泥流と呼ばれる岩屑なだれ堆積物が15～20mの厚さで堆積している。なお前橋泥流は浅間山の大規模山体崩壊に由来するとされ、その発生時期は一般に2.4万年前とされるが、平成26年に実施された前橋市での調査に基づき2.6万年前とする説もある。この榛名山と赤城山に挟まれ広がる前橋台地の、榛名山麓寄りの場所に本遺跡は位置している。

本遺跡の所在する池端町は、榛名山麓斜面から前橋台地面への移行部付近に位置し、標高は約180mほどである。池端町周辺の地形は、前述した相馬山付近を給源とする陣場岩屑なだれ堆積物とその後に河川堆積物が作りだした扇状地(相馬ケ原扇状地)となっており、比高数mから10mの流れ山地形なども存在する。榛名山東南麓は榛名山中を源流とする河川が南東方向に並走し、山麓に広がる台地を細長く区画している。本遺跡はこの扇状地を流れ利根川に注ぐ牛王頭川と八幡川に挟まれ、両河川の流れが東南東から南東に変わる一画に立地している。

第２節　歴史的環境

本遺跡の所在する前橋市池端町周辺の地理的環境・歴史的環境については末尾に付した参考資料に詳しい。本節では遺跡周辺の主な遺跡の分布図(第７図)と一覧表(第２－１表)を掲載し、当地域の概要を記載する。



(国土地理院ウェブサイト「https://maps.gsi.go.jp/#16/36.429673/139.008873/&base=std&ls=std%7Cslopemap%7Chillshademap&blend=00&disp=111&lcd=hillshademap&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1」陰影起伏図を加工。)

第６図　遺跡周辺の地形

旧石器時代

本遺跡の立地する相馬ケ原扇状地上の遺跡からは、旧石器についての報告はなされていない。

縄文時代

長谷津遺跡(95)から草創期の石器や早期の土器片が検出されているように、当該時期の遺物が検出されてはいるが、他遺跡を含めこの時期の遺構は報告されていない。遺構が検出されるのは前期からであり、環状石斧の出土した七日市遺跡(33)や十日市遺跡(67)から前期の集落が報告されている。中期になると清里・長久保遺跡(43)、長久保大畑遺跡(44)、沼南遺跡(39)、十二前遺跡(93)などから集落が検出されており、中でも十二前遺跡は加曽利Ｅ３式期の大集落とされる。後期から晩期にかけては、配石墓群が検出された下新井遺跡(92)が存在し、石棒や土製耳飾、木菟土偶などが出土している。また図外の遺跡ではあるが、多量の岩版や土製耳飾が出土した榛東村茅野遺跡など、当時の心的世界への手掛かりとなる史料が得られている。十二前遺跡や長谷津遺跡からも後晩期の良好な史料が出土するなど、榛名山東南麓は中期から晩期にかけて隆盛を迎えたとされる。

弥生時代

当期の遺跡はそれほど多くはないが、清里・庚申塚遺跡(108)からは環濠集落が報告されている。長久保大畑遺跡から溝が検出されているほか、乙溝祭遺跡(16)、前橋市0112遺跡(107)などでは土器片が確認されている。水利に適した利根川流域の低地部に生活の拠点が移動したとされる。

古墳時代

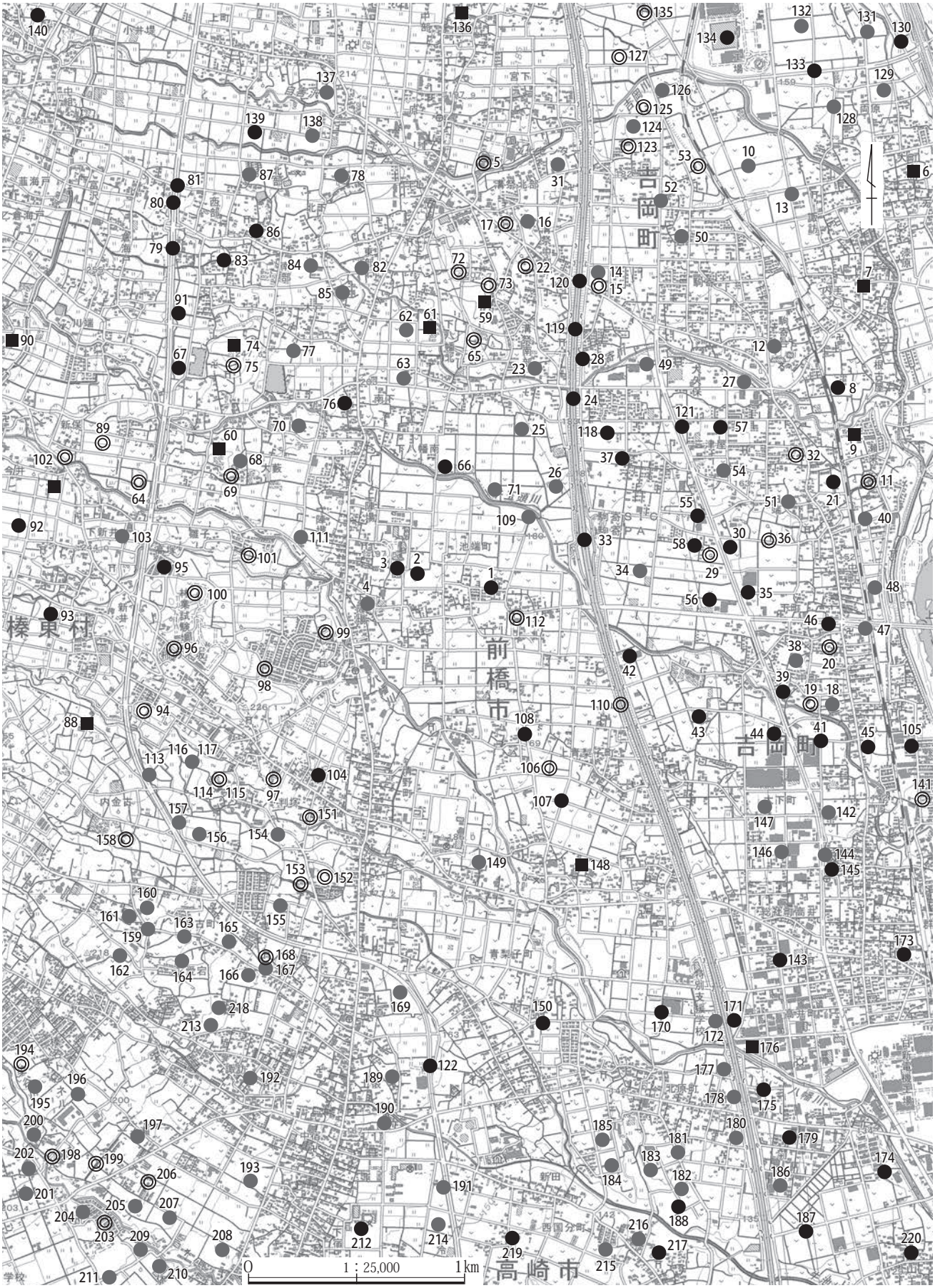
当期になると遺跡の数が急増する。榛名山東南麓の古墳群としては保渡田古墳群や総社古墳群が著名であるが、池端町周辺にも多くの古墳が存在する。６世紀中頃の構築とされる高塚古墳(100)、６世紀後半とされる大藪城古墳(74)、６世紀末とされる柿木坂古墳(96)、７世紀後半の構築とされる八角墳の三津屋古墳(32)や７世紀初頭から末にかけて構築された長久保古墳群(99)など、６世紀後半から７世紀末にかけて多くの古墳が築造されている。中御所遺跡(３)からはHr-FAに覆われた道が検出されており、長久保古墳群との関連も指摘されている。また、この時期の集落と考えられている遺跡としては、本遺跡のほかに上ノ原遺跡(８)、清里・長久保遺跡、宮前遺跡(24)、金竹西遺跡(35)、女塚遺跡(37)、熊野遺跡(55)、片貝遺跡(56)、本宿遺跡(57)、長谷津遺跡などがあげられる。このほか長谷津遺跡では畑、善徳遺跡(41)では水田につながると予想される水路が検出されている。

奈良・平安時代

藤原宮跡出土の「上毛野国車評桃井里大贄鮎」木簡に明らかなように、国郡里制や郷里制が施行される時代背景の中、大規模な集落が形成されたと考えられている。宮遺跡(28)、七日市遺跡、清里・陣場遺跡(２)、金竹西遺跡、熊野遺跡、御堀遺跡(90)、倉海戸遺跡(91)などがそうした遺跡である。中でも御堀遺跡は桃井城(90)とも重複する遺跡であり、後代に桃井氏の拠点へと育ってゆく場所と考えられている。また桃井城の南東に位置する清里・陣馬遺跡からは多量の灰釉陶器や緑釉陶器、海老錠、丸鞆のほか製鉄関連遺物も出土しており、有力者層の存在が予想されている。

中近世

鎌倉時代になると榛東村山子田付近を中核として桃井荘が整備され、桃井氏の拠点として発展したと考えられている。この拠点防衛を担った遺構が御堀遺跡の桃井城と大藪遺跡(74)の桃井城(74)とされる。御堀遺跡の桃井城は桃井西城、大藪遺跡の桃井城は桃井東城とも呼ばれ別城一郭の備えとされる。15世紀に端を発し、16世紀後半の関東全域が戦場と化す時流によるものか、交通の要衝でもある池端町周辺には漆原城(７)、瀬来城(９)、大林山城(59)、上八幡の砦(60)、桃井東城、桃井西城の６城が存在する。また長塩屋敷(６)、桃井館(61)、金井屋敷(88)の３館の存在も伝えられる。なかでも桃井館は御堀遺跡と共に、桃井氏の居館であったと想定されている。このほか南東にやや離れるが、青梨子砦(148)、桧田城(176)、図外になるが桧田城の主城であった勝山城などが知られる。なお16世紀後半には武田氏の領地であった遺跡周辺の地は、織田領、北条領と変遷し、天正18(1590)年の豊臣秀吉による小田原征伐以降は徳川氏の領域となり江戸時代を迎えることとなる。因みに武田勢により落城し北条氏により領有されていた勝山城の一部を取り込み、徳川家家臣の秋元長朝により17世紀初頭に総社城が築城されている。



（国土地理院２万５千分の１地形図「伊香保」「渋川」「下室田」「前橋」を編集、加工。）

●集落　◎古墳　■城館　●散布地

第７図　周辺の遺跡

参考資料
前橋市史編さん委員会1971『前橋市史　第１巻』前橋市
吉岡村誌編纂室1980「村の風土、原始社会、封建社会」『吉岡村誌』吉岡町教育委員会pp.３-304
飯森康広1998「第３章　地理的環境と歴史的環境」『冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.９-19
瀧野巧2005「Ⅱ　遺跡の位置と周辺の遺跡」『中御所Ⅱ遺跡』吉岡町教育委員会pp.１-３
須田正久2012「第２章　地理的環境と歴史的環境」『長谷津遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.６-11
須田正久2013「第２章　地理的環境と歴史的環境」『十日市遺跡・住遺跡・千代開南遺跡・千代開北遺跡・舞台遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.６-12
山中豊2021「第２章　遺跡の環境」『前橋市0107遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.４-９

第２－１表　　遺跡一覧表

	遺跡名	所 在 地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備　考	資　料
1	前橋市0107遺跡	前橋市池端町	○			○	○	○		集落	古墳後期集落、平安集落、中近世井戸、土坑、溝。	
2	清里・陣場遺跡	北群馬郡吉岡町陣場、前橋市池端町	○				○			集落	平安集落、中世井戸。製鉄関連遺物、海老錠、銙帯。	7
3	中御所遺跡	北群馬郡吉岡町陣場中御所			○		○	○		集落	平安集落、古墳道。	7,97,98
4	南御所遺跡	北群馬郡吉岡町陣場南御所					○			散布地		
5	滝沢古墳	北群馬郡吉岡町下野田宮下			○					古墳		85
6	長塩屋敷	北群馬郡吉岡町漆原十二廻						○		城館	16C	2,108
7	漆原城	北群馬郡吉岡町漆原元屋敷						○		城館	16C	2,108
8	上ノ原遺跡	北群馬郡吉岡町漆原上ノ原	○		○	○	○			散布地,集落	古墳～平安集落。	84
9	瀬来遺跡・瀬来城	北群馬郡吉岡町漆原瀬来	○		○			○		集落,城館	16C	2,108
10	赤岩遺跡	北群馬郡吉岡町漆原赤岩				○	○			散布地		
11	川原田古墳	北群馬郡吉岡町漆原川原田			○					古墳		
12	茶ノ木遺跡	北群馬郡吉岡町漆原茶ノ木	○				○			散布地		
13	並木遺跡	北群馬郡吉岡町漆原平原			○		○			散布地		
14	十石塚遺跡	北群馬郡吉岡町大久保(十石塚)	○				○			散布地		
15	十石塚古墳	北群馬郡吉岡町大久保(十石塚)			○					古墳	円墳。	
16	乙溝祭遺跡	北群馬郡吉岡町大久保乙溝祭		○						散布地		
17	穴薬師古墳	北群馬郡吉岡町大久保乙溝祭			○					古墳		
18	下中町遺跡	北群馬郡吉岡町大久保下中町	○				○			散布地		
19	沼古墳	北群馬郡吉岡町大久保下中町			○					古墳		
20	下町古墳	北群馬郡吉岡町大久保下町			○					古墳		
21	久保田遺跡	北群馬郡吉岡町大久保久保田			○	○				散布地,集落,古墳	平成３年吉岡町教委調査(久保田古墳、久保田遺跡)。	
22	宮後古墳	北群馬郡吉岡町大久保宮後			○					古墳		
23	宮西遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮西			○	○	○			散布地,集落	奈良平安集落。	106
24	宮前遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮前	○		○	○	○			散布地,集落	古墳～平安集落。	107
25	高縄遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮前	○		○	○	○			散布地		
26	新保分遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮前				○	○			散布地		
27	宮田遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮田	○			○	○			散布地		
28	宮遺跡	北群馬郡吉岡町大久保宮東	○		○	○	○			散布地,集落		5,85
29	源平山古墳	北群馬郡吉岡町大久保熊野			○					古墳	山寄せ円墳。	

	遺跡名	所 在 地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備　　考	資　　料
30	十二遺跡	北群馬郡吉岡町大久保熊野			○	○	○			散布地,集落	熊野・辺玉遺跡、熊野Ⅰ遺跡。	92
31	甲溝祭遺跡	北群馬郡吉岡町大久保甲溝祭			○		○			散布地		
32	三津屋古墳	北群馬郡吉岡町大久保字三津屋			○					古墳	７世紀後半山寄せ式八角形墳。	103,104
33	七日市遺跡	北群馬郡吉岡町大久保七日市	○			○	○	○	○	散布地,集落	縄文前期後半集落、環状石斧、古墳～平安集落。	85,99
34	七日市東遺跡	北群馬郡吉岡町大久保七日市					○			散布地		
35	金竹西遺跡	北群馬郡吉岡町大久保十二	○		○	○	○			散布地,集落	古墳・平安集落、刻書紡錘車、緑釉。	89
36	十二古墳	北群馬郡吉岡町大久保十二			○					古墳		
37	女塚遺跡	北群馬郡吉岡町大久保女塚				○	○			散布地,集落	奈良～平安集落。	85
38	沼遺跡	北群馬郡吉岡町大久保沼	○		○		○			散布地		
39	沼南遺跡	北群馬郡吉岡町大久保沼	○		○		○		○	散布地,集落	縄文中期中葉集落、前期中期土坑、平安集落。	17
40	川原田不動北遺跡	北群馬郡吉岡町大久保上町	○			○	○			散布地		
41	善徳遺跡	北群馬郡吉岡町大久保善徳	○		○		○			散布地,集落,水田	縄文土坑、Hr-FA下水路、平安集落、As-B下水田。	94
42	長久保遺跡	北群馬郡吉岡町大久保善徳	○				○			散布地		8,102
43	清里・長久保遺跡	北群馬郡吉岡町大久保善徳、前橋市池端町	○		○		○			散布地,集落,古墳	縄文中期集落、古墳、古墳畑。平安集落。	8,102
44	長久保大畑遺跡	北群馬郡吉岡町大久保	○		○		○	○		集落	縄文集石、配石、列石、古墳、平安集落、中世集落。	15,96
45	大下遺跡	北群馬郡吉岡町大久保大下	○			○	○			散布地,集落	縄文土坑、古墳溝、奈良集落、平安道。	86
46	中町遺跡	北群馬郡吉岡町大久保中町				○	○		○	散布地,集落		90
47	大泉寺東遺跡	北群馬郡吉岡町大久保中町				○	○			散布地		
48	上町遺跡	北群馬郡吉岡町大久保中町	○		○	○	○			散布地		
49	中島遺跡	北群馬郡吉岡町大久保中島	○							散布地		
50	頭梨子遺跡	北群馬郡吉岡町大久保長坂	○		○	○	○			散布地		
51	田端遺跡	北群馬郡吉岡町大久保田端	○			○	○			散布地		
52	久保平遺跡	北群馬郡吉岡町大久保東原	○		○	○	○			散布地		
53	東原01～04号古墳	北群馬郡吉岡町大久保東原			○					古墳		
54	不動久保遺跡	北群馬郡吉岡町大久保不動久保					○			散布地		
55	熊野遺跡	北群馬郡吉岡町大久保不動久保	○		○	○	○			散布地,集落	五領ケ台、十三菩提、古墳・奈良・平安集落。	91,92
56	片貝遺跡	北群馬郡吉岡町大久保片貝	○		○	○	○			散布地,集落	奈良・平安集落。	88
57	本宿遺跡	北群馬郡吉岡町大久保辺玉	○		○	○	○			散布地,集落,古墳	古墳集落。オトカ山古墳。	101
58	熊野Ⅳ遺跡	北群馬郡吉岡町大久保熊野			○	○	○			散布地,集落,古墳	Ｈ25年吉岡町教委試掘調査。	
59	大林山城	北群馬郡吉岡町南下大林						○		城館		2,108
60	上八幡の砦	北群馬郡吉岡町南下大藪、上八幡						○		城館		2
61	桃井館	北群馬郡吉岡町南下下八幡						○		城館	南北朝。	2,108
62	下八幡Ⅰ遺跡	北群馬郡吉岡町南下下八幡				○	○	○		散布地		
63	下八幡Ⅱ遺跡	北群馬郡吉岡町南下下八幡				○	○			散布地	桃井塚。	
64	丸山01～02号古墳	北群馬郡吉岡町南下丸山			○					古墳		

	遺跡名	所 在 地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備　　考	資　　料
65	南下古墳群	北群馬郡吉岡町南下宮代			○					古墳	円墳。明治村50,54、南下A～E、丸山1,2、上八幡１～４、大林１～３号墳、大薮八幡古墳、宮代古墳。	105
66	下八幡南遺跡	北群馬郡吉岡町南下三疋				○	○			散布地,集落	奈良平安集落。	93
67	十日市遺跡	北群馬郡吉岡町南下十日市	○				○	○		集落	縄文前期集落、奈良平安集落、中世掘立、墓。十日市地区平安多し、大薮地区縄文多し。	12
68	上八幡遺跡	北群馬郡吉岡町南下上八幡					○			散布地		
69	上八幡01～04号古墳	北群馬郡吉岡町南下上八幡			○					古墳		
70	小蓋遺跡	北群馬郡吉岡町南下上八幡				○	○			散布地		
71	川子遺跡	北群馬郡吉岡町南下川子			○	○	○			散布地		
72	大林02号古墳	北群馬郡吉岡町南下大林			○					古墳		
73	大林03号古墳	北群馬郡吉岡町南下大林			○					古墳		
74	大薮遺跡	北群馬郡吉岡町南下大薮	○		○			○		散布地,古墳,城館	中世城郭。大薮城・桃井城・桃井東城、大薮遺跡、大薮城山古墳・大薮城古墳(前方後円墳)	2,87,108
75	大薮八幡古墳	北群馬郡吉岡町南下大薮			○					古墳		
76	長山遺跡	北群馬郡吉岡町南下長山					○			散布地,集落	平安集落。平成７年吉岡町教委調査。	
77	南下木戸遺跡	北群馬郡吉岡町南下木戸				○	○			散布地		
78	北発地岡遺跡	北群馬郡吉岡町北下久保	○							散布地		
79	住遺跡	北群馬郡吉岡町北下住					○	○		集落	平安集落、中世掘立、土坑、墓。	12
80	千代開南遺跡	北群馬郡吉岡町北下千代開					○	○		散布地,集落	平安集落、中世土坑。	12
81	千代開北遺跡	北群馬郡吉岡町北下千代開					○	○		散布地,集落	平安集落、中世土坑。	12
82	北下東原遺跡	北群馬郡吉岡町北下東原				○	○			散布地		
83	畑中・住遺跡	北群馬郡吉岡町北下畑中					○			散布地,集落	平安集落。	100
84	畑中東遺跡	北群馬郡吉岡町北下畑中	○				○			散布地		
85	北下藤塚遺跡	北群馬郡吉岡町北下畑中	○				○			散布地		
86	諏訪台遺跡	北群馬郡吉岡町北下麻草原	○				○			散布地,社寺	諏訪廃寺。	
87	東原田遺跡	北群馬郡吉岡町北下麻草原	○				○			散布地		
88	金井屋敷	北群馬郡榛東村広馬場						○		城館		2
89	庚申塚古墳	北群馬郡榛東村山子田			○					古墳	円墳。 上毛古墳総覧桃井村101号墳。	
90	御堀遺跡	北群馬郡榛東村山子田				○	○	○		集落,城館	中世城郭。御堀城・桃井城・桃井西城・山子田城。	2,35
91	倉海戸遺跡	北群馬郡榛東村山子田倉海戸					○			集落	平安集落。	36
92	下新井遺跡	北群馬郡榛東村新井	○				○			集落	縄文後期・晩期集落、墓域。耳飾、石核、木菟土偶、配石墓・石棺墓、敷石遺構。	34,38
93	十二前遺跡	北群馬郡榛東村新井	○							集落	新井十二前遺跡。縄文中期集落。	37
94	立畦古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	円墳。上毛古墳総覧桃井村14号墳。	
95	長谷津遺跡	北群馬郡榛東村新井	○		○	○		○	○	集落	縄文中期～後期集落、古墳集落、畑、奈良集落、中近世集落。	16
96	柿木坂古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	山寄せ式円墳。 上毛古墳総覧桃井村38号墳。	16
97	いなり山古墳	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	前方後円墳。判塚古墳群、 上毛古墳総覧桃井村３号墳。	

	遺跡名	所 在 地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備　　考	資　　料
98	北原古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	円墳。上毛古墳総覧23～25,66,70,71,140号墳。	
99	長久保古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	前方後円墳２基、円墳20基。	45
100	高塚古墳	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	前方後円墳、県指定。昭和34・35年群馬大学調査。	39
101	雛子古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	円墳。榛東村39号墳。	40
102	今井古墳群	北群馬郡榛東村新井			○			○		古墳,城館	円墳。上毛古墳総覧桃井村126号墳。今井屋敷。	
103	萱場遺跡	北群馬郡榛東村新井萱場	○			○	○			散布地	縄文中期。	
104	判塚遺跡	北群馬郡榛東村新井判塚					○			散布地		
105	前橋市0138遺跡	前橋市総社町植野桜ヶ丘団地	○	○		○	○	○		集落	総社桜ヶ丘遺跡,総社桜ヶ丘Ⅱ遺跡。西久保遺跡?	66,70,76,78
106	前橋市0886遺跡	前橋市上青梨子町			○					古墳	庚申塚1,2号墳。	8
107	前橋市0112遺跡	前橋市上青梨子町	○	○	○	○	○	○	○	散布地,集落,その他	H19,20,22前橋市教委試掘。中島遺跡、二彩陶器、巡方・鉈尾、硯、緑釉、刻字瓦、刻書土器。清里・庚申塚遺跡、薬師前遺跡、中島遺跡、中嶋Ⅱ遺跡。	6,67,68,69,81,82,83
108	清里・庚申塚遺跡	前橋市池端町、上青梨子町		○	○		○			集落,古墳	弥生中期後半環濠集落、古墳、平安時代集落。清里遺跡群庚申塚遺跡、庚申塚古墳。	6
109	前橋市0108遺跡	前橋市池端町				○	○	○		散布地		
110	前橋市0830遺跡	前橋市池端町			○					古墳	清里5,8,10号墳。	1,8
111	西原遺跡	北群馬郡吉岡町陣場西原					○			散布地		
112	前橋市0885遺跡	前橋市池端町屋敷小路			○					古墳	清里３号墳。	1
113	奈良平安№１遺跡	高崎市金古町内金古				○	○			散布地		
114	古墳№30遺跡	高崎市金古町内金古			○					散布地		
115	内金古古墳	高崎市金古町内金古			○					古墳	横穴式石室、円墳。	
116	縄文№１遺跡	高崎市金古町内金古	○							散布地		
117	内林遺跡	高崎市金古町内林	○							散布地		
118	道城遺跡	北群馬郡吉岡町大久保道城				○	○			散布地,集落	平成４年、平成10年調査。	95
119	大久保A遺跡	北群馬郡吉岡町大久保				○	○			集落		85
120	大久保Ｂ遺跡	北群馬郡吉岡町大久保				○	○			集落		5
121	辺玉遺跡	北群馬郡吉岡町大字大久保字辺玉				○	○			集落		92
122	金古北十三町遺跡	群馬郡群馬町金古				○	○	○		集落		3,18
123	溝祭木戸01～03古墳	北群馬郡吉岡町大久保木戸			○					古墳		
124	溝祭木戸遺跡	北群馬郡吉岡町大久保木戸	○		○	○	○			散布地		
125	大女古墳	北群馬郡吉岡町大久保大女			○					古墳		
126	大女遺跡	北群馬郡吉岡町大久保大女	○		○	○	○			散布地		
127	杉下古墳	北群馬郡吉岡町下野田杉下	○	○						散布地		
128	見丈遺跡	北群馬郡吉岡町漆原両原(見丈)					○			散布地		
129	山王遺跡	北群馬郡吉岡町大字漆原(字山王)					○			散布地		
130	阿久津、桑原田、中町遺跡	北群馬郡吉岡町漆原							○	火山災害遺跡	平成14年試掘調査。	

	遺跡名	所 在 地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備　　考	資　　料
131	観音遺跡	北群馬郡吉岡町漆原(観音)					○			散布地		
132	半田南原遺跡群	渋川市半田中原				○	○			散布地		
133	半田工業団地取付道路遺跡	渋川市半田南原					○			集落		31
134	半田中原・南原遺跡	渋川市半田中原	○	○	○	○	○			集落,古墳	1989～1991年市教委調査。奈良平安集落、818年噴砂。	32,33
135	藤塚古墳	北群馬郡吉岡町下野田杉下			○					古墳		
136	野田遺跡・内出遺跡	北群馬郡吉岡町下野田森下						○		城館	野田の内出。	
137	町南遺跡	北群馬郡吉岡町上野田町南	○							散布地		
138	石合遺跡	北群馬郡吉岡町北下石合	○							散布地		
139	舞台遺跡	北群馬郡吉岡町北下甲舞台	○				○			集落		
140	平石遺跡群	北群馬郡吉岡町上野田小井出	○		○		○			散布地		
141	前橋市0859遺跡	前橋市総社町植野稲荷			○					古墳	一本木塚古墳(総社13号墳、円墳)、植野薬師塚古墳(総社15号墳、円墳)、大神宮様古墳(総社14号墳、円墳)	1,46
142	新田入口遺跡	北群馬郡吉岡町大久保前原	○			○	○			散布地		
143	前橋市0114遺跡	前橋市高井町一丁目	○	○	○	○	○	○	○	散布地,集落,社寺,生産遺跡,その他	柿木遺跡、柿木Ⅱ遺跡、清里南部遺跡群(トウノコシ遺跡、下東西清水上遺跡、下東西遺跡)、総社植野北開土遺跡、膏薬遺跡、下東西遺跡、総社高井十郎遺跡、総社高井十郎Ⅱ遺跡、高井桃ノ木Ⅱ遺跡、高井桃ノ木Ⅲ遺跡。	9,10,11,27,30,43,47,48,49,51,79,80
144	新田入口南遺跡	北群馬郡吉岡町大久保新田入口				○	○			散布地		
145	前橋市0880遺跡	前橋市総社町植野			○			○	○	生産遺跡(水田)	総社植野北開土遺跡。	43
146	見柳東遺跡	北群馬郡吉岡町大久保見柳東	○			○	○			散布地		
147	前原遺跡	北群馬郡吉岡町大久保前原	○				○			散布地		
148	前橋市0113遺跡	前橋市清野町						○		城館	16C青梨子砦。	2
149	前橋市0926遺跡	前橋市清野町								散布地	前橋市教委分布調査。	
150	前橋市0117遺跡	前橋市青梨子町下東西	○		○	○	○	○	○	集落,生産遺跡	青梨子金古境遺跡、青梨子上屋敷遺跡、松ノ木遺跡、柳原遺跡、熊野谷遺跡、熊野谷Ⅱ遺跡、熊野谷Ⅲ遺跡、青梨子熊野前遺跡。	3,4,18,28,41,49,50
151	判塚古墳群	北群馬郡榛東村新井			○					古墳	判塚遺跡、観音山古墳(桃井村１号墳、円墳)、いなり山古墳(桃井村３号墳、前方後円墳)を含む。	
152	庚申古墳	高崎市金古町庚申			○					散布地,古墳,その他		
153	古墳№31遺跡	高崎市金古町内林			○					散布地,古墳	昭和48・49年度発掘調査。	
154	奈良平安№３遺跡	高崎市金古町内林				○	○			散布地		
155	奈良平安№４遺跡	高崎市金古町仲原				○	○			散布地		
156	奈良平安№２遺跡	高崎市金古町十二山				○	○			散布地		
157	縄文№３遺跡	高崎市金古町内林	○							散布地		
158	平塚古墳	高崎市金古町中原			○					散布地,古墳		
159	古墳№32遺跡	高崎市金古町無二名			○					散布地		
160	奈良平安№５遺跡	高崎市金古町無二名				○	○			散布地		

	遺跡名	所 在 地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備　　考	資　　料
161	縄文№５遺跡	高崎市金古町金井	○							散布地		
162	奈良平安№７遺跡	高崎市金古町無二名				○	○			散布地		
163	奈良平安№６遺跡	高崎市金古町無二名				○	○			散布地		
164	奈良平安№８遺跡	高崎市金古町無二名				○	○			散布地		
165	鎌倉室町№２遺跡	高崎市金古町愛宕						○	○	散布地		
166	奈良平安№９遺跡	高崎市金古町愛宕						○	○	散布地		
167	愛宕遺跡	高崎市金古町愛宕			○					散布地		
168	愛宕山古墳・古墳№33遺跡	高崎市金古町愛宕			○					散布地,古墳	愛宕山古墳(金古町９号墳、円墳)昭和38年度測量調査。	
169	奈良平安№27遺跡	高崎市金古町北十三町				○	○			散布地,その他	平成７年度調査。	
170	奈良平安№30遺跡	高崎市北原町弥後在家				○	○			散布地,集落,その他	北原遺跡。	20,21
171	弥生№１遺跡	高崎市北原町弥後在家774他		○						散布地	下東西遺跡。	9
172	鎌倉室町№３遺跡	高崎市北原町弥後在家７						○	○	散布地,その他	下東西遺跡。	9
173	前橋市0115遺跡	前橋市総社町植野			○		○			集落	若宮遺跡、植野小開土遺跡。	44
174	前橋市0118遺跡	前橋市総社町総社地内	○	○	○	○	○	○	○	集落,社寺,その他	北原分中塚遺跡、窪道遺跡、国分境Ⅱ遺跡、山王廃寺、総社観音沢遺跡、総社昌楽寺廻窪道遺跡、総社村東02遺跡、総社稲荷塚大道西遺跡。	13,29,46,52,53～64,65,67,71,73～75,77,81
175	古墳№57遺跡	高崎市北原町北下り845他			○					散布地,集落,古墳	北原遺跡。	21
176	前橋市0140遺跡	前橋市総社町高井桧田						○		城館	16C桧田城。	2
177	鎌倉室町№４遺跡	高崎市北原町北下り						○	○	散布地,その他	北原遺跡。	21
178	弥生№２遺跡	高崎市北原町北下り		○						散布地	北原遺跡。	21
179	奈良平安№31遺跡	高崎市北原町国分境				○	○			散布地,集落,水田	北原遺跡。	21
180	縄文№19遺跡	高崎市北原町村東	○							散布地	昭和55年度発掘調査。	
181	北原下屋敷	高崎市北原町下屋敷			○					散布地		
182	鎌倉室町№14遺跡	高崎市北原町ボックイ						○	○	散布地		
183	北原字下屋敷	高崎市北原町下屋敷	○							散布地		
184	鎌倉室町№13遺跡	高崎市西国分町向原						○	○	散布地		
185	縄文№17遺跡	高崎市西国分町向原	○							散布地		
186	縄文№18遺跡	高崎市北原町下屋敷	○							散布地		
187	奈良平安№33遺跡	高崎市北原町国分境				○	○			散布地,集落,その他	下東西遺跡。	9
188	古墳№５遺跡	高崎市北原町下屋敷			○					散布地,集落		
189	奈良平安№28遺跡	高崎市金古町町裏				○	○			散布地,その他	平成７年度調査、令和元年６月試掘調査。	
190	奈良平安№29遺跡	高崎市金古町町裏				○	○			散布地		
191	鎌倉室町№12遺跡	高崎市西国分町新田						○	○	散布地,その他	平成６年度調査。	
192	金古諏訪遺跡	高崎市金古町諏訪			○					散布地		
193	奈良平安№22遺跡	高崎市金古町多家				○	○			散布地		
194	古墳№.36遺跡	高崎市金古町王塚			○					散布地,古墳		

	遺跡名	所 在 地	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別・性格	備　　考	資　　料
195	奈良平安№14遺跡	高崎市金古町王塚				○	○			散布地		
196	奈良平安№15遺跡	高崎市金古町庚申				○	○			散布地,その他	庚申遺跡。	22
197	奈良平安№16遺跡	高崎市金古町庚申				○	○			散布地		
198	庚申B号墳	高崎市金古町庚申			○					古墳	７C円墳、昭和38年発掘調査、平成27年測量調査、庚申遺跡。	22
199	庚申古墳群・古墳№37遺跡	高崎市金古町庚申			○					散布地,古墳,その他	一部現状保存。庚申古墳群、庚申遺跡。	22
200	縄文№６遺跡	高崎市金古町庚申	○							散布地		
201	奈良平安№17遺跡	高崎市金古町金井沢				○	○			散布地		
202	鎌倉室町№５遺跡	高崎市足門町金井沢						○	○	散布地		
203	寺屋敷古墳群・古墳№40遺跡	高崎市足門町寺屋敷			○					散布地,古墳,その他	南側を平成２年度発掘調査・事業により一部消滅。寺屋敷Ⅰ遺跡、蓋遺跡、鶴巻遺跡。平成２年度発掘調査、寺屋敷Ⅱ遺跡。	23,24
204	縄文№51遺跡	高崎市足門町寺屋敷	○							散布地		
205	奈良平安№21遺跡	高崎市金古町如来				○	○			散布地		
206	如来古墳群・古墳№41遺跡	高崎市金古町如来			○					散布地	数基は現状で墳丘を確認できるが、ほとんど削平されている。	
207	鎌倉室町№９遺跡	高崎市金古町如来						○	○	散布地		
208	奈良平安№23遺跡	高崎市金古町如来				○	○			散布地		
209	鎌倉室町№10遺跡	高崎市足門町寺屋敷						○	○	散布地		
210	奈良平安№24遺跡	高崎市足門町鶴巻				○	○			散布地,その他	寺屋敷Ⅱ遺跡。	24
211	鎌倉室町№11遺跡	高崎市足門町蓋						○	○	散布地		
212	金古町裏遺跡	高崎市金古町			○	○	○			散布地,集落,畑	H15年度調査。	
213	奈良平安№34遺跡	高崎市西国分町金古境				○	○			散布地,集落,その他	西国分Ⅰ遺跡、西国分Ⅱ遺跡。	25,26
214	縄文№11遺跡	高崎市冷水町牛池１	○							散布地		
215	鎌倉室町№16遺跡	高崎市西国分町欠端						○	○	散布地		
216	西国分薬師廻り遺跡	高崎市西国分町薬師廻り			○					散布地		
217	鎌倉室町№62遺跡	高崎市西国分町薬師廻り						○	○	散布地,社寺	大蔵房。	
218	奈良平安№10遺跡	高崎市金古町諏訪				○	○			散布地		
219	古墳№34遺跡	高崎市金古町諏訪								散布地		
220	前橋市0141遺跡	前橋市総社町総社・昌楽寺廻り一帯			○	○	○	○	○	集落,社寺	山王廃寺。	53～64

文献一覧

1　群馬県　1938『上毛古墳綜覧』
2　群馬県教育委員会　1988『群馬県の中世城館跡』
3　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2003『青梨子上屋敷遺跡・金古北十三町遺跡２』
4　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書　2009『青梨子熊野前遺跡』
5　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1989『有馬遺跡Ⅰ、大久保B遺跡』
6　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1982『清里・庚申塚遺跡』
7　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1982『清里・陣場遺跡』
8　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1986『清里・長久保遺跡』
9　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1987『下東西遺跡』
10　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998『下東西清水上遺跡』
11　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2006『高井桃ノ木Ⅲ遺跡』
12　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2013『十日市遺跡・住遺跡・千代開南遺跡・千代開北遺跡・舞台遺跡』
13　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2003『稲荷塚道東遺跡』
14　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2021『中御所遺跡（２）』
15　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2000『長久保大畑遺跡・新田入口遺跡』
16　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2012『長谷津遺跡』
17　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1999『沼南遺跡』
18　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998『冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡１』
19　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2021『前橋市0107遺跡』

20　群馬町教育委員会　1983『北原遺跡』群馬町埋蔵文化財発掘調査報告５
21　群馬町教育委員会　1984『北原遺跡』群馬町埋蔵文化財発掘調査報告９
22　群馬町教育委員会　1996『庚申遺跡』
23　群馬町教育委員会　1991『寺屋敷Ⅰ・蓋・鶴巻遺跡』
24　群馬町教育委員会　1991『寺屋敷Ⅱ遺跡』
25　群馬町教育委員会　1989『西国分Ⅰ遺跡』
26　群馬町教育委員会　1990『西国分Ⅱ遺跡』
27　元景寺南線遺跡調査会　2003「高井桃ノ木Ⅱ遺跡」
28　山武考古学研究所　1995『青梨子金古境遺跡』
29　山武考古学研究所　1997『総社観音沢遺跡』
30　山武考古学研究所　1999『高井桃ノ木遺跡』
31　渋川市教育委員会　1991『半田工業団地取付道路遺跡』
32　渋川市教育委員会　1994『半田中原・南原遺跡』
33　渋川市教育委員会　1994『半田南原遺跡』
34　榛東村教育委員会　1985『新井第Ⅱ地区遺跡群発掘調査概報』
35　榛東村教育委員会　1985『御堀遺跡発掘調査報告書』
36　榛東村教育委員会　1984『倉海戸遺跡発掘調査概報』
37　榛東村教育委員会　1999『十二前遺跡概報』
38　榛東村教育委員会　2008『下新井遺跡』
39　榛東村教育委員会　1988『榛東村誌』
40　榛東村教育委員会　1985『榛東村39号墳(雛子遺跡)発掘調査報告書』
41　スナガ環境測設株式会社　1991『熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡』
42　スナガ環境測設株式会社　1988『昌楽寺廻向Ⅱ遺跡』
43　スナガ環境測設株式会社　2002『総社植野北開土遺跡』
44　スナガ環境測設株式会社　1989『若宮遺跡』
45　長久保古墳群調査団　1986『長久保古墳群発掘調査略報　自、昭和51年12月４日　至、昭和53年５月30日』
46　前橋市史編さん委員会　1971『前橋市史１』
47　前橋市教育委員会　1984『柿木遺跡』
48　前橋市教育委員会　1990『柿木Ⅱ遺跡』
49　前橋市教育委員会　1981『清里南部遺跡群(Ⅲ)』
50　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1989『熊野谷遺跡』
51　前橋市教育委員会　1988『膏薬遺跡』
52　前橋市教育委員会　1992『国分境Ⅱ遺跡』
53　前橋市教育委員会　1981『山王廃寺跡第２次発掘調査概報』
54　前橋市教育委員会　1977『山王廃寺跡第３次発掘調査概報』
55　前橋市教育委員会　1978『山王廃寺跡第４次発掘調査概報』
56　前橋市教育委員会　1979『山王廃寺跡第５次発掘調査概報』
57　前橋市教育委員会　1980『山王廃寺跡第６次発掘調査概報』
58　前橋市教育委員会　1982『山王廃寺跡第７次発掘調査概報』
59　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000『山王廃寺、山王廃寺等Ⅴ遺跡発掘調査報告書』
60　前橋市教育委員会　2007『山王廃寺範囲内容確認調査報告書Ⅰ、山王廃寺平成18年度調査報告』
61　前橋市教育委員会　2009『山王廃寺範囲内容確認調査報告書Ⅱ、山王廃寺平成19年度調査報告』
62　前橋市教育委員会　2010『山王廃寺範囲内容確認調査報告書Ⅲ、山王廃寺平成20年度調査報告』
63　前橋市教育委員会　2011『山王廃寺範囲内容確認調査報告書Ⅳ、山王廃寺平成21年度調査報告』
64　前橋市教育委員会　2012『山王廃寺範囲内容確認調査報告書Ⅴ、山王廃寺平成22年度調査報告』
65　前橋市教育委員会　2020『総社昌楽寺廻窪道遺跡№２』
66　前橋市教育委員会　1986『総社桜ヶ丘遺跡』
67　前橋市教育委員会　2009『総社村東02遺跡』
68　前橋市教育委員会　1980『富田遺跡群・西大室遺跡群・清里南部遺跡群』
69　前橋市教育委員会　1981『中島遺跡発掘調査概報』
70　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1993『西久保遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』
71　前橋市教育委員会　2011『年報40』
72　前橋市教育委員会　1975『文化財調査報告書５』
73　前橋市教育委員会　1989『文化財調査報告書19』
74　前橋市教育委員会　1990『文化財調査報告書20』
75　前橋市教育委員会　1996『文化財調査報告書25』
76　前橋市教育委員会　1994『平成４年度市内遺跡発掘調査報告書』
77　前橋市教育委員会　1997『平成７年度市内遺跡発掘調査報告書』
78　前橋市教育委員会　1999『平成９年度市内遺跡発掘調査報告書』
79　前橋市教育委員会　2000『平成11年度市内遺跡発掘調査報告書』
80　前橋市教育委員会　2004『平成15年度市内遺跡発掘調査報告書』
81　前橋市教育委員会　2009『平成19年度市内遺跡発掘調査報告書』
82　前橋市教育委員会　2010『平成20年度市内遺跡発掘調査報告書』
83　前橋市教育委員会　2012『平成22年度市内遺跡発掘調査報告書』
84　吉岡町教育委員会　2011『上ノ原Ⅰ・Ⅱ遺跡』
85　吉岡町教育委員会　1986『大久保A遺跡I区・II区、七日市遺跡、滝沢古墳、女塚遺跡』
86　吉岡町教育委員会　1993『大下遺跡発掘調査報告書』
87　吉岡町教育委員会　2012『大藪遺跡』
88　吉岡町教育委員会　2001『片貝Ⅱ遺跡』
89　吉岡町教育委員会　1994『金竹西遺跡』
90　吉岡町教育委員会　1996『金竹西A遺跡、中町遺跡』
91　吉岡町教育委員会　2010『熊野Ⅲ遺跡』
92　吉岡町教育委員会　1995『熊野・辺玉遺跡』
93　吉岡町遺跡調査会　2002『下八幡南遺跡』
94　吉岡町教育委員会　2004『善徳遺跡』
95　吉岡町教育委員会　1998『道城遺跡』
96　吉岡町教育委員会　2006『長久保大畑Ⅲ遺跡』
97　吉岡町教育委員会　2001『中御所遺跡』
98　吉岡町教育委員会　2005『中御所II遺跡』
99　吉岡町教育委員会　2017『七日市遺跡』
100 吉岡町教育委員会　2000『畑中遺跡』
101 吉岡町教育委員会　1991『本宿遺跡発掘調査報告書』
102 吉岡町教育委員会　2003『本宿遺跡』
103 吉岡町教育委員会　1993『三津屋古墳』
104 吉岡町教育委員会　1996『三津屋古墳、八角形墳の調査』
105 吉岡町教育委員会　2010『南下古墳群』
106 吉岡町教育委員会　2012『宮西遺跡』
107 吉岡町教育委員会　2007『宮前Ⅱ遺跡』
108 吉岡村教育委員会　1980『吉岡村誌』

第３章　確認された遺構と遺物

第１節　調査区の概要と基本土層

第１項　調査区の概要

群馬県前橋市池端町に所在する本調査区は前橋市0107遺跡(以下、本遺跡)の中心付近に位置しており、本遺跡の一部を構成している。本遺跡では昭和54年１月以来過去数次の発掘調査が実施されており、３区と呼称された本調査区は、平成30年度に当事業団が発掘調査を行った前橋市0107遺跡２区の２区西調査区と２区東調査区の間に位置している。これまでの発掘調査により本遺跡では時代時期を異にする複数の集落が確認されている。その居住地の分布は本遺跡の北西部と南東部を中心とする傾向が認められるが、今回の発掘調査もそうした傾向を裏付けるものとなった。

本調査区は発掘調査実施上の都合により、西から３区西調査区、３区西・東部調査区、３区中央西調査区、３区中央東調査区、３区東調査区の５区画に区分されている。発掘調査に際しては２面の遺構面を想定して調査が実施された。下層の２面については上述した５区画とも褐色シルト面が基準面とされている。上層の１面は３区東を除き４世紀末の浅間山噴火に伴うAs-Cの混入する黒褐色土層面が基準となり、３区東のみが６世紀の榛名山二ツ岳噴火に伴うHr-FA面を１面の基準としている。これを踏まえ、今回の報告においては、発掘調査に際して２面より上位の位置から検出された遺構を１面の遺構とし、掲載した。

今回の発掘調査では竪穴状遺構１基、溝５条、墓１基、井戸２基、集石４基のほか、土坑23基とピット100基が検出された。検出された遺構の大部分は１面の遺構であり、調査区の東側に集中していた。調査区の中心付近から西端にかけて検出された１面の遺構は溝２条のみである。２面も数は少ないが、調査区の東側に遺構が集中する傾向は１面と同様であるが、相対的には西半の検出頻度は１面よりも高い。調査区西半の２面からは溝１条、竪穴状遺構１基、土坑１基と集石４基が検出されている。

第２項　基本土層

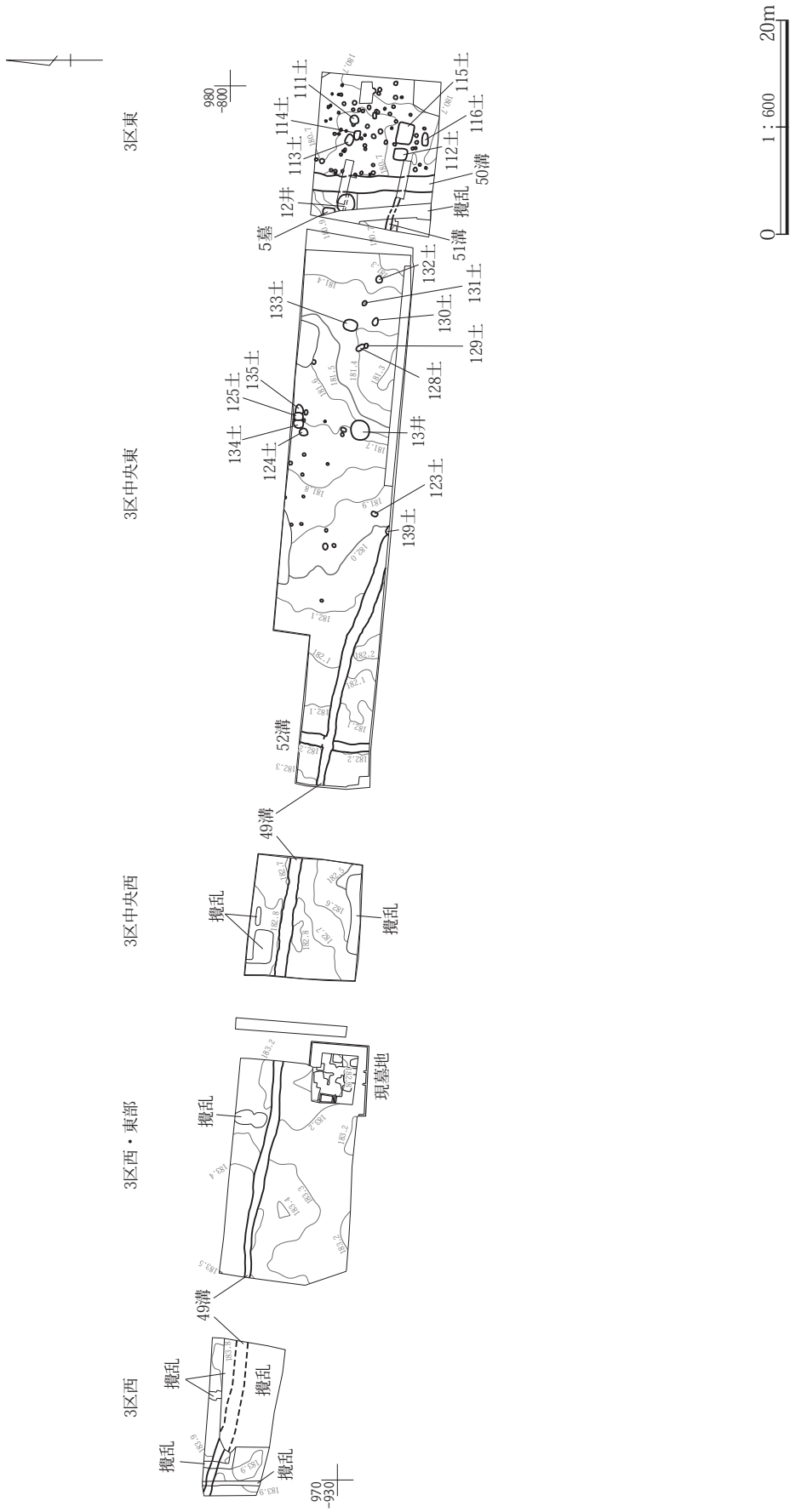
本調査区に隣接する西と東の地区は、前橋市0107遺跡１区・２区として発掘調査が行われており、調査地点による土壌堆積状況の相違と、これにより標準的な土層の提示が困難である旨の報告がなされている(当事業団2021『前橋市0107遺跡』)。今回の調査区である３区は既報の調査区にその東西をはさまれており、調査地点個々のばらつきについては１区・２区と同様な状況であった。殊に第１層である表土による攪乱深度の違いは、Hr-FA面が第２層になる地点があれば、褐色シルト混じりの土が第２層となる地点もあるなど、攪乱の影響度合が地点個々で相違し、出土した遺構の帰属年代の見極めを難しくしている。

３区中央区の層序を基準とし、各地点の層序を参照しつつあえて模式的に３区の標準土層を記述すると次のようになる。

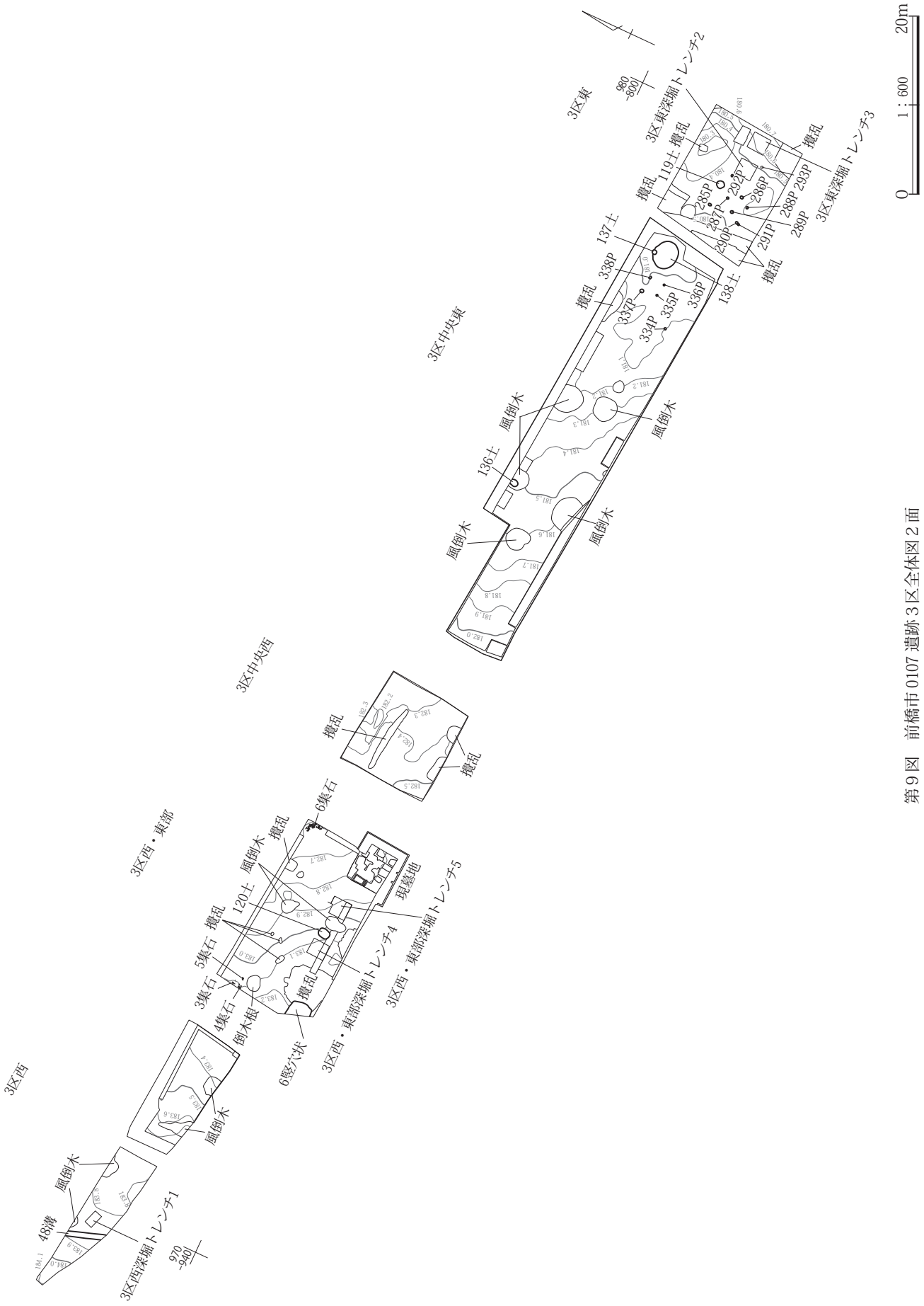
Ⅰ　表土(耕作土、宅地造成土、攪乱)
Ⅱ　白色軽石粒を含む黒褐色土
Ⅲ　As-Cを含む黒褐色土
Ⅳ　白色粒子、褐色粒子を含む黒褐色土
Ⅴ　極細粒の黒褐色砂質土
Ⅵ　灰黄褐色シルト質土、ローム漸移層
Ⅶ　鉄分沈着層を含むシルト層
Ⅷ　浅黄橙色の軽石を含むシルト層
Ⅸ　褐色粘土層
Ⅹ　極暗赤褐色砂質土、川砂
XI　鈍い橙色粘土質土

なお、本調査区の東西に位置する２区西調査区と２区東調査区の基本土層を以下に付記する。

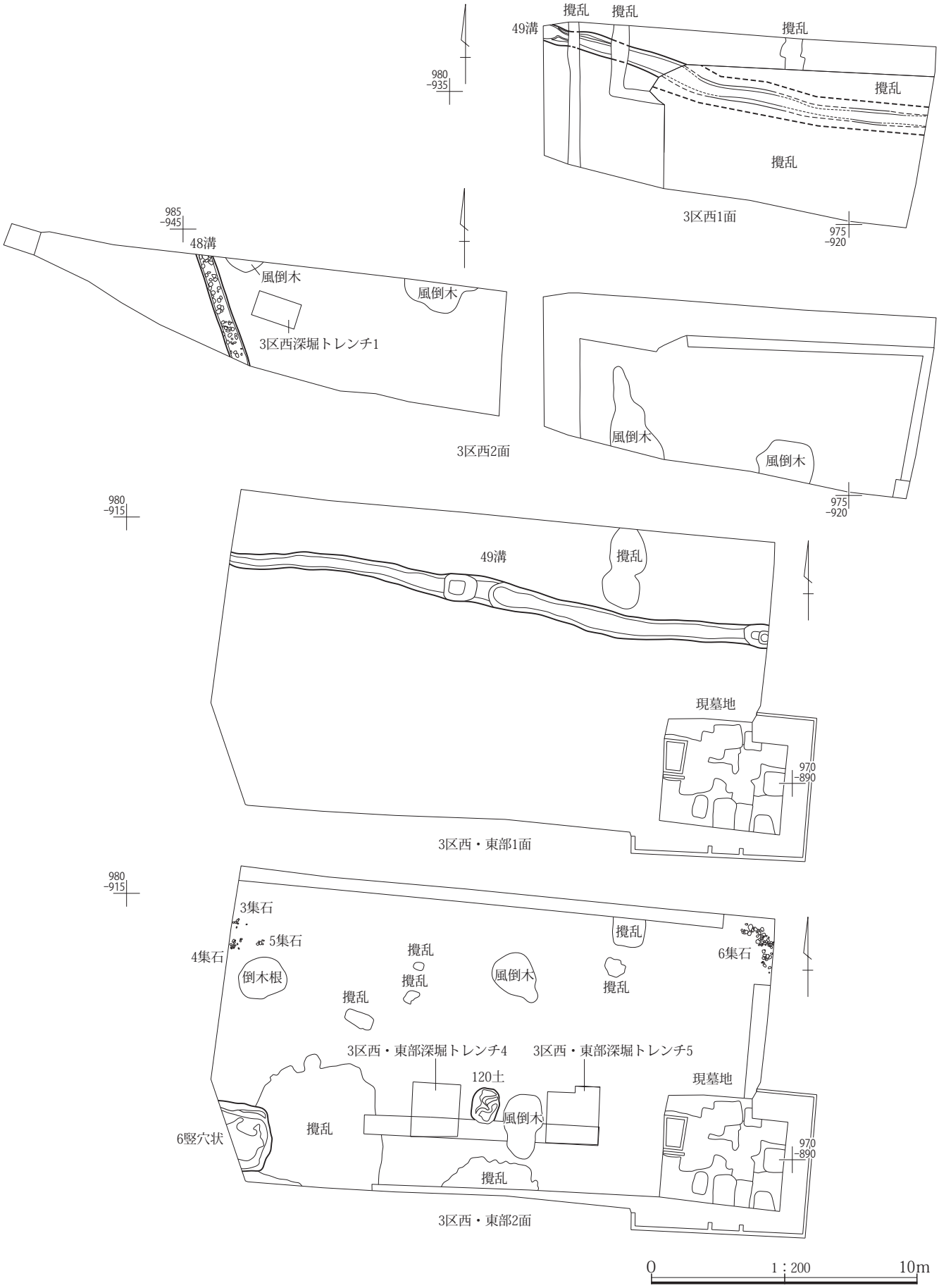
1　表土(耕作土)。
2　暗褐色土　As-B・As-C・橙色土粒を少量含む。
3　暗褐色土　橙色土粒を微量含む。
4　暗褐色土　As-C・褐色土粒を少量含む。
5　暗褐色土　白色軽石・褐色土粒・橙色土粒を微量含む。
6　黒褐色土　橙色土粒を少量、白色軽石・黄色軽石・黄褐色土粒を微量含む。



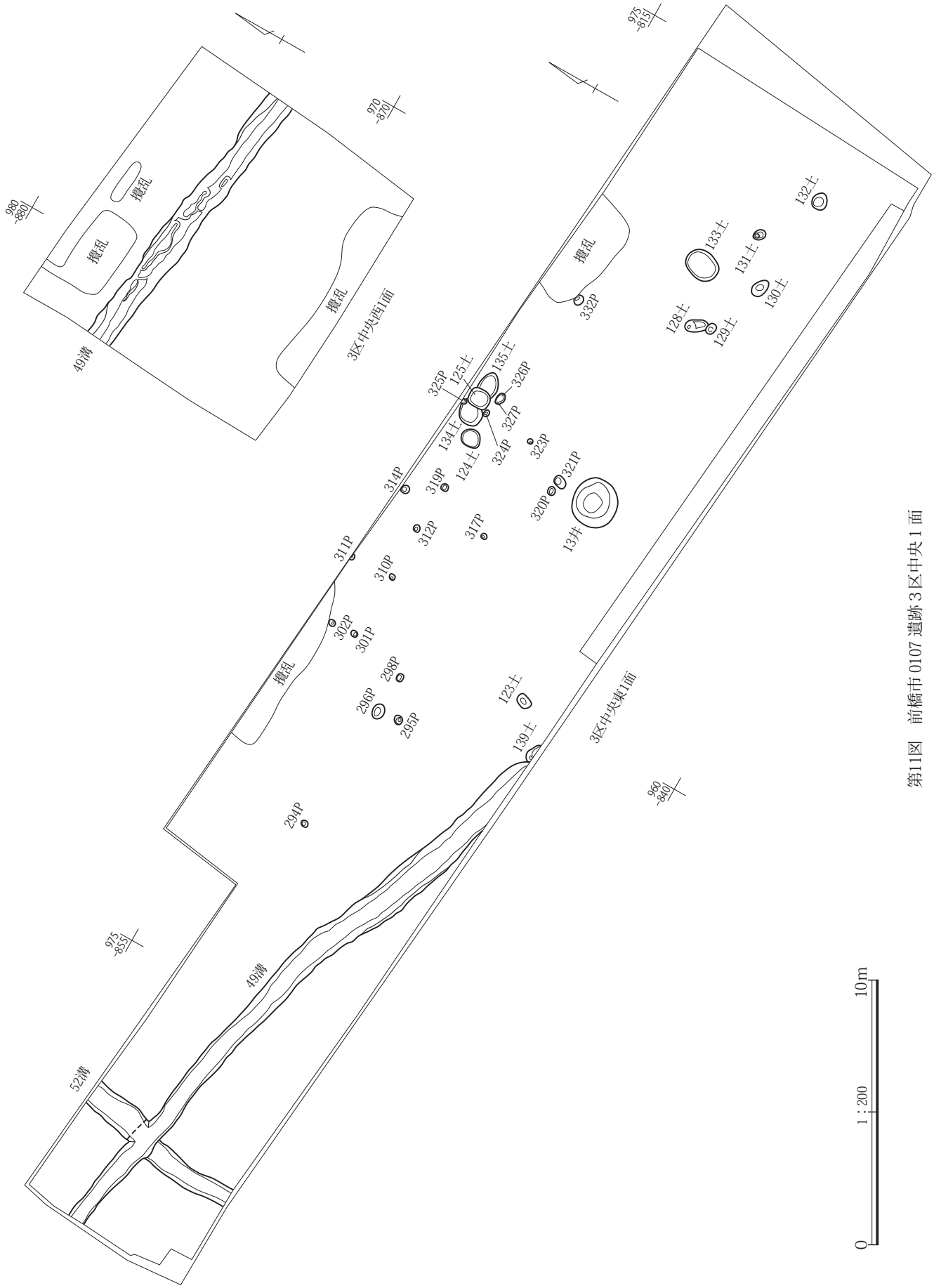
第８図　前橋市 0107 遺跡３区全体図１面



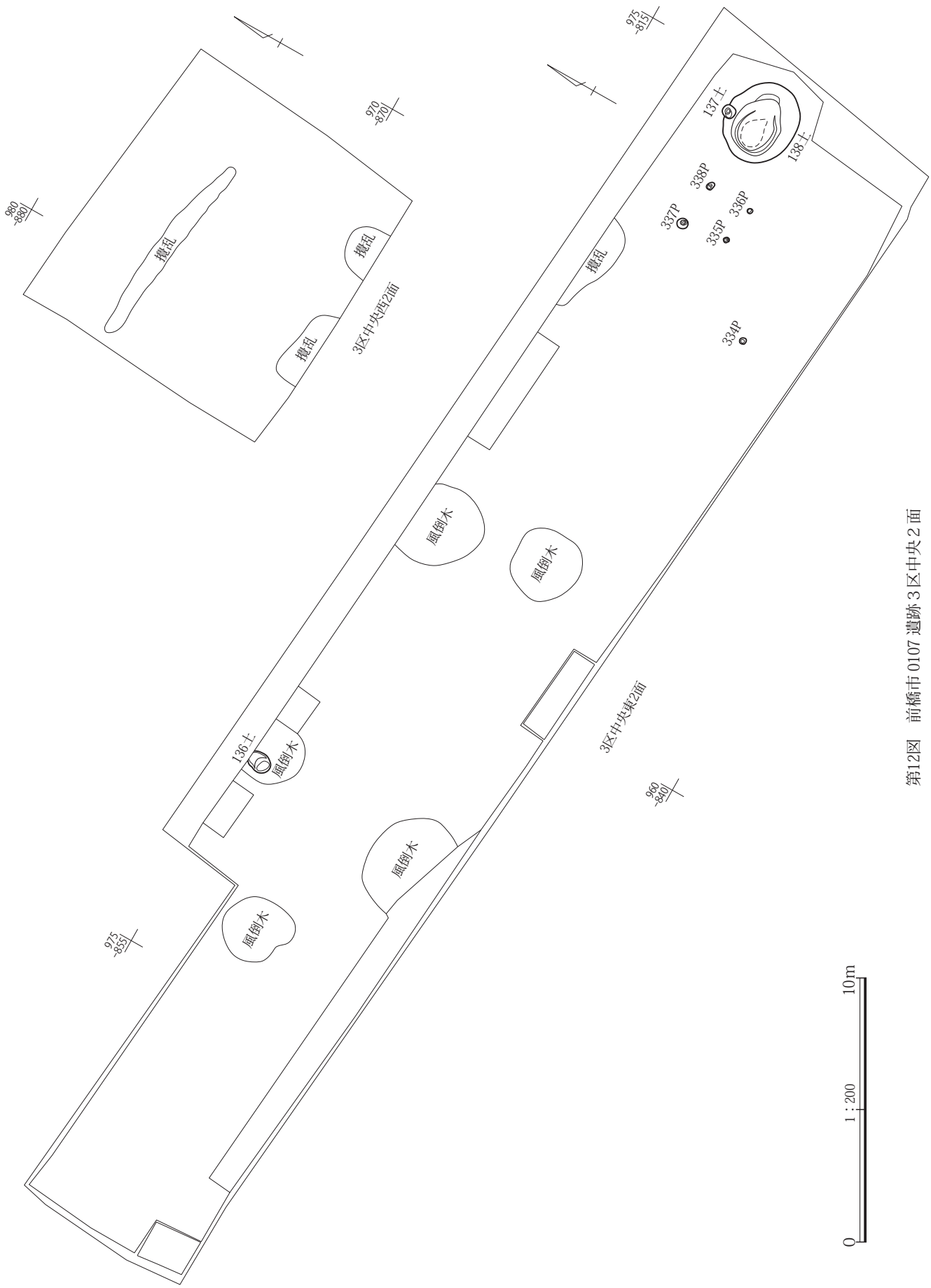
第９図　前橋市 0107 遺跡３区全体図２面



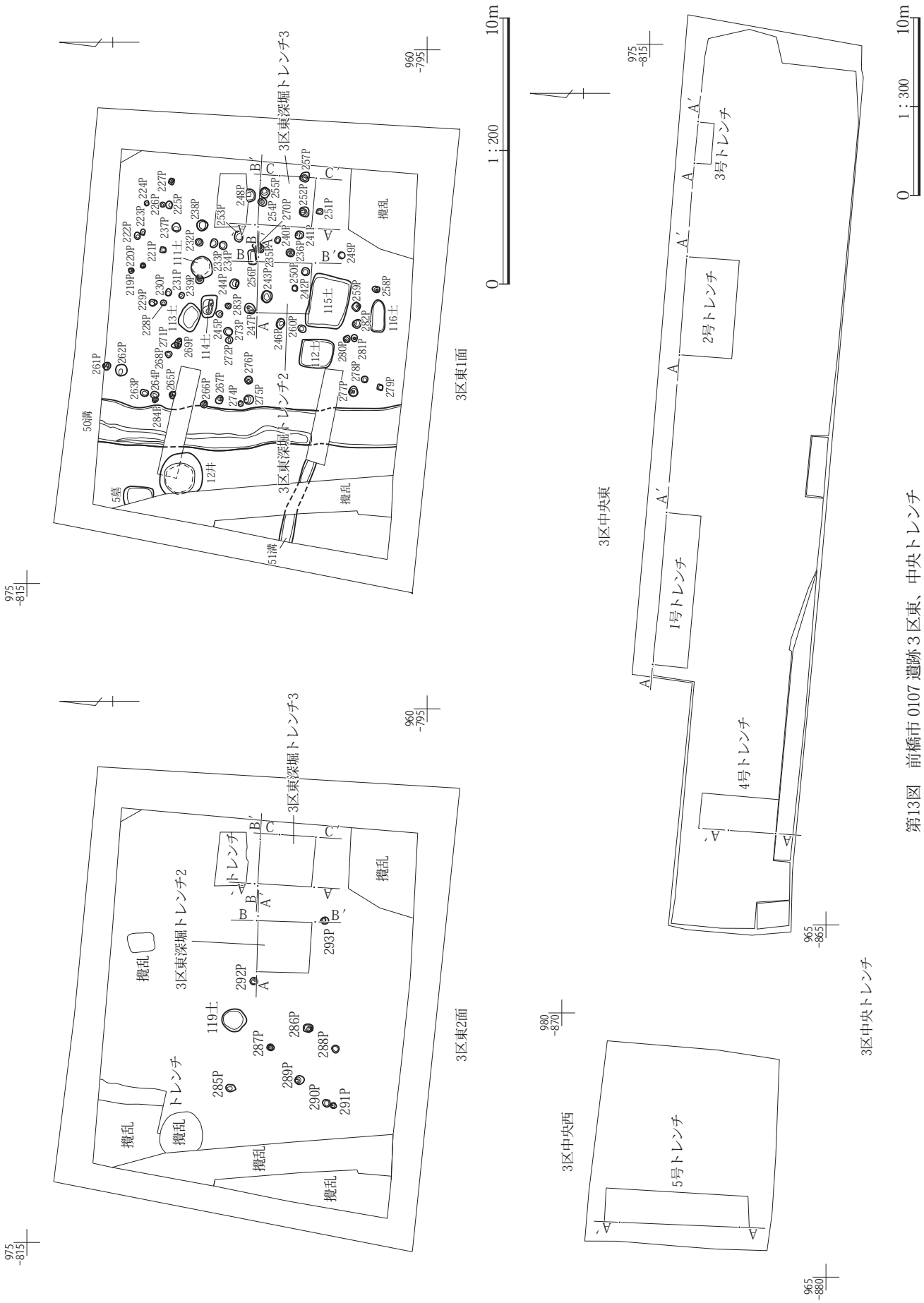
第10図　前橋市 0107 遺跡３区西、西・東部



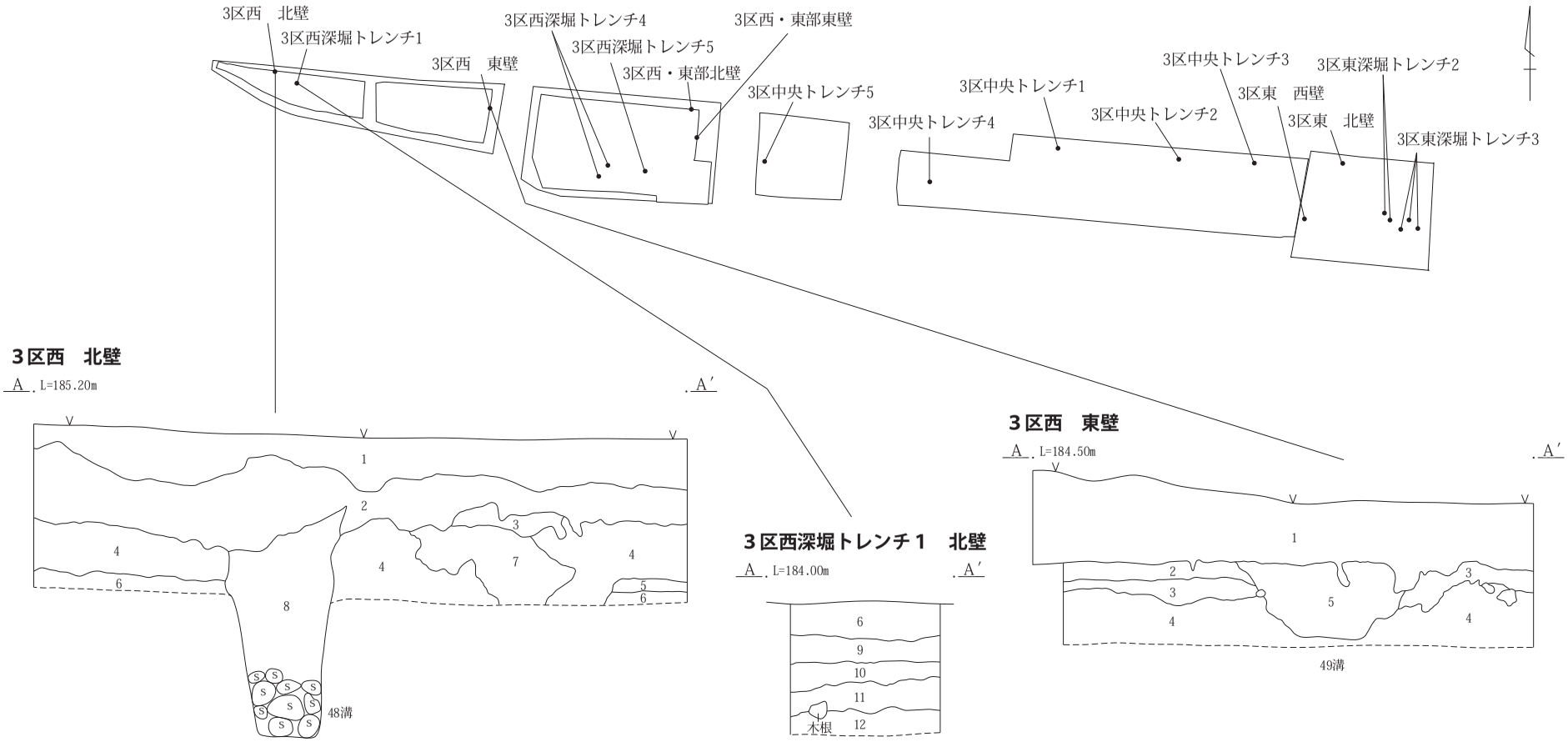
第11図　前橋市0107遺跡３区中央１面



第12図　前橋市0107遺跡３区中央２面



第13図　前橋市 0107 遺跡３区東、中央トレンチ



３区西　北壁

1　暗褐色土(10YR3/3)表土、耕作土、宅地造成土。
2　黒褐色土(10YR3/2)白色軽石粒を含むしまりのある層。
3　黒褐色土(10YR2/3)白色軽石粒を含む粘性の強い層。鉄分沈着有り。
4　黒褐色土(10YR2/3)白色軽石粒、褐鉄粒を多く含む粘質層。
5　褐色土(7.5YR4/4)鉄分を多く含む粘質層。
6　褐色土(10YR4/6)鉄分沈着層を含むシルト層。粘性強い。
7　４層、６層を混在する倒木逆転層。
8　暗褐色土(10YR3/3)褐色シルトブロックを多く含む他、４層を混入する48号溝埋没土層。

深堀トレンチ１

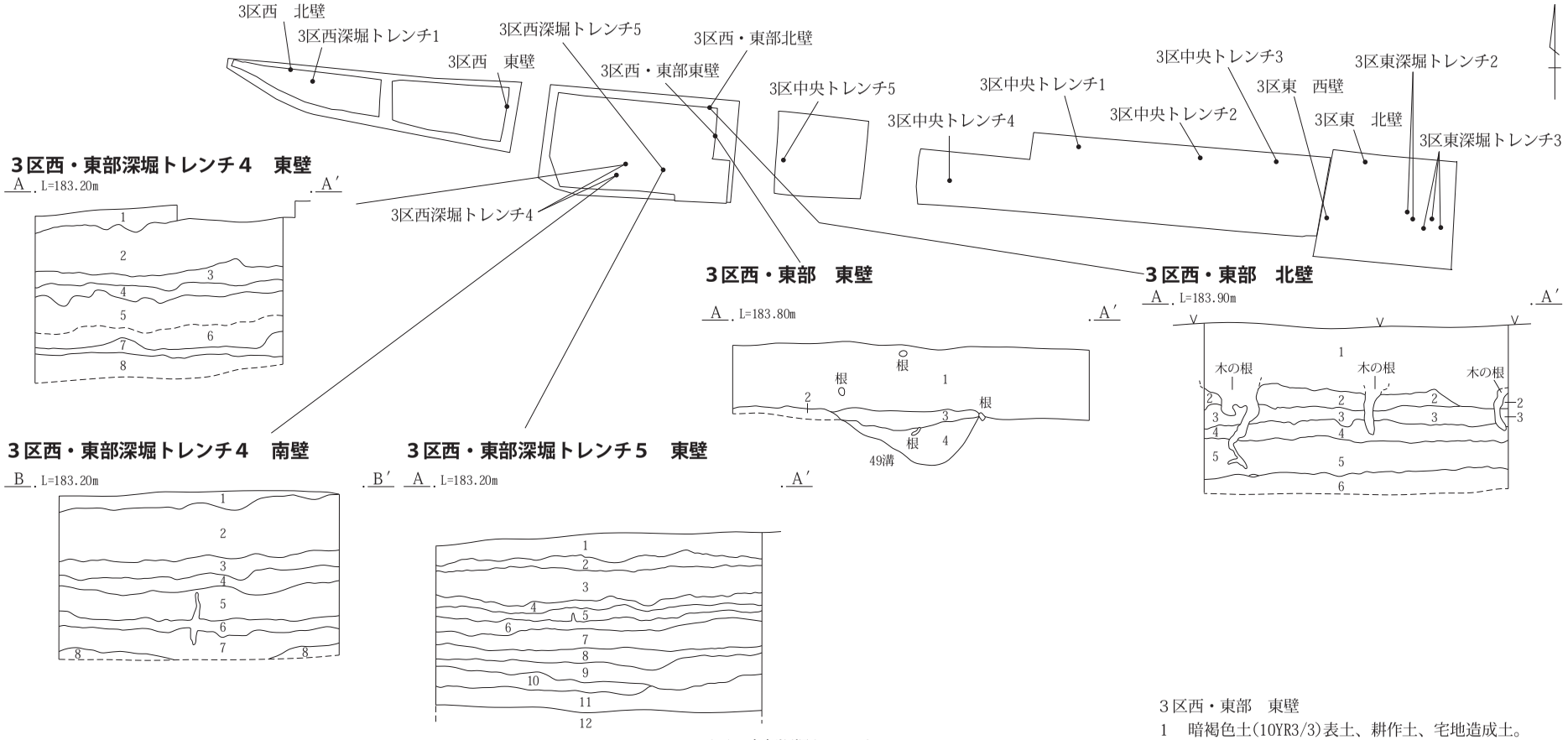
6　褐色土(10YR4/6)鉄分沈着層を含むシルト層。粘性強い。
9　褐色土(10YR4/6)褐色粒子、鉄分沈着層を含むシルト層。
10　褐色土(10YR5/6)褐色粒子、鉄分沈着層を含むシルト層。粘性強い。
11　褐灰色土(10YR4/1)白色軽石粒、黒色粒子、緑色粒子を含む粘質層。
12　褐灰色土(10YR5/1)白色軽石粒、黒色粒子、黒色鉱物(溶岩)、緑色粒子を含む粘質層。

３区西　東壁

1　暗褐色土(10YR3/3)表土、耕作土、宅地造成土。
2　黒褐色土(10YR2/2) As-Cを多量に含む粘質層。
3　黒色土(10YR2/1)軽石粒を少量含む粘質層。
4　暗褐色土(10YR3/3)褐鉄粒を多く含む粘質層。湧水有り。
5　暗褐色土(10YR3/4)黒褐色土(２層)を混入する粘質層。49号溝埋没層。底面までほぼ同一層で埋没し、砂層の堆積は認められない。出土遺物無し。

第14図　前橋市 0107 遺跡３区基本土層１

0　1：40　1m



３区西・東部深堀トレンチ４

1　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)しまり強く、粘り弱い。第２面表土。
2　褐灰色土(7.5YR5/1)砂質(φ0.5mm以下)しまりねばりともに極めて強い。
3　橙色土(7.5YR6/6)砂質、極微小粒。しまりあり、ねばり強い。
4　にぶい褐色土(7.5YR5/4)シルト。しまりねばりともに強い。浅黄橙色(7.5YR8/4)軽石(φ３mm以下)を１％ほど含む。
5　明褐灰色土(7.5YR7/2)シルト。しまりねばりともに強い。
6　暗褐色土(7.5YR3/4)砂礫φ１～３mm。しまりあり、ねばりなし。ブロック状に分布。
7　にぶい橙色土(7.5YR6/4)シルト。ねばりしまりともに強い。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/4)シルト。黒色の砂層(φ１mm程度)と重層。しまり強い、ねばり弱い。ところどころ植物の根による貫入痕跡がみられる。

３区西・東部深堀トレンチ５

1　褐色シルト層(10YR4/4)しまりあり。発泡した軽石粒を少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト層(10YR4/3)硬質。発泡した軽石粒を少量含む。
3　灰黄褐色シルト層(10YR4/2)硬質。発泡した軽石粒を少量含む。
4　黄褐色粘質土層(10YR5/6)
5　褐色粘質土層(10YR4/6)
6　褐色粘質層(10YR5/6)
7　褐色シルト層(10YR4/4)しまりに乏しい。
8　にぶい黄褐色シルト層(10YR5/3)砂層を含む。
9　にぶい黄橙色シルト層(10YR6/4)含水し、やや軟弱。
10　にぶい黄褐色粘質土層(10YR5/3)

３区西・東部　東壁

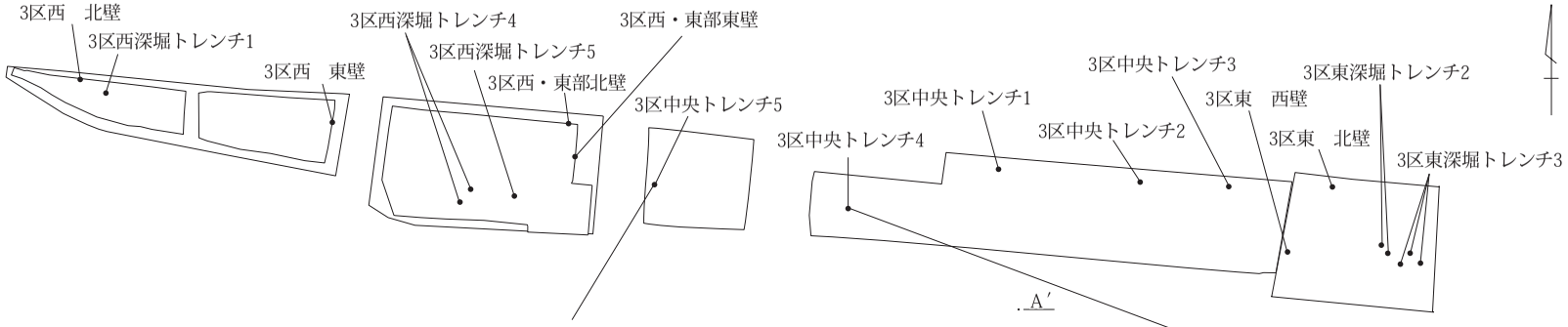
1　暗褐色土(10YR3/3)表土、耕作土、宅地造成土。
2　黒褐色土(10YR2/2)As-Cを多量に含む粘質層。
3　黒褐色土(10YR2/3)鉄分(酸化第二鉄)を含む粘質層。
4　暗褐色土(10YR3/4)軽石粒、黒褐色土を混入する粘質層。砂層等流水痕跡は認められない。

３区西・東部　北壁

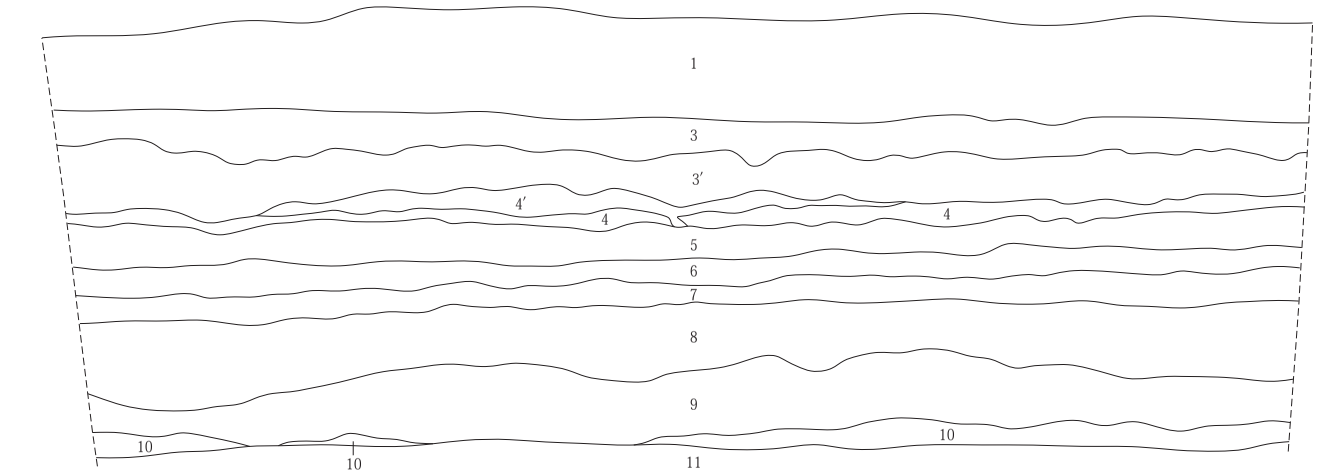
1　暗褐色土(10YR3/3)表土、耕作土、宅地造成土。
2　暗褐色土(10YR3/3)As-Cを混入する層。粘性は乏しい。
3　黒褐色土(10YR2/2)As-Cを多量に含む粘質層。
4　黒褐色土(10YR3/1)白色、褐色粒子を含む粘土層。硬質。
5　黒褐色土(10YR3/2)白色、褐色粒子を含む粘土層。硬質。
6　黒褐色土(10YR2/3)褐色粒子を含む。粘性を持つが硬質ではない。

0　1：40　1m

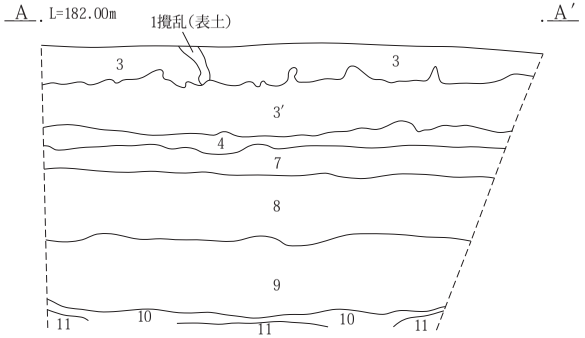
第15図　前橋市 0107 遺跡３区基本土層２



３区中央西　西壁



３区中央東トレンチ４　北壁



３区中央西　西壁

1　表土(攪乱層)

3　ローム漸移層。灰黄褐色(10YR6/2)シルト質土、樹木による攪乱が多い。

3′浅黄橙色(10YR8/3)シルト質土を基調とし、鉄分沈着したもの。全体として明褐色(7.5YR5/6)シルト質土、固くしまっている。

4　暗赤褐色(5YR3/2)シルト質土、３'に鉄分沈着が進んだ部分は極めて固い。ところどころ１号トレンチ２層がφ１～10cmのブロックとして入っている。

4′橙色(7.5YR7/6)シルト質土、鉄分沈着硬化面。しまり極めて強く硬い

5　浅黄橙色(10YR8/3)シルト質土を基として、明褐色(7.5YR5/6)に鉄分変色した部分が貫入した植物根痕が広がっている。しまり粘りともに強い。

6　灰黄褐色(10YR6/2)シルト質土。しまり粘りともに強い。鉄分の沈着はみられない。

7　にぶい黄橙色(10YR7/3)シルト質土､粘りしまりともに極めて強い｡下層との境に鈍い橙色(7.5YR6/4)の層がうっすらとみえる。

8′黒(10YR2/1)～黒褐色(10YR2/2)シルト質土を基本として、浅黄橙色(10YR8/3)の軽石φ１～数mmを20%ほど含む。軽石は下層ほど少なくなる。ところどころ７をφ10～50mmほどのブロック状に10%以下含むが下層ほど少なくなる。

9　灰褐色土(7.5YR5/2)粘土質､所々に鉄分が沈着している。下層との境界部分に明褐灰色(7.5YR7/2)シルト質土が薄く存在する。

10　極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土、φ１～数mm鉄分が沈着しており、しまりが極めて強いが粘りはない。川砂。

11　鈍い橙色(7.5YR6/4)粘土質土、しまり粘りともに極めて強い。

４号トレンチ

3　黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質土、しまりが強く粘りは弱い。下層は灰黄褐色(10YR6/2)シルト質土、しまりが強いローム漸移層になる。

3′浅黄橙色(10YR8/3)シルト質土を基調とし、鉄分沈着したもの。全体として明褐色(7.5YR5/6)シルト質土、固くしまっている。

4　暗赤褐色(5YR3/2)シルト質土、３′に鉄分沈着が進んだ部分は極めて固い。ところどころ１号トレンチ２層がφ１～10cmのブロックとして入っている。

7　にぶい黄橙色(10YR7/3)シルト質土、粘りしまりともに極めて強い。下層との境に鈍い橙色(7.5YR6/4)の層がうっすらとみえる。

8　黒(10YR2/1)～黒褐色(10YR2/2)シルト質土を基本として、浅黄橙色(10YR8/3)の軽石φ１～数mmを20%ほど含む。軽石は下層ほど少なくなる。

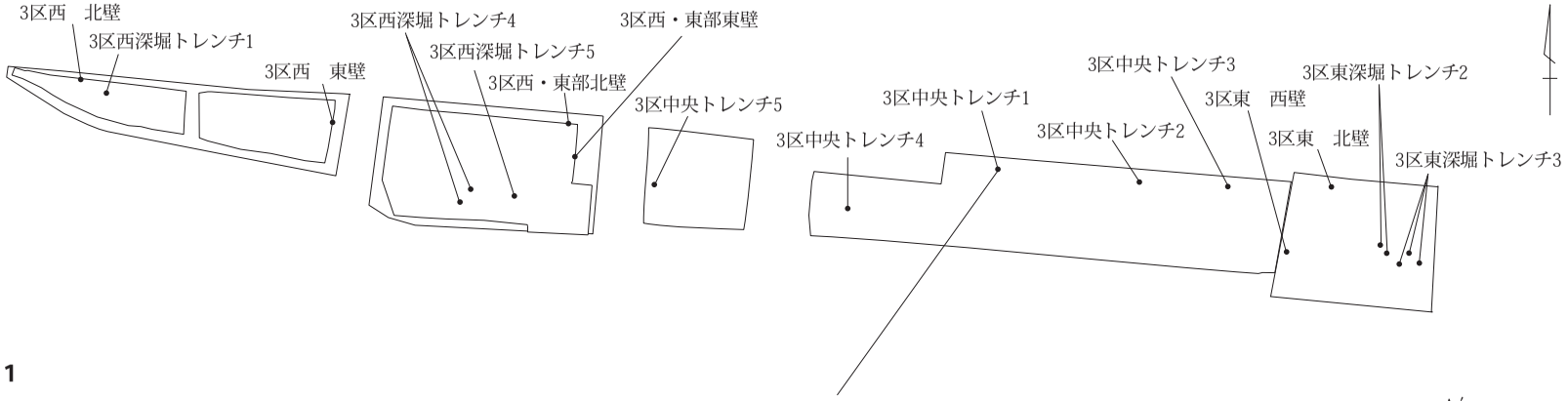
9　灰褐色土(7.5YR5/2)粘土質、所々に鉄分が沈着している。下層との境界部分に明褐灰色(7.5YR7/2)シルト質土が薄く存在する。

10　極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土、φ１～数mm鉄分が沈着しており、しまりが極めて強いが粘りはない。川砂。

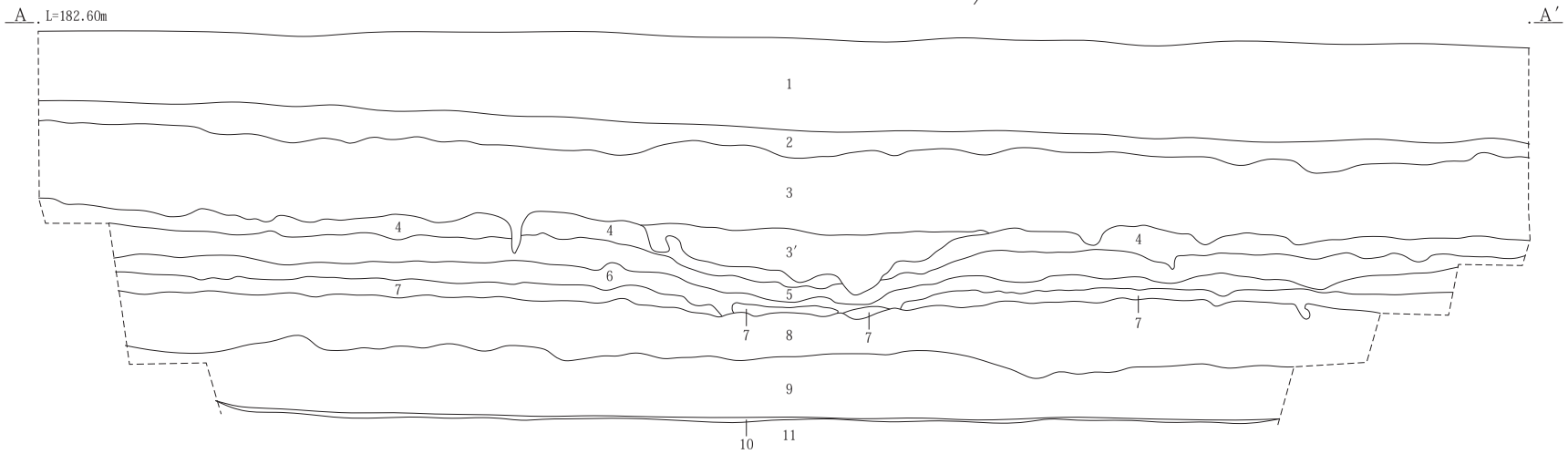
11　鈍い橙色(7.5YR6/4)粘土質土、しまり粘りともに極めて強い。

0　1：40　1m

第16図　前橋市0107遺跡３区基本土層３



３区中央東トレンチ１



１号トレンチ

1　表土(攪乱層)

2　As-C混土。黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質土を基本とし、As-Cφ１mm～数mmを15％ほど含む。しまり強い。

3　黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質土、しまりが強く粘りは弱い。下層は灰黄褐色(10YR6/2)シルト質土、しまりが強いローム漸移層になる。

3′浅黄橙色(10YR8/3)シルト質土を基調とし、鉄分沈着したもの。全体として明褐色(7.5YR5/6)シルト質土、固くしまっている。

4　暗赤褐色(5YR3/2)シルト質土、３′に鉄分沈着が進んだ部分は極めて固い。ところどころ２がφ１～10cmのブロックとして入っている。

5　浅黄橙色(10YR8/3)シルト質土を基として、明褐色(7.5YR5/6)に鉄分変色した部分が貫入した植物根痕が広がっている。しまり粘り強い。

7　にぶい黄橙色(10YR7/3)シルト質土、粘りしまりともに極めて強い。下層との境に鈍い橙色(7.5YR6/4)の層がうっすらとみえる。

8　黒(10YR2/1)～黒褐色(10YR2/2)シルト質土を基本として、浅黄橙色(10YR8/3)の軽石φ１～数mmを20％ほど含む。軽石は下層ほど少なくなる。

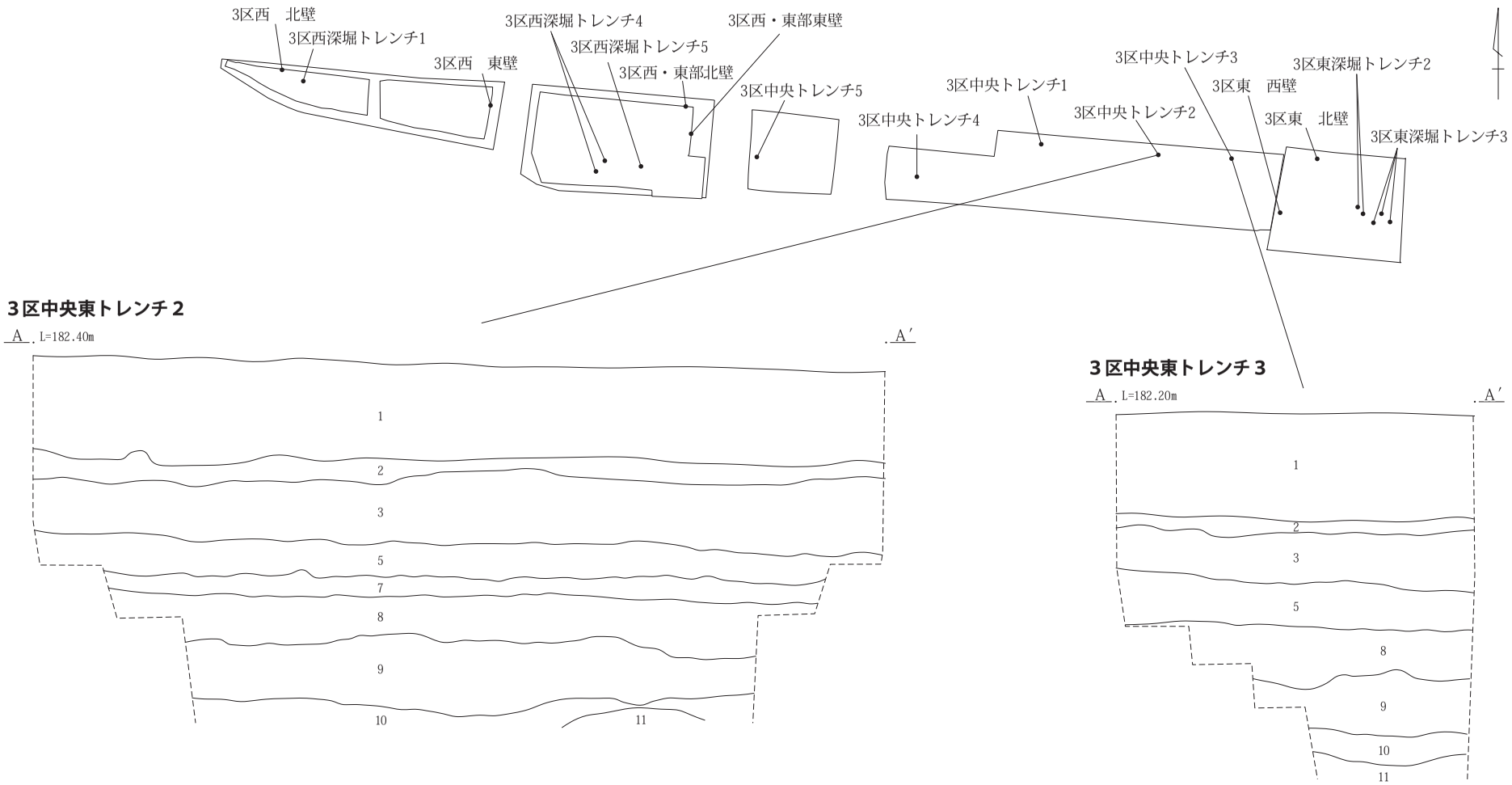
9　灰褐色土(7.5YR5/2)粘土質、所々に鉄分が沈着している。下層との境界部分に明褐灰色(7.5YR7/2)シルト質土が薄く存在する。

10　極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土、φ１～数mm鉄分が沈着しており、しまりが極めて強いが粘りはない。川砂。

11　鈍い橙色(7.5YR6/4)粘土質土、しまり粘りともに極めて強い。

第17図　前橋市 0107 遺跡３区基本土層４

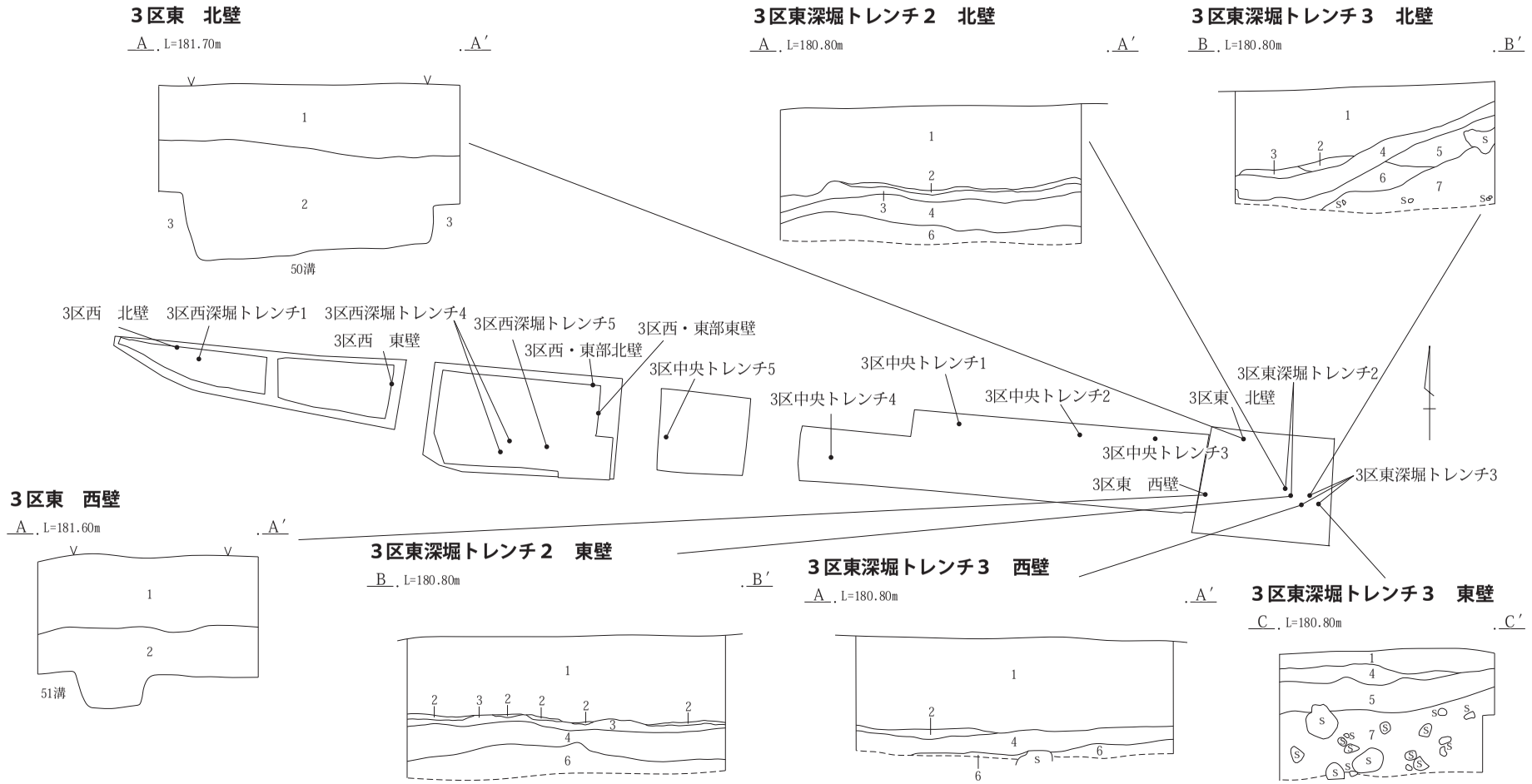
0　1：40　1m



２・３号トレンチ
1　表土(攪乱層)
2　As-C混土。黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質土を基本とし、As-Cφ１㎜～数㎜を15％ほど含む。しまり強い。
3　黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質土、しまりが強く粘りは弱い。下層は灰黄褐色(10YR6/2)シルト質土、しまりが強いローム漸移層になる。
5　浅黄橙色(10YR8/3)シルト質土を基として、明褐色(7.5YR5/6)に鉄分変色した部分が貫入した植物根痕が広がっている。しまり粘り強い。
8　黒(10YR2/1)～黒褐色(10YR2/2)シルト質土を基本として、浅黄橙色(10YR8/3)の軽石φ１～数㎜を20％ほど含む。軽石は下層ほど少なくなる。
9　灰褐色土(7.5YR5/2)粘土質、所々に鉄分が沈着している。下層との境界部分に明褐灰色(7.5YR7/2)シルト質土が薄く存在する。
10　極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土、φ１～数㎜鉄分が沈着しており、しまりが極めて強いが粘りはない。川砂。
11　鈍い橙色(7.5YR6/4)粘土質土、しまり粘りともに極めて強い。

0　1：40　1m

第18図　前橋市 0107 遺跡３区基本土層５



３区東　西壁・北壁

1　表土。攪乱層、砂質(φ１mmほど)黒色土。しまりあり粘りなし。

2　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)。しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒(１～数mm)を１％ほど含む。ところどころに鈍い褐色(7.5YR5/4)シルト質のブロック(φ数cm)が混ざる。

3　黒褐色土(10YR2/3)砂質。しまり強く、粘りあり。しまり強く粘りある砂質暗褐色土(10YR3/3)を含み、しまり強く粘り強い褐色(10YR4/4)シルト質土を数cm大のブロック状に含む。地山。

0　1：40　1m

深堀トレンチ２・３

1　１面埋没土。暗赤褐色土、砂質、しまり強い。上層部は鉄分の沈着により褐色の度合いが多くなる。逆に下部に向かうほど褐色の度合いが少なくなる。

2　褐灰色土(5YR6/1)砂質、極細粒、しまり強い、粘りなし。

3　鈍い橙色(5YR6/3)砂質、極細粒、しまり強い、粘りなし。

4　暗赤褐色土(5YR3/2)砂質、粒子φ１～３mm、しまり強い、粘りなし。旧河道部底部に堆積した砂と思われる。鉄分の沈着あり。

5　明赤褐色土(5YR5/6)砂質、粒子φ１～３mm、しまりあり、粘りなし。

6　にぶい橙色(5YR6/4)シルト質、粘土質、しまり粘りともに極めて強い。

7　にぶい赤褐色土(5YR4/4)砂質、粒子φ１～３mm、しまりなし、粘りなし。φ30～50cmの礫を多数含む(約40～50%)。

補足　土層基底部３区東３号トレンチの北壁と東壁の上部の間に攪乱穴あり。

第19図　前橋市 0107 遺跡３区基本土層６

第２節　１面の遺構

第１項　１面の概要

３区１面では溝４条、井戸２基、墓１基、土坑18基とピット86基が検出されている。ほとんどの遺構は調査区の東側に集中して存在し、調査区の中央部から西にかけての範囲から検出された遺構は溝２条にとどまる。

東西方向に位置する溝２条と南北方向に位置する溝２条が存在する。東西方向に位置する溝のうち49号溝は地形なりに傾斜に沿い、調査区西端から調査区中央付近の南辺にかけて東流するが、調査区東端寄りに位置する51号溝からは底面の傾斜が確認されず、存在したとしても水勾配程度の傾斜であり､区画溝とも考えられる。また、51号溝とこれに隣接する50号溝とは埋没土の構成が共通し、同時期に存在したと推測されるが、２条の溝が最接近すると想定される付近が攪乱されており、両者の関係を推測する手がかりに欠ける。なお、調査区中央付近と調査区東端寄りに存在する、南北方向に位置する２条の溝はいずれも北流していたと考えられる。

調査区の東側から、20m程の間隔をおいて２基の井戸が検出されている。このうち東側に位置する12号井戸埋没土とこれに隣接する50号溝地山の土は同種の土と思われるので、12号井戸を覆い隠した土砂が50号溝の地山となったと推察される。またこの土は５号墓の埋土でもあるので、５号墓も12号井戸埋没後の遺構と推測される。

土坑とピットは調査区の東端に寄るほどその分布密度が増す傾向にあり、殊に50号溝以東の標高180m台の一画に集中している。

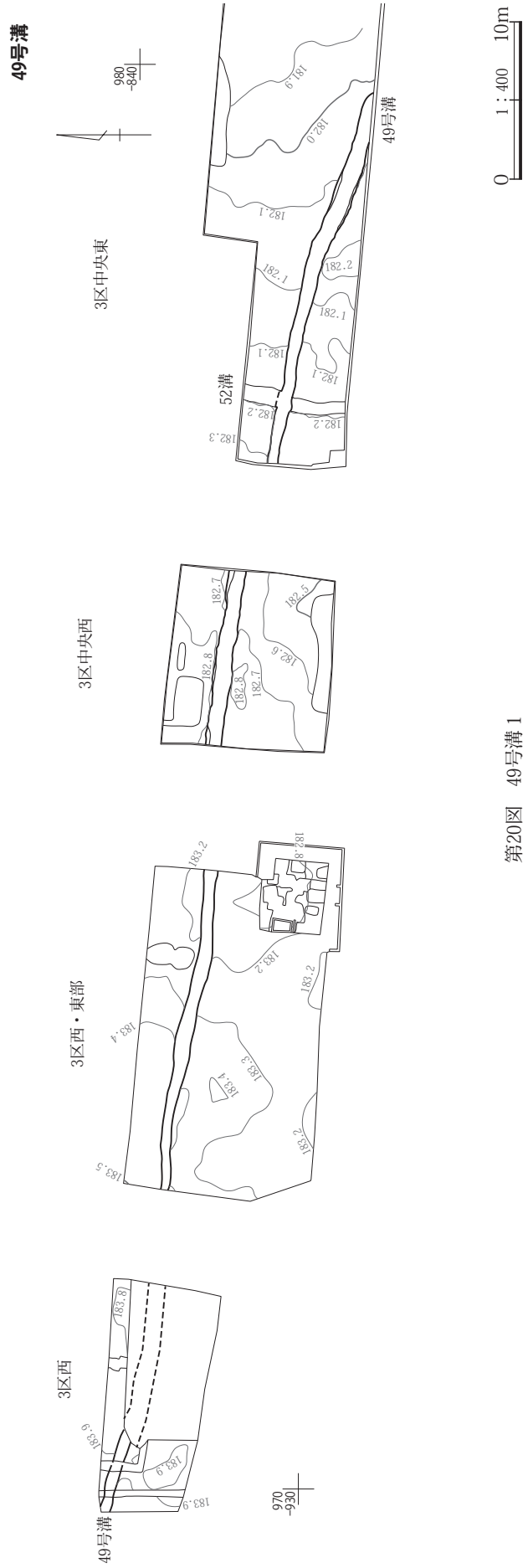
第２項　検出された遺構

１　溝、墓、井戸

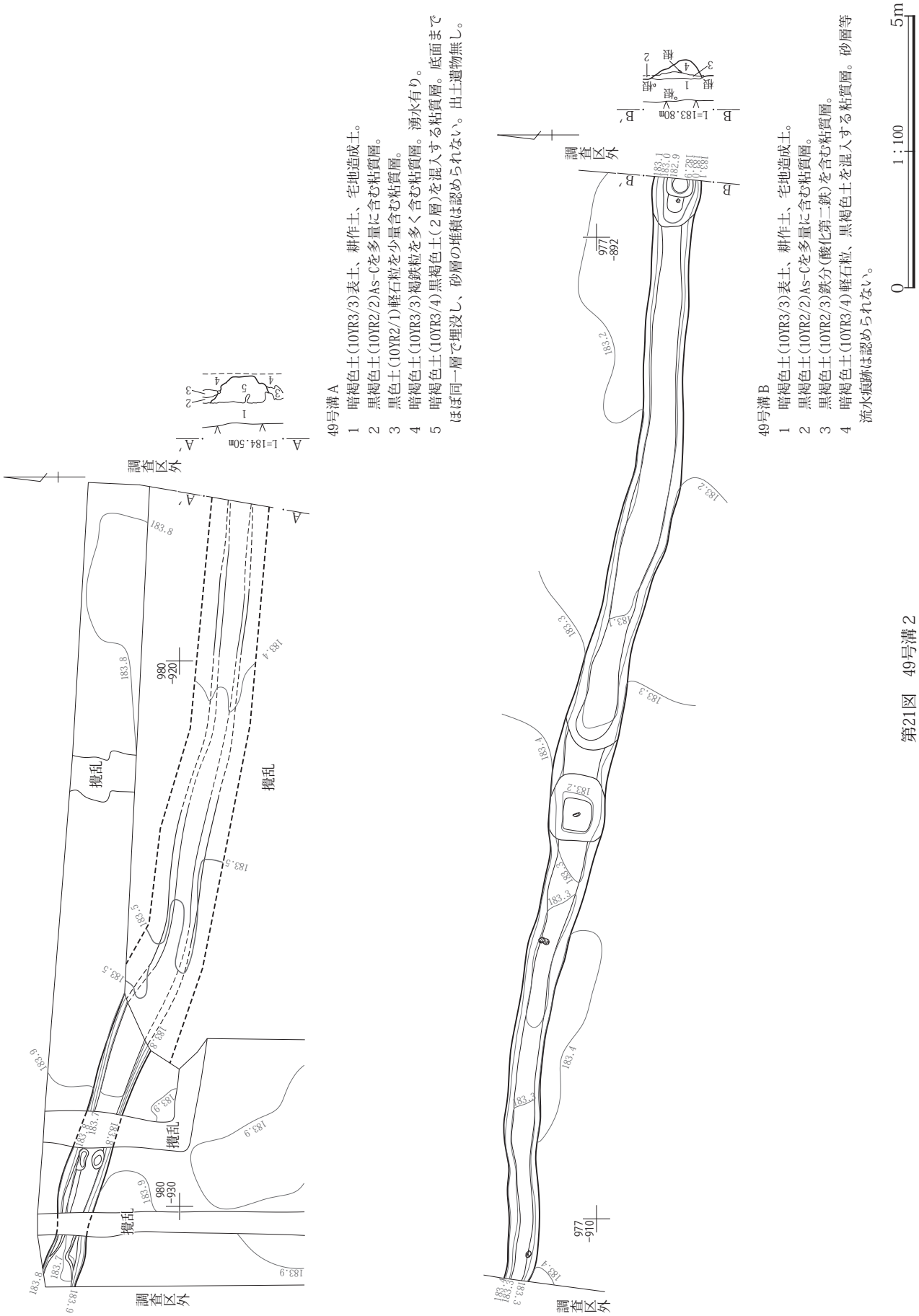
（１）49号溝（第20～22図、PL．４，５）

位置　X＝47,965～47,983、Y＝−73,841～−73,933、３区西の北西端から３区中央東の南辺中央付近にかけて位置する。両端とも調査区外に延びる。

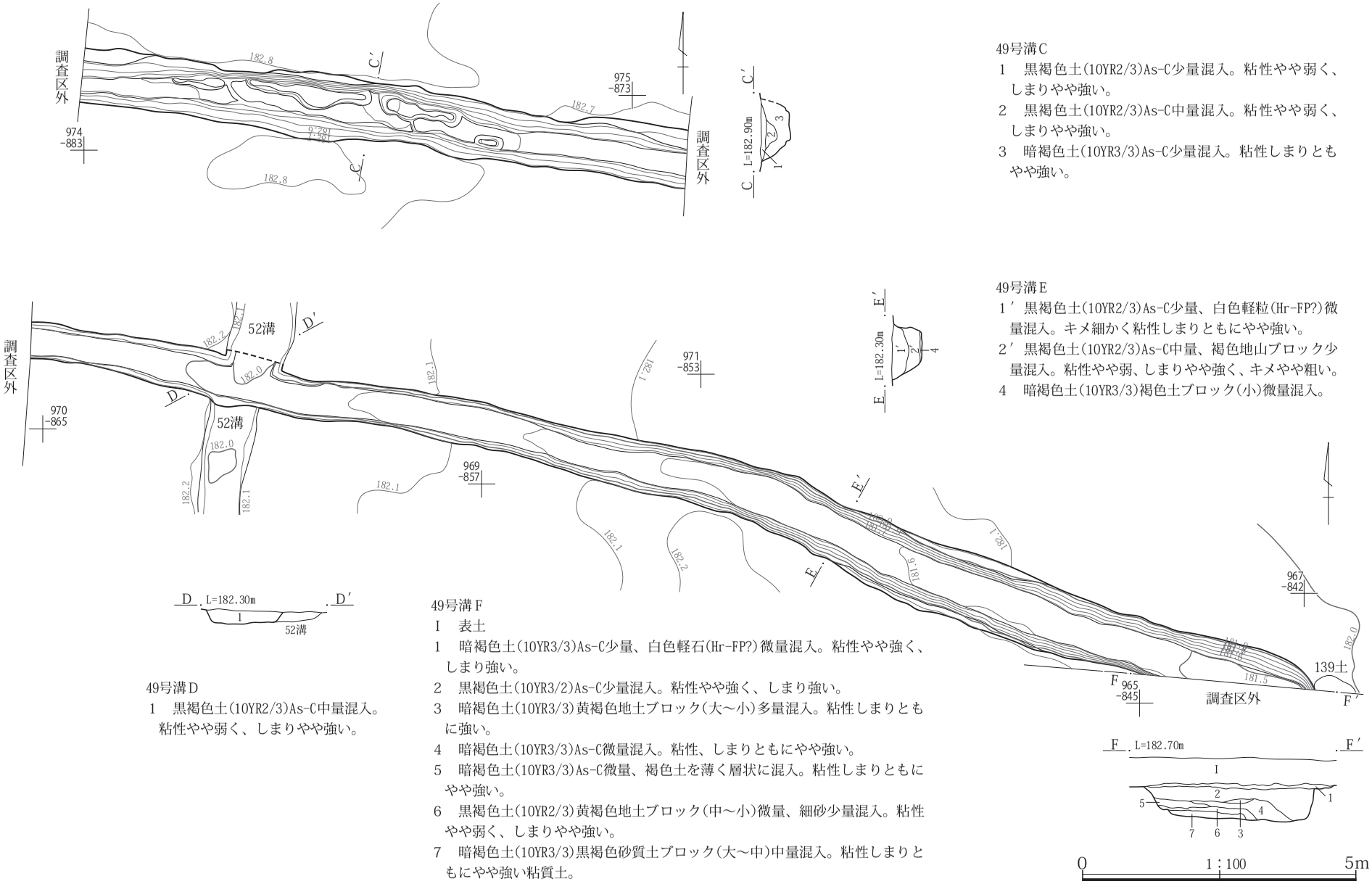
形状等　緩やかに屈曲を繰り返しつつも調査区の北西端からやや南下がりに東流し、調査区南辺から調査区外にいたる。上流側で一段掘り込まれた窪地２か所が確認さ



第20図　49号溝１


49号溝A
1　暗褐色土(10YR3/3)表土、耕作土、宅地造成土。
2　黒褐色土(10YR2/2)As-Cを多量に含む粘質層。
3　黒色土(10YR2/1)軽石粒を少量含む粘質層。
4　暗褐色土(10YR3/3)褐鉄粒を多く含む粘質層。湧水有り。
5　暗褐色土(10YR3/4)黒褐色土(２層)を混入する粘質層。底面までほぼ同一層で埋没し、砂層の堆積は認められない。出土遺物無し。
49号溝B
1　暗褐色土(10YR3/3)表土、耕作土、宅地造成土。
2　黒褐色土(10YR2/2)As-Cを多量に含む粘質層。
3　黒褐色土(10YR2/3)鉄分(酸化第二鉄)を含む粘質層。
4　暗褐色土(10YR3/4)軽石粒、黒褐色土を混入する粘質層。砂層等流水痕跡は認められない。
A　L=184.50m　A'
B　L=183.80m　B'
調査区外
撹乱
980
-920
980
-930
977
-892
977
-910
183.8
183.9
183.7
183.5
183.4
183.3
183.2
183.1
183.0
182.9
0
1:100
5m

第21図　49号溝２



49号溝Ｃ
1　黒褐色土(10YR2/3)As-C少量混入。粘性やや弱く、しまりやや強い。
2　黒褐色土(10YR2/3)As-C中量混入。粘性やや弱く、しまりやや強い。
3　暗褐色土(10YR3/3)As-C少量混入。粘性しまりともやや強い。

49号溝Ｅ
1′黒褐色土(10YR2/3)As-C少量、白色軽粒(Hr-FP?)微量混入。キメ細かく粘性しまりともにやや強い。
2′黒褐色土(10YR2/3)As-C中量、褐色地山ブロック少量混入。粘性やや弱、しまりやや強く、キメやや粗い。
4　暗褐色土(10YR3/3)褐色土ブロック(小)微量混入。

49号溝Ｄ
1　黒褐色土(10YR2/3)As-C中量混入。粘性やや弱く、しまりやや強い。

49号溝Ｆ
Ⅰ　表土
1　暗褐色土(10YR3/3)As-C少量、白色軽石(Hr-FP?)微量混入。粘性やや強く、しまり強い。
2　黒褐色土(10YR3/2)As-C少量混入。粘性やや強く、しまり強い。
3　暗褐色土(10YR3/3)黄褐色地土ブロック(大～小)多量混入。粘性しまりともに強い。
4　暗褐色土(10YR3/3)As-C微量混入。粘性、しまりともにやや強い。
5　暗褐色土(10YR3/3)As-C微量、褐色土を薄く層状に混入。粘性しまりともにやや強い。
6　黒褐色土(10YR2/3)黄褐色地土ブロック(中～小)微量、細砂少量混入。粘性やや弱く、しまりやや強い。
7　暗褐色土(10YR3/3)黒褐色砂質土ブロック(大～中)中量混入。粘性しまりともにやや強い粘質土。

第22図　49号溝３

れているが、底部は概ね平坦で側壁の外傾した箱堀とみなせる。

規模　(90.88)×0.45～1.24×0.25～0.66m。底面平坦部の幅0.18～0.69m、溝西端の底面標高183.71m、溝東端の底面標高181.45m、標高差2.26mを測る。

走行方位(度)　N-79-W

埋没土　調査区西辺付近は上層の地山ブロックの混入する暗褐色の粘質土、調査区南辺付近では下層の地山ブロックの混入する暗褐色の粘質土により埋没している。この両端の間となる中流域はAs-Cの混ざる暗褐色から黒褐色の粘性の強い土に覆われている。

重複　52号溝を横切る。

遺物　埋没土から土師器(23片、179ｇ)や須恵器(２片、82ｇ)の小片のほか、近世施釉陶器や近世国産焼締陶器から近現代陶磁器の小片なども出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から近世以降に比定される。52号溝より新しい。なお、調査区南辺の埋没土の堆積状況から、調査区外において本溝の流れる向きが東南東から南東方向に変わると推察される。

備考　確認面において139号土坑と隣接するが、新旧関係を示す資料は確認されていない。埋没土の比較からは139号土坑に先行する可能性も認められる。

(２)50号溝(第23図、PL．５)

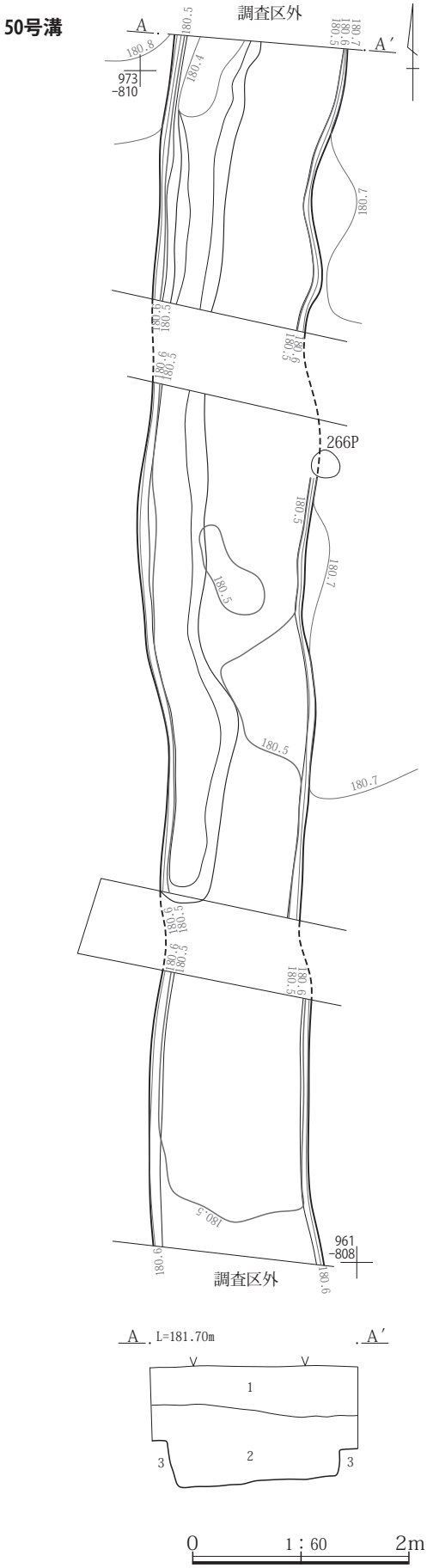
位置　Ｘ＝47,961～47,974、Ｙ＝-73,808～73,810、３区東の西寄りに位置する。

形状等　調査区南辺より北流し、調査区北辺にいたり調査区外に続く。ほぼ南北に位置し、底部は平坦で箱堀となるが、底面は西下がりの傾斜が認められる。

規模　(11.20)×1.32～1.64×0.10～0.43m。底面平坦部の幅1.11～1.56m、溝南端の底面標高180.51m、溝北端の底面標高180.37m、標高差0.14mを測る。

走行方位(度)　N－1－E

50号溝
1　表土。攪乱層、砂質(φ１mmほど)黒色土。しまりあり、粘りなし。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)。しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒(１～数mm)を１％ほど含む。ところどころに鈍い褐色(7.5YR5/4)シルト質のブロック(φ数cm)が混ざる。
3　黒褐色土(10YR2/3)砂質。しまり強く、粘りあり。しまり強く、粘りある砂質暗褐色土(10YR3/3)を含み、しまり強く、粘り強い褐色(10YR4/4)シルト質土を数cm大のブロック状に含む。地山。



第23図　50号溝

埋没土　褐色のシルト質土のブロックと砂粒を含む黒褐色土に覆われる。

重複　266号ピット

遺物　図化には至らなかったが、土師器（４片、14ｇ）や須恵器（１片、７ｇ）の小片が出土している。

所見　本遺構は中世以降に帰属すると推察されるが、詳細は不明である。266号ピットに先行する。

（３）51号溝（第24図、PL．６）

位置　Ｘ＝47,964～47,966、Ｙ＝−73,810～−73,814、３区東の南西隅に位置する。

形状等　やや南下がりながら東西に位置する。

規模　(3.16)×0.38～0.50×0.11～0.20m。底面平坦部の幅0.26～0.35m、溝西端の底面標高180.48m、溝東端の底面標高180.48m、標高差0.00mを測る。

走行方位（度）　N−78−W

埋没土　砂粒とシルト質の褐色土ブロックの混ざる砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

（４）52号溝（第24図、PL．５，６）

位置　Ｘ＝47,967～47,974、Ｙ＝−73,860～−73,862、３区中央東の西端寄りに位置する。

形状等　調査区南辺から北流し、調査区北辺にいたり調査区外に続く。ほぼ直線状に南北に位置する。

規模　(6.48)×0.38～0.57×0.02～0.17m。底面平坦部の幅0.20～0.43m、溝南端の底面標高182.09m、溝北端の底面標高182.02m、標高差0.07mを測る。

走行方位（度）　N−9−E

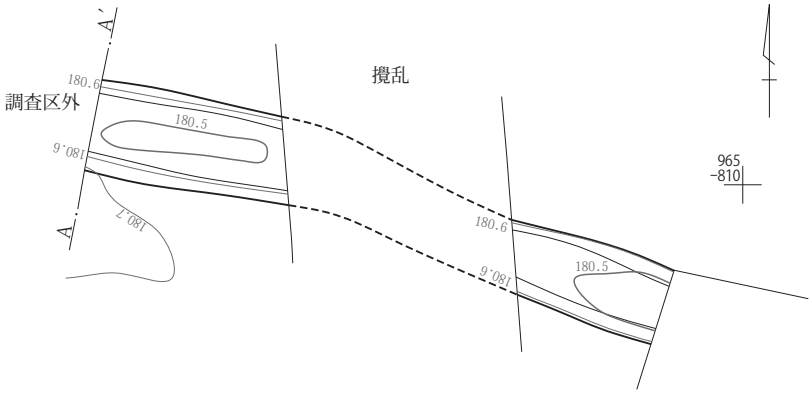
埋没土　白色粒、黄色粒を含む黒褐色土に覆われる。

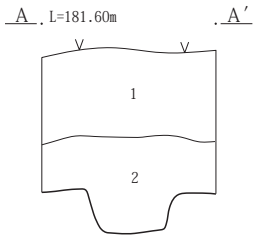
重複　49号溝に横切られる。

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。49号溝に先行する。

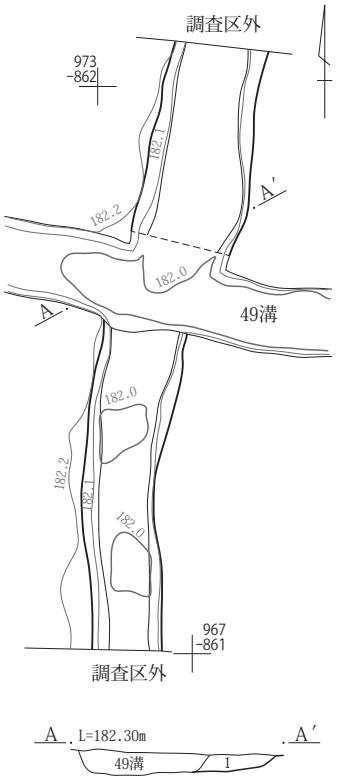
51号溝





51号溝
1　表土。撹乱層。砂質（φ１mmほど）の黒色土。しまりあり、粘りなし。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質（φ0.5mm以下）、しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒（１～数mm）を１％ほど含む。ところどころにシルト質の鈍い褐色土(7.5YR5/4)ブロック（φ数cm）が混ざる。

52号溝



52号溝
1　黒褐色土(10YR2/2)白色・黄色粒子微量混入。粘性やや強く、しまり強い。

0　1：40　1m

0　1：80　2m

第24図　51号溝、52号溝

（５）５号墓（第25,44図、PL．６,20）

位置　Ｘ＝47,970～47,972、Ｙ＝−73,811～−73,812、３区東の北西隅に位置する。

形状等　遺構西半が排水管敷設工事により失われ、全形は確認されないが、長方形を呈すると推察される。底部は平坦で側壁は垂直に穿たれている。

規模　1.11×(0.63)×0.38m

主軸方位（度）　N−0

埋没土　シルト質の褐色土と砂質の暗褐色土を含む砂質の黒褐色土に埋もれる。

重複　なし

遺物　出土層位は不明であるが、永楽通寶、大観通寶、熙寧元寶を含む銅銭２組６枚（１，２）が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世に比定される。出土した銭貨は六道銭の可能性がある。

備考　発掘当初は117号土坑として着手された。

（６）12号井戸（第25図、PL．６）

位置　Ｘ＝47,968～47,971、Ｙ＝−73,810～−73,812、３区東の西辺寄りに位置する。

形状等　西端が排水管敷設工事により失われているが、平面形は南西にやや引き延ばされた円形を呈すると推察される。口の広い漏斗状の掘り込みである。遺構内から角礫が検出されているが、石組みや木組みの痕跡は確認されていない。

規模　(1.60)×1.57×(0.80)m

主軸方位（度）　N−80−E

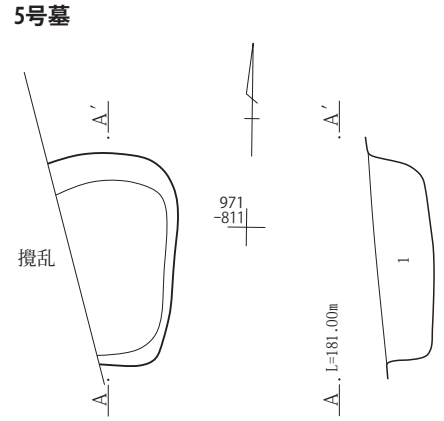
埋没土　砂質の暗褐色土とシルト質の褐色土を含む黒褐色土に覆われる。

重複　なし

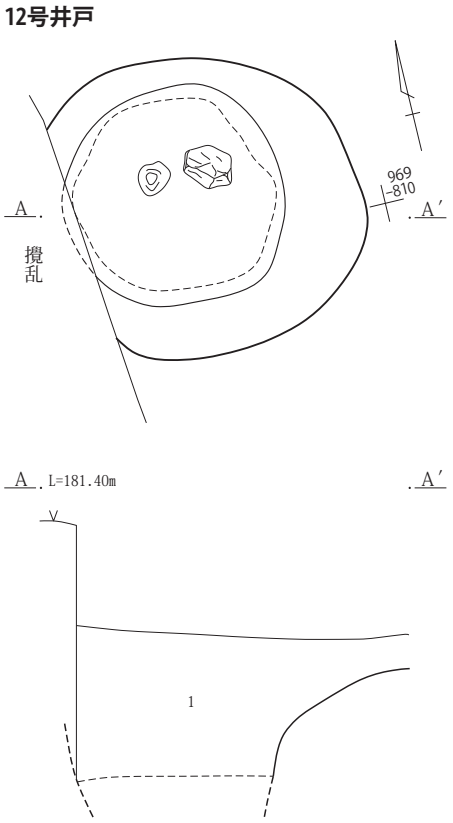
遺物　図化には至らなかったが、埋没土から土師器の小片（１片、10ｇ）が出土している。

所見　本遺構の年代は不明であるが、隣接する５号墓と埋没土が共通しており、本遺構も中世に帰属する可能性が高い。なお、５号墓の埋没土が埋土である点を踏まえれば、５号墓に先行する可能性は高いと予想される。

備考　発掘調査中に118号土坑から12号井戸へと呼称が変更された。



５号墓
1　黒褐色土(10YR2/3)砂質、しまり強く、粘りあり。砂質のしまり強く、粘りある暗褐色土(10YR3/3)を含み、シルト質のしまり強く、粘り強い褐色土(10YR4/4)を数cm大のブロック状に含む。



12号井戸
1　黒褐色土(10YR2/3)砂質、しまり強く、粘りあり。砂質のしまり強く、粘りある暗褐色土(10YR3/3)を含み、シルト質のしまり強く、粘り強い褐色土(10YR4/4)を数cm大のブロック状に含む。

0　1：40　1m

第25図　５号墓、12号井戸

（７）13号井戸（第26,27,44図、PL．７,20）

位置　Ｘ＝47,967～47,969、Ｙ＝−73,831～−73,834、３区中央東の中央付近やや東寄りに位置する。

形状等　円形の、口の狭い漏斗状の掘り込みが確認されている。遺構内から礫が多量に検出されたが、石組みや木組みの痕跡は確認されていない。

規模　1.86×1.69×(2.28)m

主軸方位（度）　N−65−E

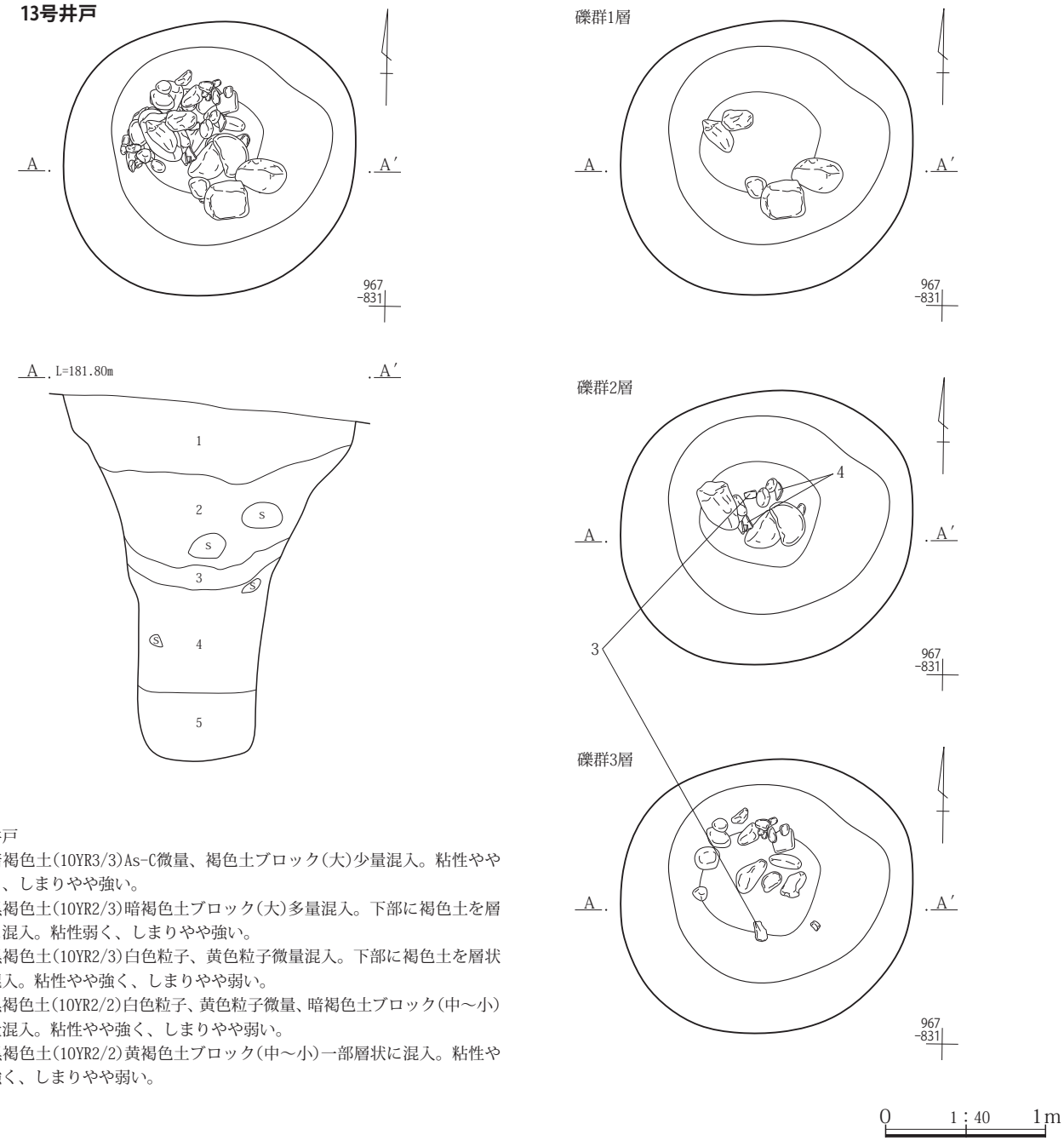
埋没土　遺物の出土した中層には、白色粒子、黄色粒子が微量混入した黒褐色土が堆積する。なお最下層は黄褐色土ブロックが混入する黒褐色土である。

重複　なし

遺物　As−C混土層下位の２層下部から在地土器片口鉢（３、４）が出土しているほか、図化には至らなかったが土師器の小片（１片、４ｇ）が出土している。

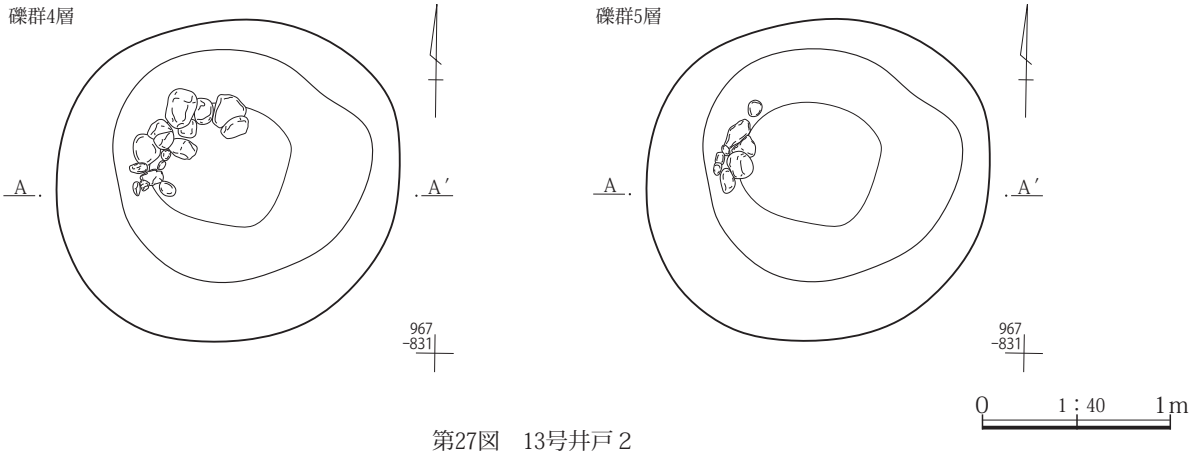
所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世に比定される。

備考　発掘調査中に126号土坑から13号井戸へと呼称が変更された。



13号井戸
1　暗褐色土(10YR3/3)As-C微量、褐色土ブロック(大)少量混入。粘性やや弱く、しまりやや強い。
2　黒褐色土(10YR2/3)暗褐色土ブロック(大)多量混入。下部に褐色土を層状に混入。粘性弱く、しまりやや強い。
3　黒褐色土(10YR2/3)白色粒子、黄色粒子微量混入。下部に褐色土を層状に混入。粘性やや強く、しまりやや弱い。
4　黒褐色土(10YR2/2)白色粒子、黄色粒子微量、暗褐色土ブロック(中～小)少量混入。粘性やや強く、しまりやや弱い。
5　黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土ブロック(中～小)一部層状に混入。粘性やや強く、しまりやや弱い。

第26図　13号井戸１



第27図　13号井戸２

２　土坑

１面から検出された土坑18基は、その埋没土への褐色土ブロックとAs-Cの混入具合により概ねではあるが３群に区分される。３区東から検出された111～113号土坑、115号土坑、116号土坑の５基はいずれもシルト質の褐色土ブロックが埋没土に混入している。３区中央東から検出された125号土坑、134号土坑、135号土坑の３基はいずれもAs-Cを含む埋没土に覆われている。同じく３区中央東から検出された123号土坑、124号土坑、128～133号土坑の８基の埋没土からはAs-Cや褐色土ブロックが検出されていない。例外は３区東から検出された114号土坑と３区中央東から検出された139号土坑の２基である。114号土坑の埋没土は上記３群のいずれにも属さず、12号井戸と共通する。また139号土坑の埋没土も上記３群には属さず、この埋没土は13号井戸や隣接する49号溝に近しい。

（１）111号土坑（第28,44図、PL．７）

位置　X＝47,968～47,969、Y＝-73,802～-73,804、調査区３区東の中央やや北東寄りに位置する。

形状等　平面形は概ね円形を呈する。確認面より0.7m程掘り進むも底面に至らず、確認された範囲では下すぼまりの円柱状となった。

規模　0.88×0.79×(0.74)m

主軸方位（度）　N-35-E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土を含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　239号ピット

遺物　埋没土から在地系土器皿（５）のほか、図化には至らなかったが土師器（２片、22ｇ）が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世に比定される。239号ピットより新しい。

（２）112号土坑（第28図、PL．７）

位置　X＝47,963～47,965、Y＝-73,805～-73,807、調査区３区東の中央やや南寄りに位置する。

形状等　底面は平坦で、側壁はやや外傾する。平面形は隅丸の平行四辺形を呈する。

規模　1.22×1.08×0.22m

主軸方位（度）　N-７-E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土を含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明であるが、埋没土から中世以降に帰属すると推察される。

（３）113号土坑（第28図、PL．８）

位置　X＝47,968～47,969、Y＝-73,804～-73,806、調査区３区東の中央やや北寄りに位置する。

形状等　底面は平坦で、側壁はやや外傾する。平面形は隅丸の平行四辺形を呈する。

規模　0.86×0.76×0.48m

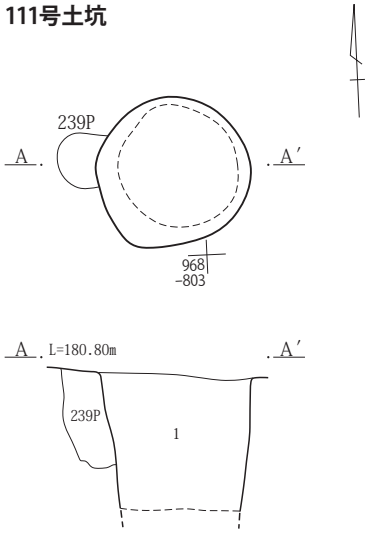
主軸方位（度）　N-53-W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土を含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

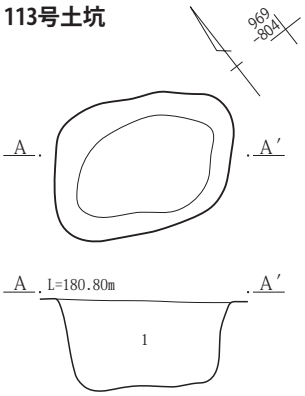
遺物　図化には至らなかったが土師器（１片、13ｇ）が出

111号土坑



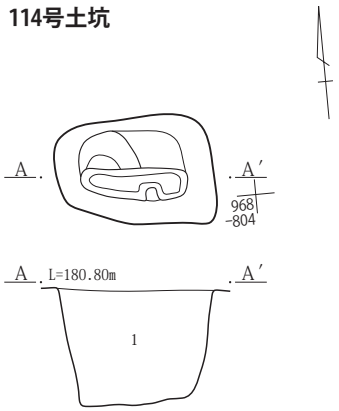
111号土坑
1　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒(１～数mm)を１％ほど含む。ところどころにシルト質の鈍い褐色土(7.5YR5/4)ブロック(φ数cm)が混ざる。

113号土坑



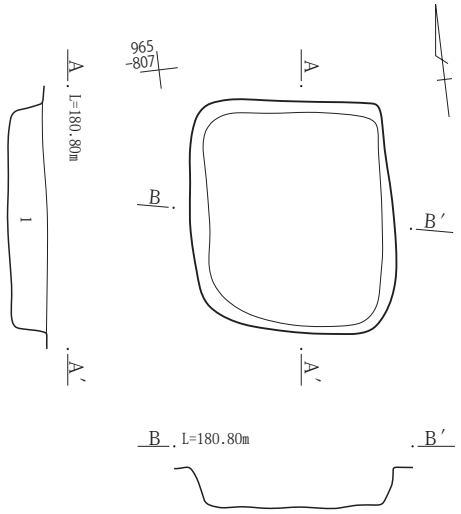
113号土坑
1　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒(１～数mm)を１％ほど含む。ところどころにシルト質の鈍い褐色土(7.5YR5/4)ブロック(φ数cm)が混ざる。

114号土坑



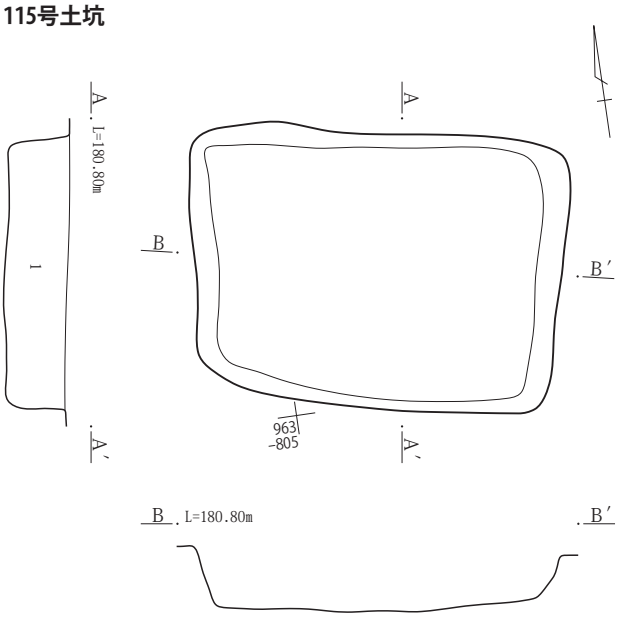
114号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)砂質、しまり強く、粘りあり。砂質のしまり強く、粘りある暗褐色土(10YR3/3)を含み、シルト質のしまり、粘りともに強い褐色土(10YR4/4)を数cm大のブロック状に含む。

112号土坑



112号土坑
1　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒(１～数mm)を１％ほど含む。ところどころにシルト質の鈍い褐色土(7.5YR5/4)ブロック(φ数cm)が混ざる。

115号土坑



115号土坑
1　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒(１～数mm)を１％ほど含む。ところどころにシルト質の鈍い褐色土(7.5YR5/4)ブロック(φ数cm)が混ざる。

0　1：40　1m

第28図　土坑１

土している。

所見　本遺構の年代は不明であるが、埋没土から中世以降に帰属すると推察される。

（４）114号土坑（第28図、PL．８）

位置　Ｘ＝47,967～47,969、Ｙ＝−73,804～−73,806、調査区３区東の中央やや北寄りに位置する。

形状等　平面形は隅丸の台形を呈する。底面は平坦であるが、南北で深さが相違し、南辺側が一段深く掘り込まれている。

規模　0.84×0.56×0.63m

主軸方位（度）　N−85−W

埋没土　砂質の暗褐色土とシルト質の褐色土を含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明であるが、埋没土から中世以降に帰属すると推察される。

（５）115号土坑（第28図、PL．８）

位置　Ｘ＝47,962～47,965、Ｙ＝−73,803～−73,806、調査区３区東の中央やや南東よりに位置する。

形状等　底面は平坦であり、側壁はやや外傾する。平面形は隅丸長方形を呈する。

規模　1.95×1.45×0.34m

主軸方位（度）　N−78−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土を含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明であるが、埋没土から中世以降に帰属すると推察される。

（６）116号土坑（第29図、PL．８）

位置　Ｘ＝47,961～47,963、Ｙ＝−73,804～−73,806、調査区３区東の中央南寄りに位置する。

形状等　平面形は長方形の短辺の一つが弧状に突出した形状となっており、底面は平坦で側壁はほぼ垂直となっている。

規模　1.20×0.54×0.27m

主軸方位（度）　N−85−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土を含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明であるが、埋没土から中世以降に帰属すると推察される。

（７）123号土坑（第29図、PL．９）

位置　Ｘ＝47,966～47,967、Ｙ＝−73,839～−73,841、調査区３区中央東の中央南辺近くに位置する。

形状等　隅丸方形を呈する。側壁は垂直に掘られ、底部は曲面をなしている。

規模　0.49×0.41×0.37m

主軸方位（度）　N−22−E

埋没土　暗褐色の粘質土に覆われる。

重複　なし

遺物　図化には至らなかったが、土師器（４片、14ｇ）のほか近世や近現代の国産磁器などが出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から近世以降に帰属すると推察される。

（８）124号土坑（第29図、PL．９）

位置　Ｘ＝47,972～47,974、Ｙ＝−73,831～−73,833、調査区３区中央東の中央北辺近くに位置する。

形状等　平坦な底部のみの検出であり、平面形は偏円形を呈する。

規模　0.78×0.67×0.12m

主軸方位（度）　N−18−E

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中世以降に帰属すると推察される。

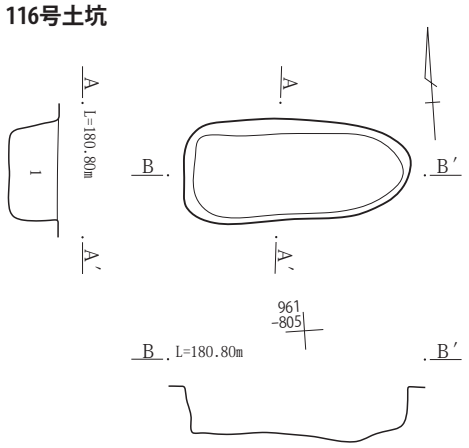
（９）125・134・135号土坑（第29図、PL．９,10）

ａ　125号土坑

位置　Ｘ＝47,974～47,975、Ｙ＝−73,830～−73,832、調査区３区中央東の中央北辺沿いに位置する。

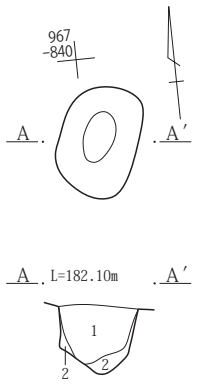
形状等　平面形は隅丸方形を呈し、底部は平坦であり、

116号土坑



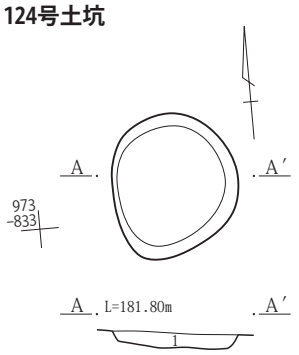
116号土坑
1　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒(１～数mm)を１％ほど含む。ところどころにシルト質の鈍い褐色土(7.5YR5/4)ブロック(φ数cm)が混ざる。

123号土坑



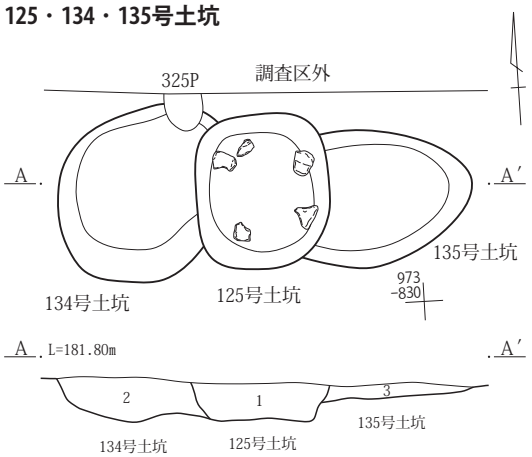
123号土坑
1　暗褐色(10YR3/4)粘質土
2　黒色(10YR2/1)粘質土

124号土坑



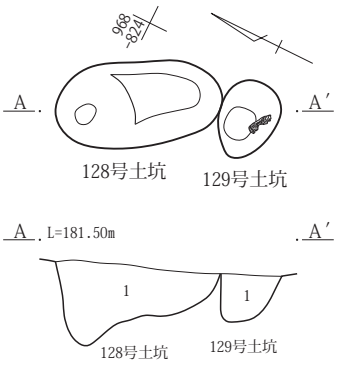
124号土坑
1　暗黒褐色土(10YR3/4)しまり、粘りともにあり。

125・134・135号土坑



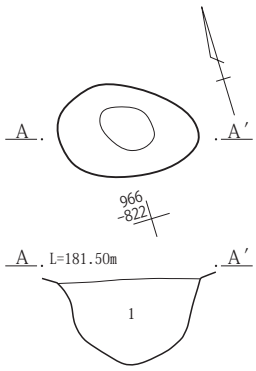
125・134・135号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)As-C小量混入。粘性やや弱く、しまりやや強い。(125号土坑)
2　暗褐色土(10YR3/4)As-C微量混入。粘性やや弱く、しまりやや強い。(134号土坑)
3　暗褐色土(10YR3/4)As-C極微量混入。粘性やや弱く、しまりやや強い。(135号土坑)

128、129号土坑



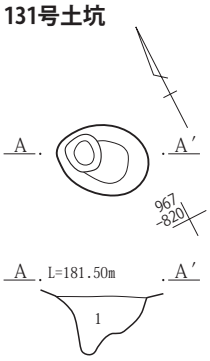
128号土坑、129号土坑
1　暗黒褐色土(10YR3/4)しまり、粘りともに有り。

130号土坑



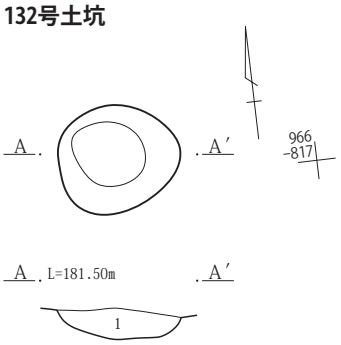
130号土坑
1　暗黒褐色土(10YR3/4)しまり、粘りともに有り。

131号土坑



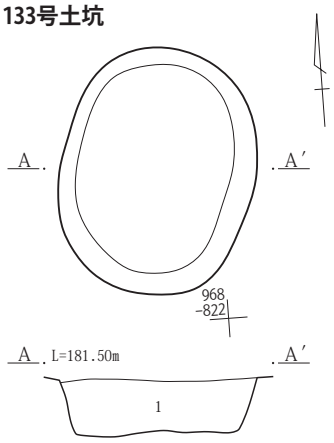
131号土坑
1　暗黒褐色土(10YR3/4)しまり、粘りともに有り。

132号土坑



132号土坑
1　暗黒褐色土(10YR3/4)しまり、粘りともに有り。

133号土坑



133号土坑
1　暗黒褐色土(10YR3/4)しまり、粘りともに有り。

0　1：40　1m

第29図　土坑２

側壁は傾斜する。また底部四隅近くから、割石と思われる上面平坦な角礫が検出されている。

規模　0.82×0.7×0.21m

主軸方位(度)　N-0

埋没土　As-Cの混入する暗褐色土に覆われる。

重複　134号土坑、135号土坑

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。134号土坑、135号土坑のいずれよりも新しい。

備考　底面から検出された礫の上端標高が記録されていないため推測にとどまるが、これらの礫はこの上に設置したものを受け止め支えるための台として、礎石を意図して配置されたと推察される。

b　134号土坑

位置　X＝47,973～47,975、Y＝-73,831～-73,832、調査区３区中央東の中央北辺沿いに位置する。

形状等　皿形の底部のみの検出であり、平面形は偏円形を呈する。

規模　1.05×0.85×0.25m

主軸方位(度)　N-43-E

埋没土　As-Cの混入する暗褐色土に覆われる。

重複　125号土坑、325号ピット

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。125号土坑、325号ピットのいずれにも先行する。

c　135号土坑

位置　X＝47,973～47,974、Y＝-73,829～-73,831、調査区３区中央東の中央北辺沿いに位置する。

形状等　西端が不明の為平面形は明らかではないが、長円形を呈すると予想される。

規模　(0.75)×0.73×0.10m

主軸方位(度)　N-87-W

埋没土　As-Cの混入する暗褐色土に覆われる。

重複　125号土坑

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。125号土坑に先行する。

(10)128号土坑(第29図、PL.10)

位置　X＝47,967～47,969、Y＝-73,824～-73,825、調査区３区中央東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。底面は傾斜し、南端が最も浅く北に向かうにつれ深さがまし、北壁はほぼ垂直となる。

規模　0.89×0.45×0.49m

主軸方位(度)　N-34-W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中世以降に帰属すると推察される。

備考　確認面において129号土坑とは接するものの新旧関係は確認されていない。

(11)129号土坑(第29図、PL.10)

位置　X＝47,967～47,968、Y＝-73,824～-73,825、調査区３区中央東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。南東側が浅く北西側が最も深くなっている。

規模　0.43×0.33×0.31m

主軸方位(度)　N-83-W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　調査時点において木片の出土が確認されている。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に帰属すると推察される。

備考　確認面において128号土坑とは接するものの新旧関係は確認されていない。

(12)130号土坑(第29,44図、PL.10,20)

位置　X＝47,966～47,967、Y＝-73,821～-73,823、調査区３区中央東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。側壁は傾斜し、底面は弧状を呈する。

規模　0.74×0.49×0.50m

主軸方位(度)　N-66-W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　一部欠損するが、埋没土から製作地不詳の戸車(６)が出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から近世に帰属すると推察される。

(13)131号土坑(第29図、PL.10)

位置　X＝47,967～47,968、Y＝-73,820～-73,821、調査区３区中央東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。底面は北西下がりではあるが概ね平坦であり、側壁は傾斜する。

規模　0.48×0.36×0.35m

主軸方位(度)　N-44-W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中世以降に帰属すると推察される。

(14)132号土坑(第29図、PL.10,11)

位置　X＝47,965～47,967、Y＝-73,817～-73,819、調査区３区中央東の東辺近くに位置する。

形状等　弧状を描く浅い皿状の底部のみの検出であり、平面形は偏円形を呈する。

規模　0.64×0.57×0.19m

主軸方位(度)　N-84-W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中世以降に帰属すると推察される。

(15)133号土坑(第29図、PL.11)

位置　X＝47,968～47,970、Y＝-73,821～-73,823、調査区３区中央東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。底部は平坦であり、側壁はやや外傾する。

規模　1.30×1.02×0.32m

主軸方位(度)　N-18-E

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中世以降に帰属すると推察される。

(16)139号土坑(第30図、PL.11)

位置　X＝47,965～47,966、Y＝-73,841～-73,842、調査区３区中央東の中央南辺沿いに位置する。

形状等　遺構の南半が調査区外に位置し、平面形は不明であるが長円形と予測される。ほぼ垂直に掘り込まれており、底部は整えられておらず、掘削時の痕跡が残されている。

規模　(0.78)×(0.29)×0.88m

主軸方位(度)　N-78-W

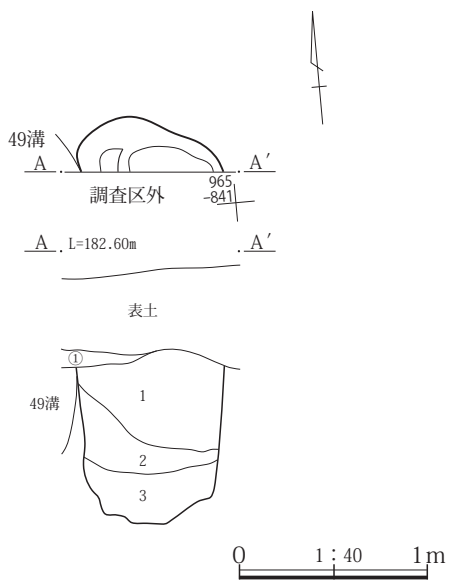
埋没土　As-Cと黄褐色土ブロックを含む黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中世以降に帰属すると推察される。

備考　確認面において49号溝と隣接するが、新旧関係を検証する資料は確認されていない。埋没時期は大差ないと推測されるが、相互の埋没土の比較からは49号溝より新しい可能性が認められる。



139号土坑
① 暗褐色土(10YR3/3)As-C少量、白色軽石(FP?)微量混入。粘性やや強く、しまり強い。
1 暗褐色土(10YR3/3)As-C中量混入。粘性やや弱く、しまりやや強い。
2 黒褐色土(10YR2/3)As-C微量、黄褐色土ブロック(極小)微量混入。粘性、しまりともにやや弱い。
3 黒褐色土(10YR2/2)As-C微量、黄褐色土ブロック(小～極小)中量混入。粘性やや強く、しまりやや弱い。

第30図　土坑３

第３－２－１表　１面土坑一覧

遺構名	検出位置		平面形	規模	主軸方位(度)	重複遺構
111号土坑	３区東	X=47,968～47,969、Y=-73,802～-73,804	円形	0.88×0.79×(0.74)	N-35-E	239号ピット
112号土坑	３区東	X=47,963～47,965、Y=-73,805～-73,807	隅丸方形	1.22×1.08×0.22	N-7-E	
113号土坑	３区東	X=47,968～47,969、Y=-73,804～-73,806	隅丸長方形	0.86×0.76×0.48	N-53-W	
114号土坑	３区東	X=47,967～47,969、Y=-73,804～-73,806	隅丸四辺形	0.84×0.56×0.63	N-85-W	
115号土坑	３区東	X=47,962～47,965、Y=-73,803～-73,806	隅丸長方形	1.95×1.45×0.34	N-78-W	
116号土坑	３区東	X=47,961～47,963、Y=-73,804～-73,806	不整形	1.20×0.54×0.27	N-85-W	
123号土坑	３区中央東	X=47,966～47,967、Y=-73,839～-73,841	隅丸方形	0.49×0.41×0.37	N-22-E	
124号土坑	３区中央東	X=47,972～47,974、Y=-73,831～-73,833	偏円形	0.78×0.67×0.12	N-18-E	
125号土坑	３区中央東	X=47,974～47,975、Y=-73,830～-73,832	隅丸方形	0.82×0.70×0.21	N-0	134号土坑、135号土坑
128号土坑	３区中央東	X=47,967～47,969、Y=-73,824～-73,825	長円形	0.89×0.45×0.49	N-34-W	
129号土坑	３区中央東	X=47,967～47,968、Y=-73,824～-73,825	偏円形	0.43×0.33×0.31	N-83-W	
130号土坑	３区中央東	X=47,966～47,967、Y=-73,821～-73,823	偏円形	0.74×0.49×0.50	N-66-W	
131号土坑	３区中央東	X=47,967～47,968、Y=-73,820～-73,821	長円形	0.48×0.36×0.35	N-44-W	
132号土坑	３区中央東	X=47,965～47,967、Y=-73,817～-73,819	偏円形	0.64×0.57×0.19	N-84-W	
133号土坑	３区中央東	X=47,968～47,970、Y=-73,821～-73,823	長円形	1.30×1.02×0.32	N-18-E	
134号土坑	３区中央東	X=47,973～47,975、Y=-73,831～-73,832	偏円形	1.05×0.85×0.25	N-43-E	125号土坑、325号ピット
135号土坑	３区中央東	X=47,973～47,974、Y=-73,829～-73,831	長円形か	(0.75)×0.73×0.10	N-87-W	125号土坑
139号土坑	３区中央東	X=47,965～47,966、Y=-73,841～-73,842	不明	(0.78)×(0.29)×0.88	N-78-W	

２　ピット

本調査区の１面から検出されたピット86基は、３区中央東調査区と３区東調査区に偏在する。１面ピット総数86基のうち3/4は埋没土にシルト質の褐色土を含む単層の遺構である。このほかAs-C混土を埋没土に含むピットが３基確認されているが、これらを除き残るピットはすべて埋没土にシルト質の褐色土もAs-Cも含まれていない単層の遺構である。なおシルト質の褐色土を埋没土に含むピットは、３区中央東調査区の１基を除き、３区東調査区から出土した遺構である。また埋没土にシルト質の褐色土を含まないピットはすべて３区中央東調査区から出土しており、３基を除きその埋没土はAs-C混土層より上位に堆積する土と同種である。

調査区東端の100㎡にも満たない範囲に65基のピットが密集している。発掘調査時点から掘立柱建物などの存在が予想され、建物の検出に努めてきたが的確なプランを見いだせていない。３区東調査区の247号ピットの埋没土から景徳元寶が出土しており、３区東調査区は中世以前の遺構が主体であると推測される。とはいえ礎石と柱穴の両者を組み合わせて用いる建物構造の遺構が含まれる可能性も否定できず、柱穴のみから建物構造を推測・復元することを難しくしている。

こうした状況下で、例外的に規則的な配列をうかがわせる場所が調査区東端に２か所ほど存在する(第36図)。３区東調査区東北隅の220号ピット・221号ピット・237号ピット・223号ピット・224号ピットの一群と、この南に位置する242号ピット・250号ピット・236号ピット・240号ピット・235号ピットの一群である。この両群をそれぞれ建造物の一部と仮定すると、両群共に0.7m～1.0mを単位とする柱間と45度ほど東に傾く軸方向が予想されるが、建造物の可能性にとどめたい。

(１)219号ピット(第31図、PL.11)

位置　X＝47,971～47,972、Y＝-73,803～-73,804、調査区３区東の北東隅に位置する。

形状等　平面形は隅丸三角形を呈する。

規模　0.21×0.20×0.45m

主軸方位(度)　N-19-E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(２)220号ピット(第31図、PL.11)

位置　X＝47,970～47,971、Y＝-73,802～-73,804、調査区３区東の北東隅に位置する。

形状等　平面形は隅丸方形を呈する。

規模　0.21×0.19×0.24m

主軸方位(度)　N-42-E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　図化には至らなかったが、埋没土から土師器片が出土している。

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

（３）221号ピット（第31図、PL.11）

位置　Ｘ＝47,969～47,971、Ｙ＝−73,802～−73,803、調査区３区東の北東隅に位置する。

形状等　平面形は方形を呈する。

規模　0.22×0.21×0.42m

主軸方位（度）　N−５−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

（４）222号ピット（第31図、PL.11）

位置　Ｘ＝47,970～47,971、Ｙ＝−73,801～−73,803、調査区３区東の北東隅に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.27×0.21×0.32m

主軸方位（度）　N−77−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

（５）223号ピット（第31図、PL.11）

位置　Ｘ＝47,970～47,971、Ｙ＝−73,801～−73,802、調査区３区東の北東隅に位置する。

形状等　平面形は隅丸長方形を呈する。

規模　0.22×0.16×0.31m

主軸方位（度）　N−76−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

（６）224号ピット（第31図、PL.11）

位置　Ｘ＝47,970～47,971、Ｙ＝−73,800～−73,801、調査区３区東の北東隅に位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.18×0.16×0.29m

主軸方位（度）　N−73−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

（７）225号ピット（第31図、PL.11）

位置　Ｘ＝47,969～47,970、Ｙ＝−73,800～−73,801、調査区３区東の北東隅に位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.27×0.25×0.36m

主軸方位（度）　N−68−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

（８）226号ピット（第31図、PL.11）

位置　Ｘ＝47,969～47,971、Ｙ＝−73,800～−73,801、調査区３区東の北東隅に位置する。

形状等　平面形は隅丸方形を呈する。

規模　0.20×0.19×0.39m

主軸方位（度）　N−21−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

（９）227号ピット（第31図、PL.11）

位置　Ｘ＝47,969～47,970、Ｙ＝−73,799～−73,801、調査区３区東の北東隅に位置する。

形状等　平面形は隅丸方形を呈する。

規模　0.23×0.20×0.39m
主軸方位(度)　N-67-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(10)228号ピット(第31図、PL.12)
位置　X＝47,969～47,970、Y＝-73,804～-73,805、調査区３区中央の北辺寄りに位置する。
形状等　平面形は円形を呈する。
規模　0.22×0.20×0.37m
主軸方位(度)　N－３－E
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　図化には至らなかったが、埋没土から縄文土器の破片が出土している。
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(11)229号ピット(第31図、PL.12)
位置　X＝47,970～47,971、Y＝-73,804～-73,805、調査区３区中央の北辺寄りに位置する。
形状等　平面形は偏円形を呈する。
規模　0.31×0.25×0.41m
主軸方位(度)　N－７－W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(12)230号ピット(第31図、PL.12)
位置　X＝47,969～47,970、Y＝-73,803～-73,805、調査区３区中央の北辺寄りに位置する。
形状等　平面形は偏円形を呈する。
規模　0.27×0.23×0.39m
主軸方位(度)　N-83-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(13)231号ピット(第31図、PL.12)
位置　X＝47,969～47,970、Y＝-73,804～-73,805、調査区３区中央の北辺寄りに位置する。
形状等　平面形は隅丸方形を呈する。
規模　0.21×0.19×0.14m
主軸方位(度)　N-85-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(14)232号ピット(第31図、PL.12)
位置　X＝47,968～47,969、Y＝-73,802～-73,803、調査区３区中央の東辺寄りに位置する。
形状等　平面形は隅丸方形を呈する。
規模　0.29×0.27×0.48m
主軸方位(度)　N－８－E
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(15)233号ピット(第31図、PL.12)
位置　X＝47,967～47,969、Y＝-73,802～-73,803、調査区３区中央の東辺寄りに位置する。
形状等　平面形は長円形を呈する。
規模　0.33×0.26×0.31m
主軸方位(度)　N-56-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(16)234号ピット(第31図、PL.12)

位置　X＝47,967～47,968、Y＝−73,802～−73,803、調査区３区中央の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.30×0.28×0.28m

主軸方位(度)　N−76−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　図化には至らなかったが、底部から多孔石である石皿が出土している。

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(17)235・270号ピット(第31図、PL.12)

a　235号ピット

位置　X＝47,966～47,967、Y＝−73,802～−73,803、調査区３区中央の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.28×0.26×0.41m

主軸方位(度)　N−50−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　270号ピットを切る。

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。270号ピットより新しい。

b　270号ピット

位置　X＝47,966～47,967、Y＝−73,802～−73,803、調査区３区中央の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は方形を呈する。

規模　0.32×0.29×0.48m

主軸方位(度)　N−39−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　235号ピットに切られる。

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。235号ピットに先行する。

(18)236号ピット(第31図、PL.12)

位置　X＝47,964～47,966、Y＝−73,802～−73,803、調査区３区中央の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.31×0.28×0.30m

主軸方位(度)　N−３−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(19)237号ピット(第31図、PL.12)

位置　X＝47,969～47,970、Y＝−73,801～−73,802、調査区３区東の北東隅に位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.33×0.32×0.34m

主軸方位(度)　N−90

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(20)238号ピット(第32図、PL.12)

位置　X＝47,968～47,969、Y＝−73,801～−73,802、調査区３区中央の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.40×0.40×0.39m

主軸方位(度)　N−２−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

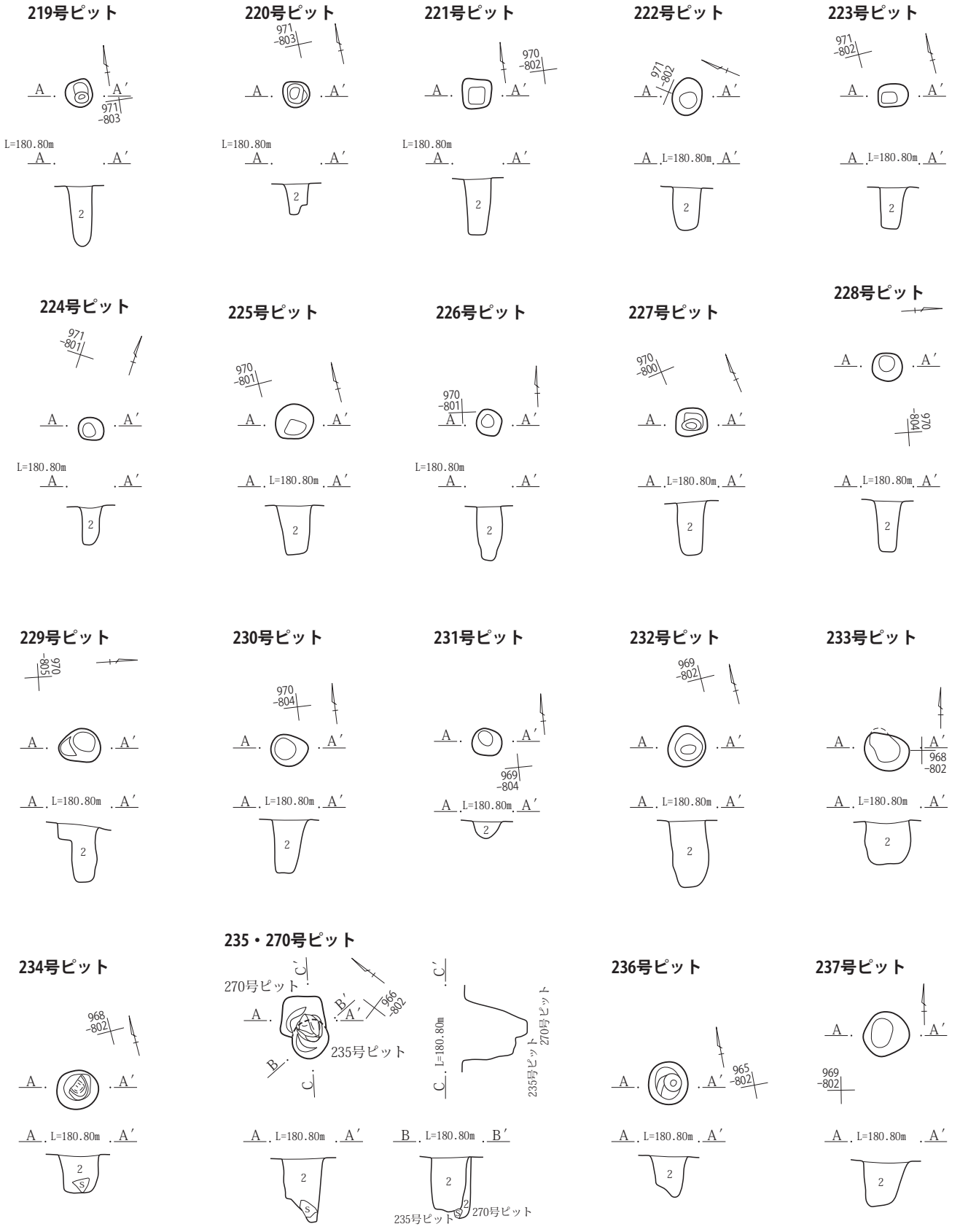
遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(21)239号ピット(第32,44図、PL.12)

位置　X＝47,968～47,969、Y＝−73,803～−73,804、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　111号土坑により遺構東半を失うが、平面形は



ピット

２　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒(１～数mm)を１％ほど含む。
ところどころにシルト質の鈍い褐色土(7.5YR5/4)ブロック(φ数cm)が混ざる。

0　1：40　1m

第31図　ピット１

円形を呈すと推測される。
規模　0.3×0.29×0.52m
主軸方位(度)　N-82-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　111号土坑に切られる。
遺物　埋没土より在地系土器皿(７)のほか須恵器壺片などが出土している。
所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世に比定される。111号土坑に先行する。

(22)240号ピット(第32図、PL.12)
位置　X＝47,965～47,966、Y＝-73,802～-73,803、調査区３区中央の東辺寄りに位置する。
形状等　平面形は長円形を呈する。
規模　0.25×0.21×0.18m
主軸方位(度)　N-77-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(23)241号ピット(第32図、PL.12)
位置　X＝47,964～47,965、Y＝-73,801～-73,803、調査区３区中央の東辺寄りに位置する。
形状等　平面形は長円形を呈する。
規模　0.33×0.30×0.45m
主軸方位(度)　N-31-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(24)242号ピット(第32図、PL.12)
位置　X＝47,964～47,966、Y＝-73,803～-73,805、調査区３区中央に位置する。
形状等　平面形は隅丸方形を呈する。
規模　0.24×0.21×0.33m
主軸方位(度)　N-50-E
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(25)243号ピット(第32図、PL.12)
位置　X＝47,965～47,967、Y＝-73,804～-73,805、調査区３区東の中央付近に位置する。
形状等　平面形は長円形を呈する。
規模　0.47×0.39×0.39m
主軸方位(度)　N-81-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(26)244号ピット(第32図、PL.12)
位置　X＝47,967～47,968、Y＝-73,803～-73,804、調査区３区東の中央付近に位置する。
形状等　平面形は円形を呈する。
規模　0.36×0.33×0.48m
主軸方位(度)　N-83-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(27)245号ピット(第32図、PL.12)
位置　X＝47,967～47,968、Y＝-73,804～-73,806、調査区３区東の中央付近に位置する。
形状等　平面形は円形を呈する。
規模　0.25×0.24×0.49m
主軸方位(度)　N-77-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(28)246号ピット(第32図、PL.13)

位置　X＝47,965～47,966、Y＝-73,805～-73,806、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.42×0.32×0.40m

主軸方位(度)　N-76-W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(29)247号ピット(第32図、PL.13,20)

位置　X＝47,966～47,967、Y＝-73,804～-73,805、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.48×0.38×0.54m

主軸方位(度)　N-41-E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　埋没土から景徳元寶(８)が出土しているほか、資料化には至らなかったが、磨り石に類似した礫も出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世に比定される。

(30)248号ピット(第32図、PL.13)

位置　X＝47,966～47,967、Y＝-73,800～-73,801、調査区３区東の東辺寄りに位置する。

形状等　遺構北半が失われているため全容は不明であるが、平面形は隅丸長方形を呈すると推察される。

規模　0.48×(0.33)×0.36m

主軸方位(度)　N-89-E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(31)249号ピット(第32図、PL.13)

位置　X＝47,963～47,964、Y＝-73,802～-73,803、調査区３区東の東南隅寄りに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.25×0.25×0.25m

主軸方位(度)　N-60-E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　資料化には至らなかったが、菰編み石に類似した礫が出土している。

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(32)250号ピット(第32図、PL.13)

位置　X＝47,964～47,965、Y＝-73,803～-73,804調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.40×0.39×0.21m

主軸方位(度)　N-55-E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(33)251号ピット(第32図、PL.13)

位置　X＝47,963～47,965、Y＝-73,800～-73,802、調査区３区中央東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は四辺形を呈する。

規模　0.24×0.20×0.26m

主軸方位(度)　N-0

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(34)252号ピット(第32図、PL.13)

位置　X＝47,964～47,965、Y＝−73,800～−73,802、調査区３区東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は隅丸方形を呈する。

規模　0.39×0.37×0.31m

主軸方位(度)　N−45−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(35)253号ピット(第32図、PL.13)

位置　X＝47,966～47,968、Y＝−73,801～−73,803、調査区３区東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.41×0.31×0.38m

主軸方位(度)　N−76−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(36)254号ピット(第32図、PL.13)

位置　X＝47,966～47,967、Y＝−73,800～−73,801、調査区３区東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.32×0.30×0.20m

主軸方位(度)　N−６−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(37)255号ピット(第32図、PL.13)

位置　X＝47,965～47,967、Y＝−73,800～−73,801、調査区３区東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は隅丸方形を呈する。

規模　0.40×0.35×0.25m

主軸方位(度)　N−81−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(38)256号ピット(第32図、PL.13)

位置　X＝47,966～47,967、Y＝−73,802～−73,804、調査区３区東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長方形を呈する。

規模　0.56×0.30×0.24m

主軸方位(度)　N−85−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(39)257号ピット(第33図、PL.14)

位置　X＝47,964～47,965、Y＝−73,799～−73,800、調査区３区東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.41×0.36×0.40m

主軸方位(度)　N−30−W

埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(40)258号ピット(第33図、PL.13)

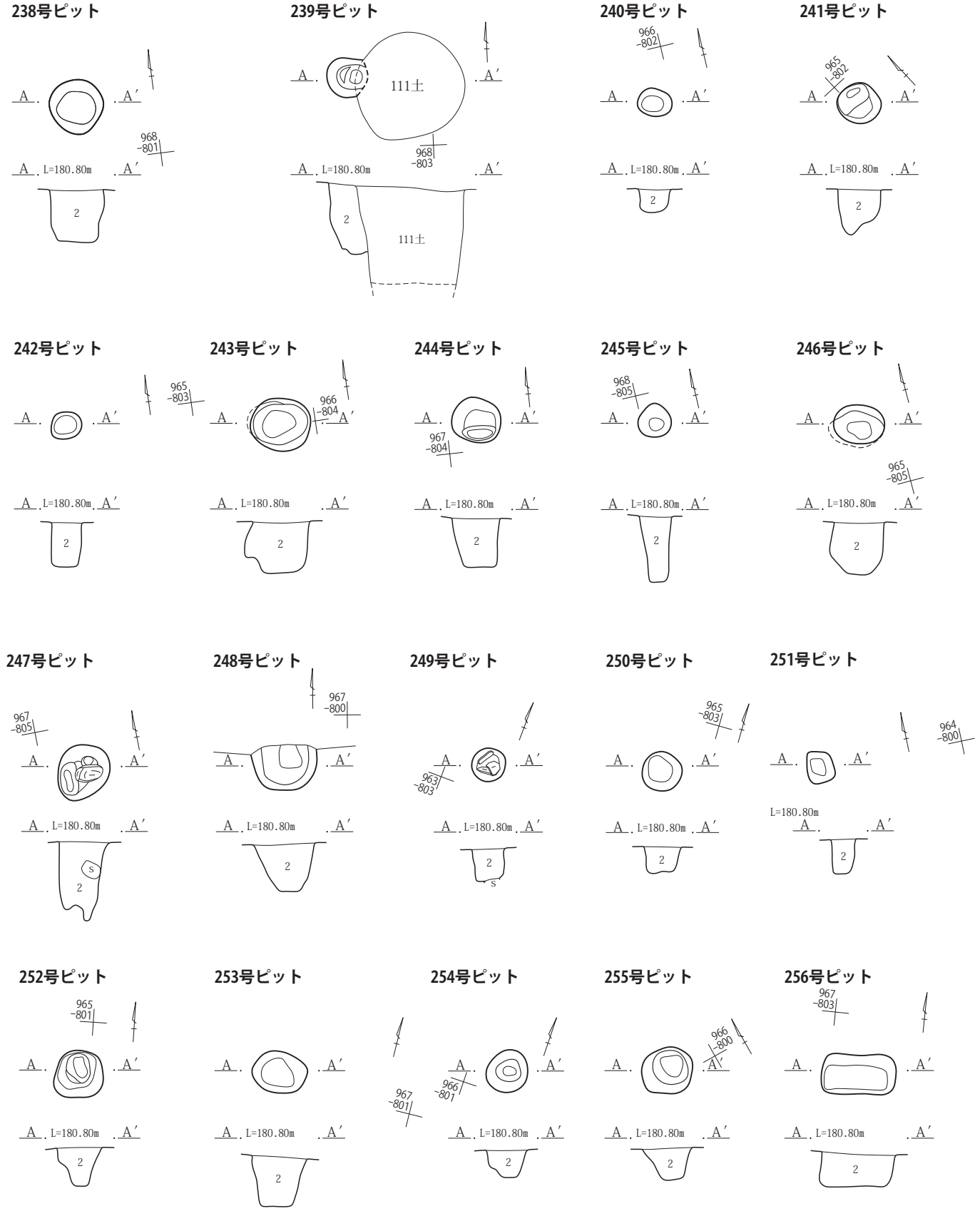
位置　X＝47,961～47,963、Y＝−73,803～−73,805、調査区３区東の南辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.28×0.22×0.21m

主軸方位(度)　N−８−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。



ピット
２　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒(１～数mm)を１％ほど含む。
ところどころにシルト質の鈍い褐色土(7.5YR5/4)ブロック(φ数cm)が混ざる。

第32図　ピット２

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(41)259号ピット(第33図、PL.13)

位置　Ｘ＝47,962～47,963、Ｙ＝−73,804～−73,805、調査区３区東の中央南辺寄りに位置する。

形状等　平面形は方形を呈する。

規模　0.30×0.30×0.26m

主軸方位(度)　N−51−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(42)260号ピット(第33図、PL.13)

位置　Ｘ＝47,964～47,965、Ｙ＝−73,805～−73,806、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.31×0.26×0.48m

主軸方位(度)　N−16−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(43)261号ピット(第33図、PL.13)

位置　Ｘ＝47,971～47,973、Ｙ＝−73,806～−73,808、調査区３区東の北辺沿いに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.31×0.28×0.35m

主軸方位(度)　N−９−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(44)262号ピット(第33図、PL.13)

位置　Ｘ＝47,971～47,972、Ｙ＝−73,806～−73,808、調査区３区東の中央北辺近くに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.44×0.44×0.48m

主軸方位(度)　N−38−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(45)263号ピット(第33図、PL.13)

位置　Ｘ＝47,970～47,971、Ｙ＝−73,807～−73,808、調査区３区東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.30×0.23×0.35m

主軸方位(度)　N−13−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(46)264・284号ピット(第33図、PL.13)

a　264号ピット

位置　Ｘ＝47,970～47,971、Ｙ＝−73,807～−73,809、調査区３区東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は隅丸方形と推察される。

規模　0.31×0.26×0.32m

主軸方位(度)　N−14−W

埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　284号ピット

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。遺構間の切りあいは不明であり、284号ピットとの新旧関係は確定されない。

b　284号ピット

位置　Ｘ＝47,970～47,971、Ｙ＝−73,808～−73,809、調査

区３区東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は略円形と推察される。

規模　0.22×(0.19)×0.44m

主軸方位(度)　N-18-W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　264号ピット

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。遺構間の切りあいは不明であり、264号ピットとの新旧関係は確定されない。

(47)265号ピット(第33図、PL.14)

位置　X＝47,969～47,970、Y＝-73,807～-73,809、調査区３区東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　遺構南半が失われており、全容は判然としないが平面形は長円形を呈すると推察される。

規模　0.27×(0.22)×0.23m

主軸方位(度)　N-77-W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(48)266号ピット(第33図、PL.14)

位置　X＝47,968～47,969、Y＝-73,808～-73,809、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.27×0.25×0.36m

主軸方位(度)　N-66-W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　50号溝を切る。

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。50号溝より新しい。

(49)267号ピット(第33図、PL.14)

位置　X＝47,967～47,968、Y＝-73,807～-73,809、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.32×0.26×0.41m

主軸方位(度)　N-53-W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(50)268号ピット(第33図、PL.14)

位置　X＝47,969～47,970、Y＝-73,806～-73,807、調査区３区東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は隅丸三角形を呈する。

規模　0.26×0.24×0.27m

主軸方位(度)　N-11-E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(51)269・271号ピット(第33図、PL.14)

a　269号ピット

位置　X＝47,969～47,970、Y＝-73,805～-73,807、調査区３区東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.40×0.25×0.38m

主軸方位(度)　N-66-W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　271号ピット

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。調査所見に基づき、271号ピットに先行する。

b　271号ピット

位置　X＝47,969～47,970、Y＝-73,805～-73,807、調査区３区東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.26×0.20×0.43m

主軸方位(度)　N-11-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　269号ピット
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。調査所見に基づき、269号ピットより新しい。

(52)272号ピット(第33図、PL.14)
位置　X＝47,967～47,968、Y＝-73,805～-73,807、調査区３区東の中央付近に位置する。
形状等　平面形は円形を呈する。
規模　0.26×0.25×0.33m
主軸方位(度)　N-20-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

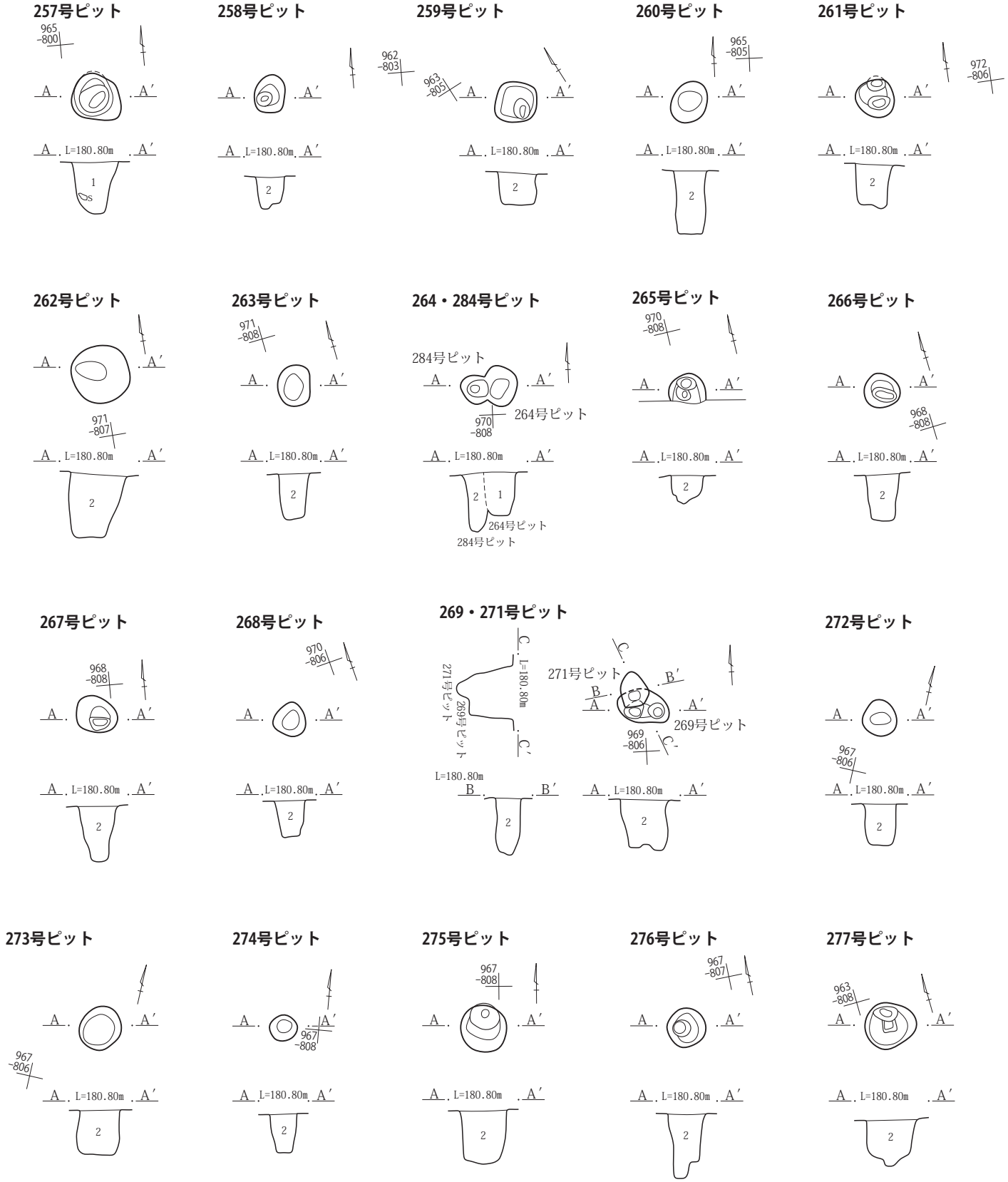
(53)273号ピット(第33図、PL.14)
位置　X＝47,967～47,968、Y＝-73,805～-73,806、調査区３区東の中央付近に位置する。
形状等　平面形は長円形を呈する。
規模　0.32×0.28×0.35m
主軸方位(度)　N-42-E
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(54)274号ピット(第33図、PL.14)
位置　X＝47,966～47,968、Y＝-73,808～-73,809、調査区３区東の中央付近に位置する。
形状等　平面形は円形を呈する。
規模　0.21×0.19×0.30m
主軸方位(度)　N-87-E
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(55)275号ピット(第33図、PL.14)
位置　X＝47,966～47,967、Y＝-73,807～-73,809、調査区３区東の中央付近に位置する。
形状等　平面形は長円形を呈する。
規模　0.46×0.34×0.52m
主軸方位(度)　N-２-E
埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(56)276号ピット(第33図、PL.14)
位置　X＝47,966～47,967、Y＝-73,807～-73,808、調査区３区東の中央付近に位置する。
形状等　平面形は円形を呈する。
規模　0.29×0.29×0.50m
主軸方位(度)　N-11-E
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(57)277号ピット(第33図、PL.14)
位置　X＝47,962～47,963、Y＝-73,807～-73,808、調査区３区東の中央南辺寄りに位置する。
形状等　平面形は偏円形を呈する。
規模　0.38×0.34×0.20m
主軸方位(度)　N-74-W
埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。
重複　なし
遺物　なし
所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。



ピット

1　黒褐色土(10YR2/3)砂質、しまり強く、粘りあり。砂質でしまり強く、粘りある暗褐色土(10YR3/3)を含み、シルト質のしまり強く、粘り強い褐色土(10YR4/4)が数cm大のブロック状に混ざる。

2　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒(１～数mm)を１％ほど含む。ところどころにシルト質の鈍い褐色土(7.5YR5/4)ブロック(φ数cm)が混ざる。

0　1：40　1m

第33図　ピット３

(58)278号ピット(第34図、PL.14)

位置　X＝47,962～47,963、Y＝−73,807～−73,808、調査区３区東の中央南辺寄りに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.25×0.24×0.29m

主軸方位(度)　N−８−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(59)279号ピット(第34図、PL.14)

位置　X＝47,961～47,962、Y＝−73,807～−73,808、調査区３区東の中央南辺寄りに位置する。

形状等　平面形は方形を呈する。

規模　0.21×0.21×0.29m

主軸方位(度)　N−14−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(60)280号ピット(第34図、PL.14)

位置　X＝47,962～47,964、Y＝−73,805～−73,806、調査区３区東の中央南辺寄りに位置する。

形状等　平面形は隅丸方形を呈する。

規模　0.28×0.25×0.31m

主軸方位(度)　N−62−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(61)281号ピット(第34図、PL.14)

位置　X＝47,962～47,963、Y＝−73,805～−73,806、調査区３区東の中央南辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.26×0.22×0.48m

主軸方位(度)　N−81−E

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(62)282号ピット(第34図、PL.14)

位置　X＝47,962～47,963、Y＝−73,805～−73,806、調査区３区東の中央南辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.35×0.30×0.60m

主軸方位(度)　N−26−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(63)283号ピット(第34図、PL.14)

位置　X＝47,967～47,968、Y＝−73,804～−73,805、調査区３区東の中央南辺寄りに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.22×0.21×0.38m

主軸方位(度)　N−29−W

埋没土　明褐色の砂粒とシルト質の鈍い褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(64)294号ピット(第34図、PL.14)

位置　X＝47,971～47,972、Y＝−73,847～−73,849、調査区３区中央東の中央西寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.28×0.24×0.22m

主軸方位(度)　N−16−E

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(65)295号ピット(第34図、PL.14)

位置　Ｘ＝47,970～47,971、Ｙ＝-73,842～-73,844、調査区３区中央東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.35×0.31×0.45m

主軸方位(度)　N-34-E

埋没土　灰黄褐色シルト質土を含む暗黒褐色土。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、不明である。

(66)296号ピット(第34図、PL.15)

位置　Ｘ＝47,970～47,972、Ｙ＝-73,842～-73,844、調査区３区中央東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.59×0.45×0.22m

主軸方位(度)　N-85-W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(67)298号ピット(第34図、PL.15)

位置　Ｘ＝47,970～47,972、Ｙ＝-73,841～-73,842、調査区３区中央東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.31×0.25×0.24m

主軸方位(度)　N-89-E

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(68)301号ピット(第34図、PL.15)

位置　Ｘ＝47,973～47,974、Ｙ＝-73,840～-73,841、調査区３区中央東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.27×0.22×0.29m

主軸方位(度)　N-13-E

埋没土　As-C混土を含む暗黒褐色土。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、不明である。

(69)302号ピット(第34図、PL.15)

位置　Ｘ＝47,974～47,975、Ｙ＝-73,840～-73,842、調査区３区中央東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.27×0.23×0.42m

主軸方位(度)　N-27-E

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(70)310号ピット(第34図、PL.15)

位置　Ｘ＝47,973～47,974、Ｙ＝-73,838～-73,839、調査区３区中央東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.25×0.21×0.29m

主軸方位(度)　N-42-E

埋没土　As-C混土を含む暗黒褐色土。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、不明である。

(71)311号ピット(第34図、PL.15)

位置　Ｘ＝47,974～47,975、Ｙ＝-73,838～-73,839、調査区３区中央東の北辺沿いに位置する。

形状等　遺構北半が調査区外に及び、全容は不明であるが平面形は円形を呈すると推察される。

規模　0.24×(0.12)×0.31m

主軸方位(度)　N-83-W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(72)312号ピット(第34図、PL.15)

位置　X＝47,973～47,974、Y＝−73,836～−73,837、調査区３区中央東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.28×0.25×0.25m

主軸方位(度)　N−47−E

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(73)314号ピット(第34図、PL.15)

位置　X＝47,974～47,975、Y＝−73,835～−73,836、調査区３区中央東の北辺沿いに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.34×0.30×0.22m

主軸方位(度)　N−47−W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(74)317号ピット(第34図、PL.15)

位置　X＝47,970～47,972、Y＝−73,835～−73,836、調査区３区中央東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.23×0.21×0.33m

主軸方位(度)　N−９−E

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(75)319号ピット(第34図、PL.15)

位置　X＝47,972～47,974、Y＝−73,834～−73,835、調査区３区中央東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.29×0.28×0.34m

主軸方位(度)　N−26−E

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(76)320号ピット(第34図、PL.15)

位置　X＝47,969～47,970、Y＝−73,832～−73,833、調査区３区中央東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.33×0.27×0.25m

主軸方位(度)　N−78−E

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(77)321号ピット(第34図、PL.15)

位置　X＝47,969～47,970、Y＝−73,831～−73,833、調査区３区中央東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.50×0.36×0.26m

主軸方位(度)　N−15−E

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(78)323号ピット(第35図、PL.15)

位置　X＝47,971～47,972、Y＝−73,831～−73,832、調査区３区中央東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.20×0.19×0.32m

主軸方位(度)　N−14−W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

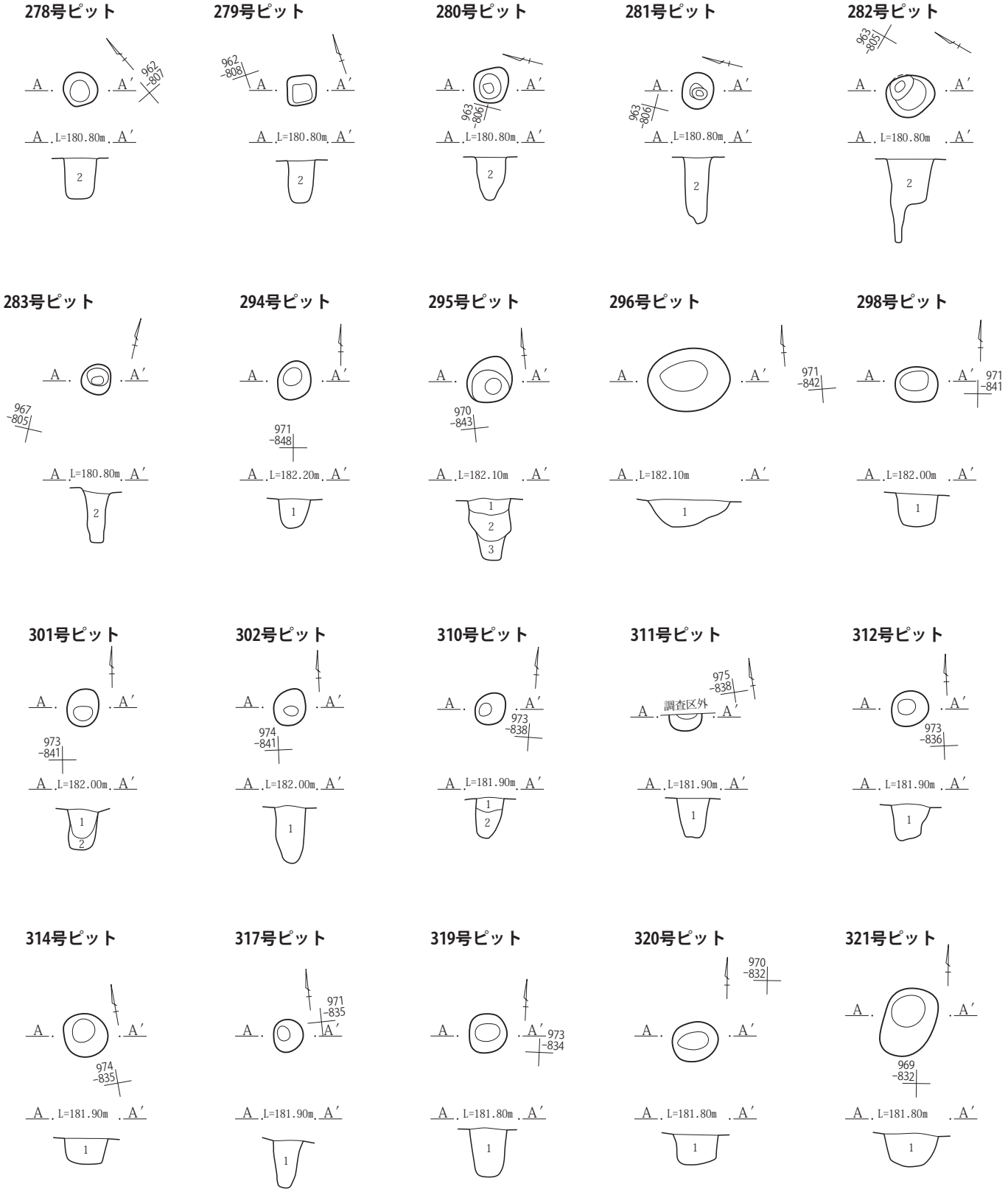
重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(79)324号ピット(第35図、PL.15)

位置　X＝47,973～47,974、Y＝−73,831～−73,832、調査区３区中央東の中央北辺寄りに位置する。



278～283号ピット
２　黒褐色土(7.5YR3/2)砂質(φ0.5mm以下)しまり強く、粘り弱い。明褐色(7.5YR5/4)の砂粒(１～数mm)を１％ほど含む。ところどころにシルト質の鈍い褐色土(7.5YR5/4)ブロック(φ数cm)が混ざる。

294,296,298,302,311,312,314,317,319～321号ピット
１　暗黒褐色土(10YR3/4)しまり、粘りともに有り。

295,301,310号ピット
１　暗黒褐色土(10YR3/4)しまり、粘りともに有り。
２　基本土は１の暗黒褐色土に As-C 混土が混ざったもの。
３　基本土は１の暗黒褐色土に灰黄褐色(10YR6/2)シルト質土(ローム漸移層土)が混ざったもの。

0　1：40　1m

第34図　ピット４

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.28×0.19×0.19m

主軸方位(度)　N−76−W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。

(80)325号ピット(第35図、PL.15)

位置　X＝47,973〜47,975、Y＝−73,831〜−73,832、調査区３区中央東の北辺沿いに位置する。

形状等　遺構北半が調査区外に及び不明であるが、平面形は長円形と推察される。

規模　(0.21)×0.2×0.19m

主軸方位(度)　N−11−W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　134号土坑を切る。

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。134号土坑より新しい。

(81)326・327号ピット(第35図、PL.15)

a　326号ピット

位置　X＝47,972〜47,974、Y＝−73,830〜−73,831、調査区３区中央東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　西半が327号ピットにより失われ全容は不明であるが、平面形は長円形と推察される。

規模　0.30×(0.18)×0.16m

主軸方位(度)　N−7−E

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　327号ピットに切られる。

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。327号ピットに先行する。

b　327号ピット

位置　X＝47,972〜47,974、Y＝−73,830〜−73,831、調査区３区中央東の中央北辺寄りに位置する。

形状等　平面形は隅丸方形と推察される。

規模　(0.30)×0.30×0.20m

主軸方位(度)　N−60−W

埋没土　表土と暗黒褐色土の混土に覆われる。

重複　326号ピットを切る。

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世以降に比定される。326号ピットより新しい。

(82)332号ピット(第35図、PL.15)

位置　X＝47,972〜47,973、Y＝−73,825〜−73,826、調査区３区中央東の中央東寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.39×(0.32)×0.23m

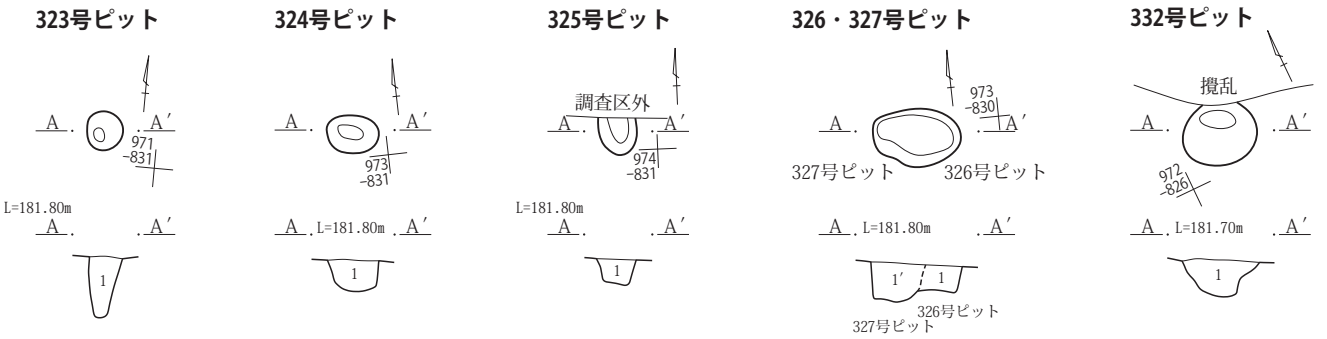
主軸方位(度)　N−64−W

埋没土　暗黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、埋没土から中近世に比定される。



323〜325号ピット
1　暗黒褐色土(10YR3/4)しまり、粘りともに有り。

326号ピット
1　暗黒褐色土(10YR3/4)しまり、粘りともに有り。

327号ピット
1′表土と１層の混合土。

332号ピット
1　暗黒褐色土(10YR3/4)しまり、粘りともに有り。

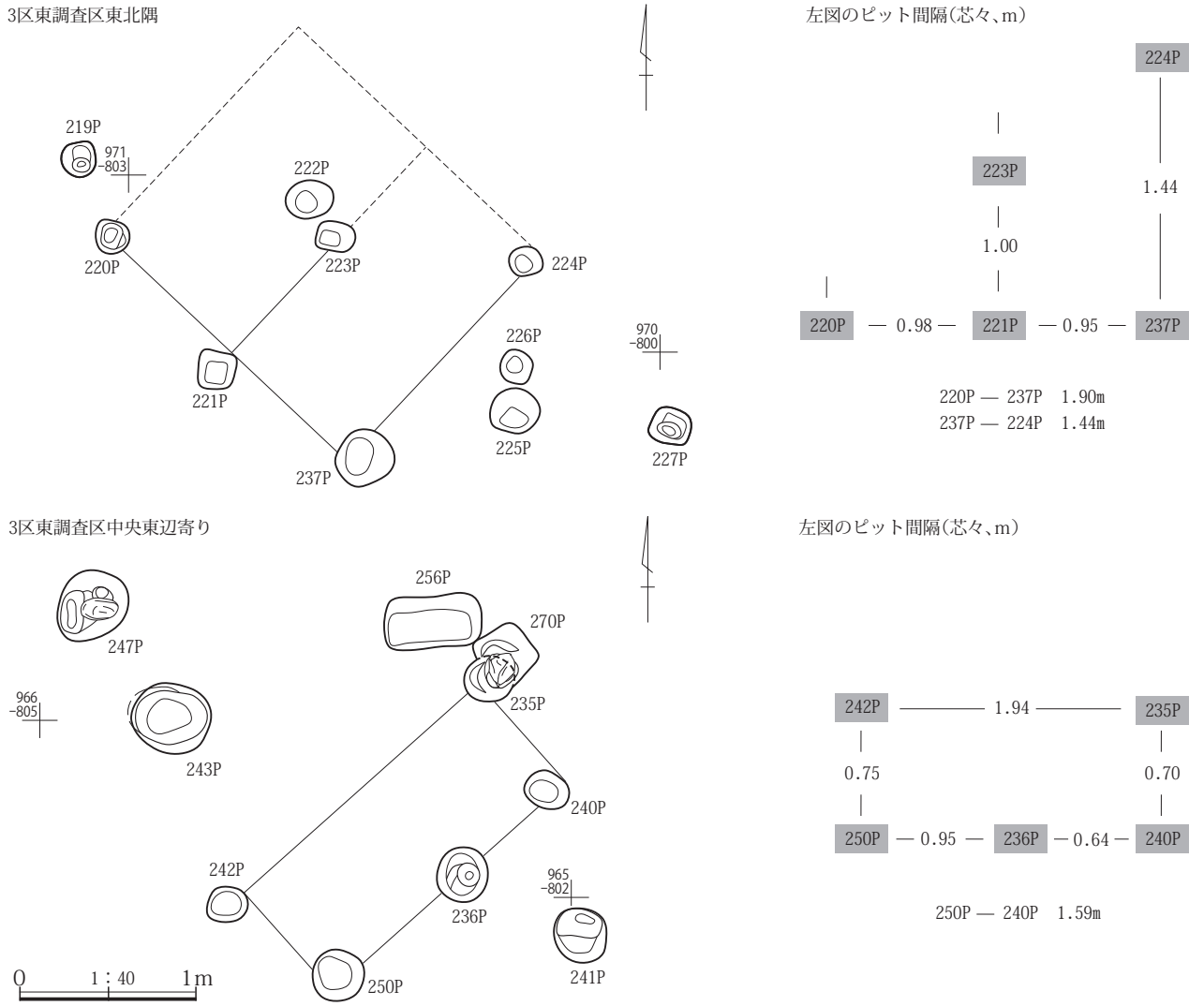
第35図　ピット５

0　1：40　1m

第３－２－２表　１面ピット一覧

遺構名	検　出　位　置		平 面 形	規　模	主軸方位(度)	重複遺構
219号ピット	３区東	X＝47,971～47,972、Y＝-73,803～-73,804	隅丸三角形	0.21×0.20×0.45	N-19-E	
220号ピット	３区東	X＝47,970～47,971、Y＝-73,802～-73,804	隅丸方形	0.21×0.19×0.24	N-42-E	
221号ピット	３区東	X＝47,969～47,971、Y＝-73,802～-73,803	方形	0.22×0.21×0.42	N-５-E	
222号ピット	３区東	X＝47,970～47,971、Y＝-73,801～-73,803	長円形	0.27×0.21×0.32	N-77-E	
223号ピット	３区東	X＝47,970～47,971、Y＝-73,801～-73,802	隅丸長方形	0.22×0.16×0.31	N-76-W	
224号ピット	３区東	X＝47,970～47,971、Y＝-73,800～-73,801	偏円形	0.18×0.16×0.29	N-73-E	
225号ピット	３区東	X＝47,969～47,970、Y＝-73,800～-73,801	円形	0.27×0.25×0.36	N-68-W	
226号ピット	３区東	X＝47,969～47,971、Y＝-73,800～-73,801	隅丸方形	0.20×0.19×0.39	N-21-W	
227号ピット	３区東	X＝47,969～47,970、Y＝-73,799～-73,801	隅丸方形	0.23×0.20×0.39	N-67-W	
228号ピット	３区東	X＝47,969～47,970、Y＝-73,804～-73,805	円形	0.22×0.20×0.37	N-３-E	
229号ピット	３区東	X＝47,970～47,971、Y＝-73,804～-73,805	偏円形	0.31×0.25×0.41	N-７-W	
230号ピット	３区東	X＝47,969～47,970、Y＝-73,803～-73,805	偏円形	0.27×0.23×0.39	N-83-W	
231号ピット	３区東	X＝47,969～47,970、Y＝-73,804～-73,805	隅丸方形	0.21×0.19×0.14	N-85-W	
232号ピット	３区東	X＝47,968～47,969、Y＝-73,802～-73,803	隅丸方形	0.29×0.27×0.48	N-８-E	
233号ピット	３区東	X＝47,967～47,969、Y＝-73,802～-73,803	長円形	0.33×0.26×0.31	N-56-W	
234号ピット	３区東	X＝47,967～47,968、Y＝-73,802～-73,803	円形	0.30×0.28×0.28	N-76-W	
235号ピット	３区東	X＝47,966～47,967、Y＝-73,802～-73,803	円形	0.28×0.26×0.41	N-50-E	270号ピット
236号ピット	３区東	X＝47,964～47,966、Y＝-73,802～-73,803	長円形	0.31×0.28×0.30	N-３-E	
237号ピット	３区東	X＝47,969～47,970、Y＝-73,801～-73,802	円形	0.33×0.32×0.34	N-90	
238号ピット	３区東	X＝47,968～47,969、Y＝-73,801～-73,802	円形	0.40×0.40×0.39	N-２-W	
239号ピット	３区東	X＝47,968～47,969、Y＝-73,803～-73,804	円形か	0.30×0.29×0.52	N-82-W	111号土坑
240号ピット	３区東	X＝47,965～47,966、Y＝-73,802～-73,803	長円形	0.25×0.21×0.18	N-77-W	
241号ピット	３区東	X＝47,964～47,965、Y＝-73,801～-73,803	長円形	0.33×0.30×0.45	N-31-W	
242号ピット	３区東	X＝47,964～47,966、Y＝-73,803～-73,805	隅丸方形	0.24×0.21×0.33	N-50-E	
243号ピット	３区東	X＝47,965～47,967、Y＝-73,804～-73,805	長円形	0.47×0.39×0.39	N-81-W	
244号ピット	３区東	X＝47,967～47,968、Y＝-73,803～-73,804	円形	0.36×0.33×0.48	N-83-W	
245号ピット	３区東	X＝47,967～47,968、Y＝-73,804～-73,806	円形	0.25×0.24×0.49	N-77-W	
246号ピット	３区東	X＝47,965～47,966、Y＝-73,805～-73,806	長円形	0.42×0.32×0.40	N-76-W	
247号ピット	３区東	X＝47,966～47,967、Y＝-73,804～-73,805	偏円形	0.48×0.38×0.54	N-41-E	
248号ピット	３区東	X＝47,966～47,967、Y＝-73,800～-73,801	隅丸長方形か	0.48×(0.33)×0.36	N-89-E	
249号ピット	３区東	X＝47,963～47,964、Y＝-73,802～-73,803	円形	0.25×0.25×0.25	N-60-E	
250号ピット	３区東	X＝47,964～47,965、Y＝-73,803～-73,804	円形	0.40×0.39×0.21	N-55-E	
251号ピット	３区東	X＝47,963～47,965、Y＝-73,800～-73,802	四辺形	0.24×0.20×0.26	N-０	
252号ピット	３区東	X＝47,964～47,965、Y＝-73,800～-73,802	隅丸方形	0.39×0.37×0.31	N-45-E	
253号ピット	３区東	X＝47,966～47,968、Y＝-73,801～-73,803	長円形	0.41×0.31×0.38	N-76-E	
254号ピット	３区東	X＝47,966～47,967、Y＝-73,800～-73,801	円形	0.32×0.30×0.20	N-６-E	
255号ピット	３区東	X＝47,965～47,967、Y＝-73,800～-73,801	隅丸方形	0.40×0.35×0.25	N-81-E	
256号ピット	３区東	X＝47,966～47,967、Y＝-73,802～-73,804	長方形	0.56×0.30×0.24	N-85-E	
257号ピット	３区東	X＝47,964～47,965、Y＝-73,799～-73,800	偏円形	0.41×0.36×0.40	N-30-W	
258号ピット	３区東	X＝47,961～47,963、Y＝-73,803～-73,805	長円形	0.28×0.22×0.21	N-８-E	
259号ピット	３区東	X＝47,962～47,963、Y＝-73,804～-73,805	方形	0.30×0.30×0.26	N-51-W	
260号ピット	３区東	X＝47,964～47,965、Y＝-73,805～-73,806	長円形	0.31×0.26×0.48	N-16-E	
261号ピット	３区東	X＝47,971～47,973、Y＝-73,806～-73,808	偏円形	0.31×0.28×0.35	N-９-W	
262号ピット	３区東	X＝47,971～47,972、Y＝-73,806～-73,808	円形	0.44×0.44×0.48	N-38-E	
263号ピット	３区東	X＝47,970～47,971、Y＝-73,807～-73,808	長円形	0.30×0.23×0.35	N-13-E	
264号ピット	３区東	X＝47,970～47,971、Y＝-73,807～-73,809	隅丸方形か	0.31×0.26×0.32	N-14-W	284号ピット
265号ピット	３区東	X＝47,969～47,970、Y＝-73,807～-73,809	長円形か	0.27×(0.22)×0.23	N-77-W	
266号ピット	３区東	X＝47,968～47,969、Y＝-73,808～-73,809	円形	0.27×0.25×0.36	N-66-W	
267号ピット	３区東	X＝47,967～47,968、Y＝-73,807～-73,809	偏円形	0.32×0.26×0.41	N-53-W	
268号ピット	３区東	X＝47,969～47,970、Y＝-73,806～-73,807	隅丸三角形	0.26×0.24×0.27	N-11-E	
269号ピット	３区東	X＝47,969～47,970、Y＝-73,805～-73,807	長円形	0.40×0.25×0.38	N-66-W	271号ピット
270号ピット	３区東	X＝47,966～47,967、Y＝-73,802～-73,803	方形	0.32×0.29×0.48	N-39-W	235号ピット
271号ピット	３区東	X＝47,969～47,970、Y＝-73,805～-73,807	偏円形	0.26×0.20×0.43	N-11-W	269号ピット
272号ピット	３区東	X＝47,967～47,968、Y＝-73,805～-73,807	円形	0.26×0.25×0.33	N-20-W	
273号ピット	３区東	X＝47,967～47,968、Y＝-73,805～-73,806	長円形	0.32×0.28×0.35	N-42-E	
274号ピット	３区東	X＝47,966～47,968、Y＝-73,808～-73,809	円形	0.21×0.19×0.30	N-87-E	
275号ピット	３区東	X＝47,966～47,967、Y＝-73,807～-73,809	長円形	0.46×0.34×0.52	N-２-E	
276号ピット	３区東	X＝47,966～47,967、Y＝-73,807～-73,808	円形	0.29×0.29×0.50	N-11-E	
277号ピット	３区東	X＝47,962～47,963、Y＝-73,807～-73,808	偏円形	0.38×0.34×0.20	N-74-W	
278号ピット	３区東	X＝47,962～47,963、Y＝-73,807～-73,808	円形	0.25×0.24×0.29	N-８-W	
279号ピット	３区東	X＝47,961～47,962、Y＝-73,807～-73,808	方形	0.21×0.21×0.29	N-14-E	
280号ピット	３区東	X＝47,962～47,964、Y＝-73,805～-73,806	隅丸方形	0.28×0.25×0.31	N-62-W	
281号ピット	３区東	X＝47,962～47,963、Y＝-73,805～-73,806	長円形	0.26×0.22×0.48	N-81-E	

遺構名	検　出　位　置	平面形	規　模	主軸方位(度)	重複遺構
282号ピット	３区東　X=47,962～47,963、Y=-73,805～-73,806	長円形	0.35×0.30×0.60	N-26-W	
283号ピット	３区東　X=47,967～47,968、Y=-73,804～-73,805	円形	0.22×0.21×0.38	N-29-W	
284号ピット	３区東　X=47,970～47,971、Y=-73,808～-73,809	円形か	0.22×(0.19)×0.44	N-18-W	264号ピット
294号ピット	３区中央東　X=47,971～47,972、Y=-73,847～-73,849	長円形	0.28×0.24×0.22	N-16-E	
295号ピット	３区中央東　X=47,970～47,971、Y=-73,842～-73,844	長円形	0.35×0.31×0.45	N-34-E	
296号ピット	３区中央東　X=47,970～47,972、Y=-73,842～-73,844	長円形	0.59×0.45×0.22	N-85-W	
298号ピット	３区中央東　X=47,970～47,972、Y=-73,841～-73,842	長円形	0.31×0.25×0.24	N-89-E	
301号ピット	３区中央東　X=47,973～47,974、Y=-73,840～-73,841	長円形	0.27×0.22×0.29	N-13-E	
302号ピット	３区中央東　X=47,974～47,975、Y=-73,840～-73,842	長円形	0.27×0.23×0.42	N-27-E	
310号ピット	３区中央東　X=47,973～47,974、Y=-73,838～-73,839	長円形	0.25×0.21×0.29	N-42-E	
311号ピット	３区中央東　X=47,974～47,975、Y=-73,838～-73,839	円形か	0.24×(0.12)×0.31	N-83-W	
312号ピット	３区中央東　X=47,973～47,974、Y=-73,836～-73,837	偏円形	0.28×0.25×0.25	N-47-E	
314号ピット	３区中央東　X=47,974～47,975、Y=-73,835～-73,836	長円形	0.34×0.30×0.22	N-47-W	
317号ピット	３区中央東　X=47,970～47,972、Y=-73,835～-73,836	偏円形	0.23×0.21×0.33	N-９-E	
319号ピット	３区中央東　X=47,972～47,974、Y=-73,834～-73,835	円形	0.29×0.28×0.34	N-26-E	
320号ピット	３区中央東　X=47,969～47,970、Y=-73,832～-73,833	長円形	0.33×0.27×0.25	N-78-E	
321号ピット	３区中央東　X=47,969～47,970、Y=-73,831～-73,833	長円形	0.50×0.36×0.26	N-15-E	
323号ピット	３区中央東　X=47,971～47,972、Y=-73,831～-73,832	円形	0.20×0.19×0.32	N-14-W	
324号ピット	３区中央東　X=47,973～47,974、Y=-73,831～-73,832	長円形	0.28×0.19×0.19	N-76-W	
325号ピット	３区中央東　X=47,973～47,975、Y=-73,831～-73,832	長円形か	(0.21)×0.20×0.19	N-11-W	134号土坑
326号ピット	３区中央東　X=47,972～47,974、Y=-73,830～-73,831	長円形か	0.30×(0.18)×0.16	N-７-E	327号ピット
327号ピット	３区中央東　X=47,972～47,974、Y=-73,830～-73,831	隅丸方形か	(0.30)×0.30×0.20	N-60-W	326号ピット
332号ピット	３区中央東　X=47,972～47,973、Y=-73,825～-73,826	長円形	0.39×(0.32)×0.23	N-64-W	



第36図　規則的な配置

第３節　２面の遺構

第１項　２面の概要

本調査区２面からは、溝１条、竪穴状遺構１基、集石４基、土坑５基とピット14基が検出されている。１面と比較し疎らな検出状況ではあるが、１面同様に調査区の東側に遺構が集まる傾向が認められる。なお調査区の西側と中央部からは風倒木痕が検出されたが、調査区の東側からは検出されていない。

48号溝は２面調査に際して検出された遺構の為、調査記録に基づきここに掲載した。調査区北壁(第14図)で確認された48号溝上端は、表土層直下の第２層に及んでいる。遺構上部は第２層により削平され失われたとみられる。本来の深さは1.3mを越える遺構であり、２面より新しい時期に帰属する遺構である。

集石は３区西・東部から検出された遺構であり、他の調査区画からの検出例はない。また調査所見によれば、「集石は６層(第15図)に分布。径５㎝～径25㎝程度の円礫が集中。土器等出土遺物は無し。焼土、炭化物も認められない。時期、性格等不明」「層位から古墳時代以前の可能性が高い。」とされる。

第２項　検出された遺構

１　溝、竪穴状遺構、集石

(１)48号溝(第37図、PL.16)

位置　X＝47,979～47,985、Y＝−73,942～−73,945、調査区３区西の西端近くに位置する。

形状等　調査区の北辺から南辺にかけて直線状に位置する。断面の形状は上端の幅の２倍程度の深さを有する、幅の狭い箱堀となっており、底部には礫が堆積する。

規模　(4.52)×(0.74)×(1.26)m。底面平坦部の幅0.33～0.47m、溝北端の礫群上面付近の標高183.44m、溝南端の礫群上面付近の標高183.31m、標高差0.13mを測る。

走行方位(度)　N−19−W

埋没土　褐色シルトブロックを多く含み、地山土の混在する暗褐色土により埋め立てられる。なお遺構直上は白色軽石粒を含む黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　調査時の所見によれば、本遺構の年代として中世以降の可能性が指摘されている。また同所見に、「底面に50～60㎝程度の厚さで円礫(径５～40㎝前後)を３段程度投入。礫は組合せた状態ではなく、大小の礫を投入した状態と観察される。その上を溝掘削土により一括埋土する。埋土はブロック状で、掘削してから時間を置かずに埋めているように見られる。なお、底部の礫間には地下水流が認められる。土器等の出土遺物はない。性格は、底部に礫を集積させることによる暗渠と考えられる。」とある。

備考　礫群下部・溝底面の標高については、北辺寄りの一画しか計測記録が残されておらず、溝全体の傾斜・勾配は確認できていない。記録された範囲での南北標高差は0.00mであり、水勾配で溝が掘られたと推測される。

(２)６号竪穴状遺構(第37図、PL.16)

位置　X＝47,969～47,973、Y＝−73,909～−73,912、調査区３区西・東部の南西隅に位置する。

形状等　遺構西半が調査区外に及んでおり平面形は不明であるが、隅丸の方形を呈すと予想される。底部は浅い凹凸が認められるが概ね平坦とみなせる。

付帯遺構　なし

規模　2.50×(1.70)×0.53m

主軸方位(度)　N−25−E

埋没土　にぶい赤褐色土を含む砂質の黒褐色土に覆われる。また遺構直上を表土に覆われる。

掘り方　なし

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

(３)３号集石(第38図、PL.17)

位置　X＝47,979～47,981、Y＝−73,910～−73,912、調査区３区西・東部の北西隅に位置する。

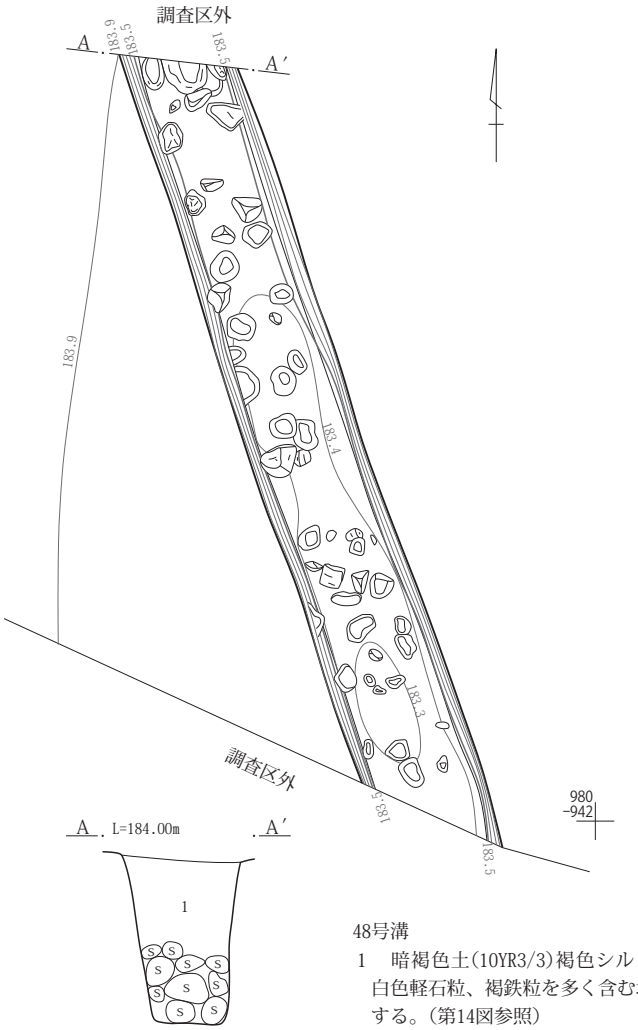
形状等　１点がやや離れるものの、半径15㎝程度の範囲から14点の礫が検出されている。

規模　0.38×0.29m

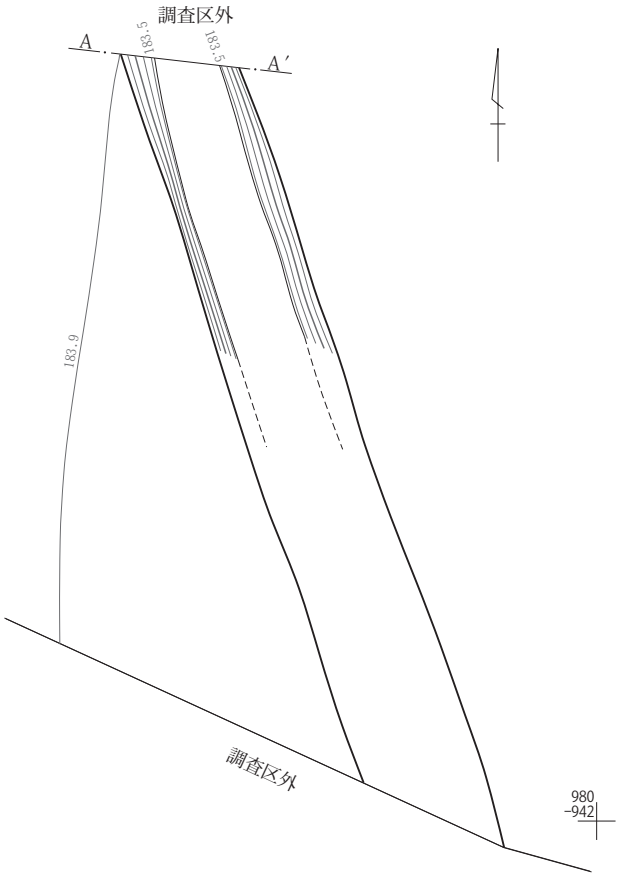
主軸方位(度)　N−14−E

埋没土　褐色粒子を含む黒褐色土に覆われる。

48号溝

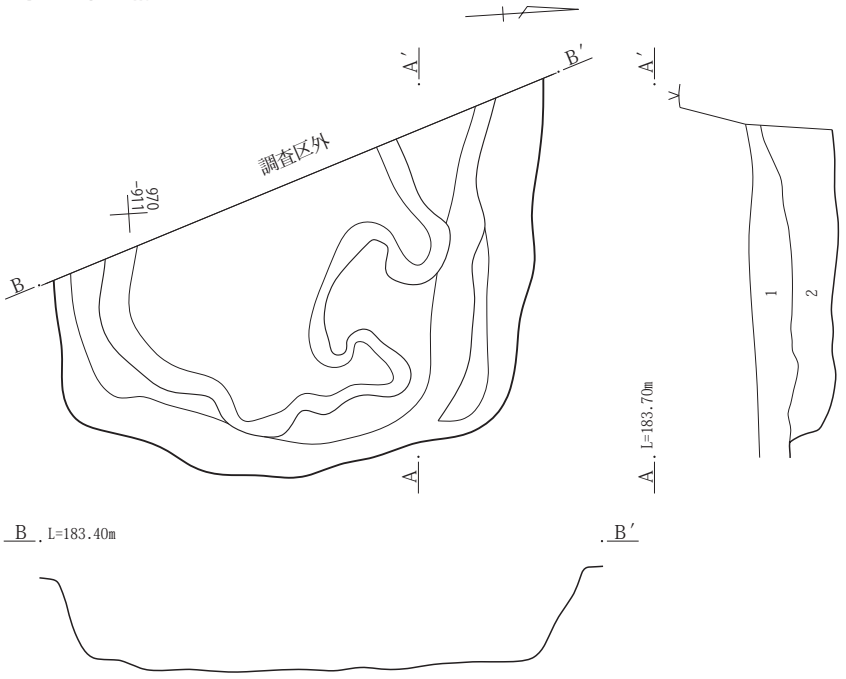


48号溝（完掘）



48号溝
1　暗褐色土(10YR3/3)褐色シルトブロックを多く含む他、白色軽石粒、褐鉄粒を多く含む地山の黒褐色粘質土が混入する。(第14図参照)

6号竪穴状遺構



6号竪穴状遺構
1　表土
2　黒褐色土(10YR2/3)砂質(φ１㎜以下)しまりあり、粘りなし。にぶい赤褐色土(5YR4/4)を10%ほど含む。

0　1：40　1m

第37図　48号溝、６号竪穴状遺構

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の帰属する時期、性格等は不明である。

（４）４号集石（第38図、PL.17）

位置　Ｘ＝47,977～47,979、Ｙ＝−73,911～−73,913、調査区３区西・東部の北西隅に位置する。

形状等　西端が調査区外に続く可能性を否定しえないが、半径27㎝程度の範囲から19点の礫が検出された。

規模　0.55×0.39m

主軸方位（度）　N−41−E

埋没土　褐色粒子を含む黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の帰属する時期、性格等は不明である。

（５）５号集石（第38図、PL.17）

位置　Ｘ＝47,978～47,979、Ｙ＝−73,909～−73,911、調査区３区西・東部の北西隅に位置する。

形状等　半径15㎝程度の範囲から５点の礫が検出された。

規模　0.33×0.22m

主軸方位（度）　N−53−E

埋没土　褐色粒子を含む黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の帰属する時期、性格等は不明である。

（６）６号集石（第39図、PL.17）

位置　Ｘ＝47,975～47,979、Ｙ＝−73,890～−73,893、調査区３区西・東部の北東隅に位置する。

形状等　分布の東端が調査区外に及ぶため全容は判然としないが弧を描く帯状の分布が予想される。

規模　(1.89)×0.72m

主軸方位（度）　N−38−W

埋没土　褐色粒子を含む黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の帰属する時期、性格等は不明である。

２　土坑

（１）119号土坑（第40図、PL.17）

位置　Ｘ＝47,966～47,968、Ｙ＝−73,806～−73,808、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　浅い皿形の底部のみの検出であり全体の形は不明であるが、平面形は概ね円形を呈する。

規模　0.94×0.85×0.12m

主軸方位（度）　N−３−E

埋没土　砂質の暗褐色土とシルト質の褐色土を含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

（２）120号土坑（第40図、PL.17）

位置　Ｘ＝47,971～47,973、Ｙ＝−73,900～−73,903、調査区３区西・東部の中央やや南寄りに位置する。

形状等　平面形は隅丸長方形を呈する。底面には傾斜が認められ、南東隅が深く北西隅が浅く、概ね３段程度に区分される。

規模　1.33×1.03×0.29m

主軸方位（度）　N−７−E

埋没土　下部ににぶい橙色の砂質ブロックが混入している砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

（３）136号土坑（第40,44図、PL.18,20）

位置　Ｘ＝47,973～47,975、Ｙ＝−73,846～−73,848、調査区３区中央東の中央西寄りの北辺沿いに位置する。

形状等　底部付近のみの検出である。また北端が調査区外に及び判然としないが、平面形は長円形を呈すると予想される。

規模　(0.86)×0.72×0.22m

主軸方位（度）　N−７−E

埋没土　極細砂粒質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　埋没土及び隣接する風倒木痕から同一個体とされる縄文時代前期諸磯ｂ式の土器片（９,10）が出土している。

所見　本遺構の年代は不明である。埋没土はAs-C混土層の下位、ローム漸移層の上位に堆積する土と同種であり、古墳時代以前に帰属する可能性がある。ただし、本遺構と同種の土を埋没土とする137号土坑は中世の遺物を出土し、また中世の遺物を出土する138号土坑の上位に位置しているため、遺構の帰属時期を不明とした。

（４）137号土坑（第40図、PL.18）

位置　Ｘ＝47,969～47,970、Ｙ＝−73,816～−73,817、調査区３区中央東の東辺近くに位置する。

形状等　底部のみの検出である。平面形は隅丸方形を呈する。

規模　0.5×0.47×0.32m

主軸方位（度）　N−5−E

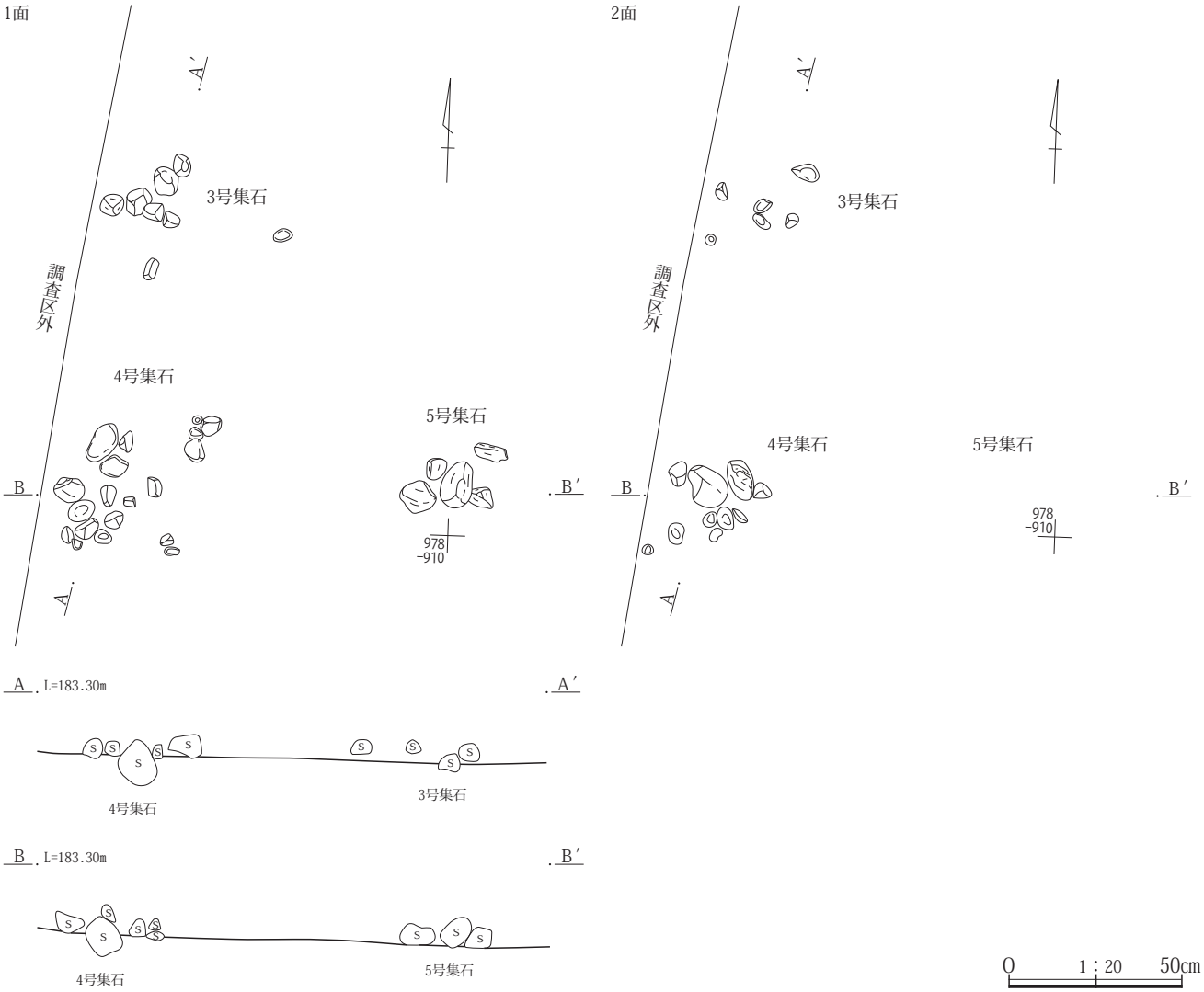
埋没土　極細砂粒質の黒褐色土に覆われる。

重複　138号土坑

遺物　図化にはいたらなかったが、埋没土から在地系土器内耳鍋、陶器製の擂鉢、かわらけや砥石等が出土している。

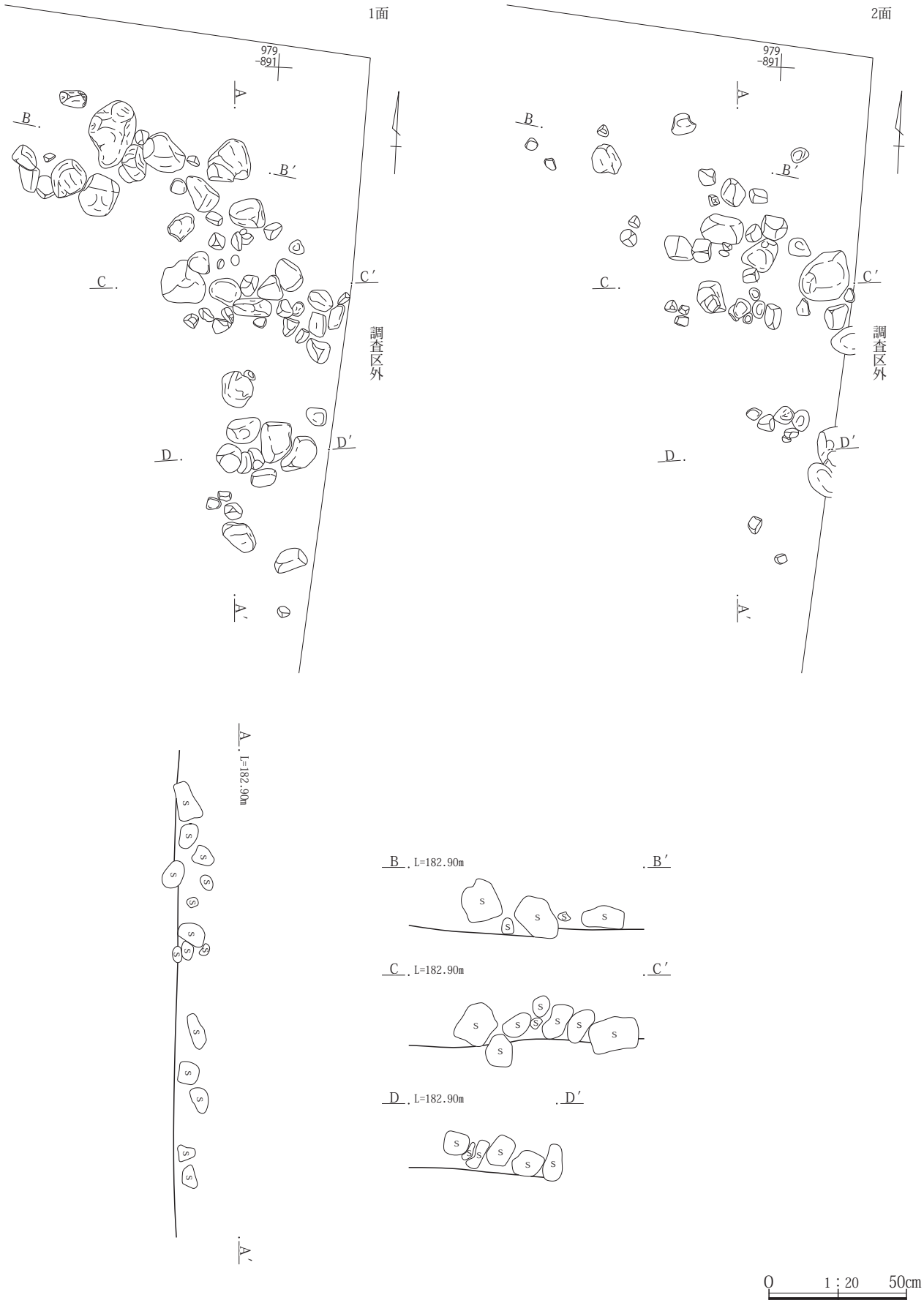
所見　本遺構の年代は、出土遺物から中近世に帰属する可能性が高い。138号土坑よりあたらしい。

3～5号集石



第38図　集石１

6号集石



第39図　集石２

（５）138号土坑（第41,42,44～46図、PL.18,20,21）

位置　Ｘ＝47,968～47,971、Ｙ＝−73,814～−73,818、調査区３区中央東東辺近くに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。確認面より1.7m程度の掘削を行ったが底面は検出されておらず、断面形は未確定であるが口の広い漏斗状を呈すると予測される。遺構上層はAs-Cを含む埋没土に覆われており、遺物は上層下部の礫群とともに検出された。

規模　3.18×2.68×(1.69)m

主軸方位(度)　N-86-W

埋没土　黄褐色の地山ブロックを含む黒褐色土に覆われる。

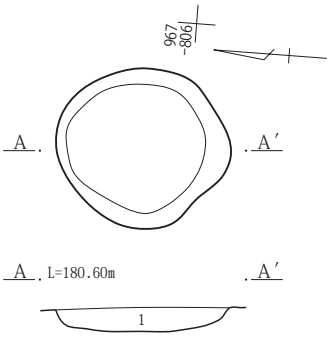
重複　137号土坑

遺物　主として埋没土中層の礫群と共に在地系土器皿(11～15)、在地系土器片口鉢(16～19)、在地系土器内耳鍋(20～22)、常滑陶器甕か壺(23)や砥石(24～26)などが出土しているほか、須恵器(２片、53ｇ)も出土している。

所見　本遺構の年代は、出土遺物から中世に帰属する。137号土坑に先行する。

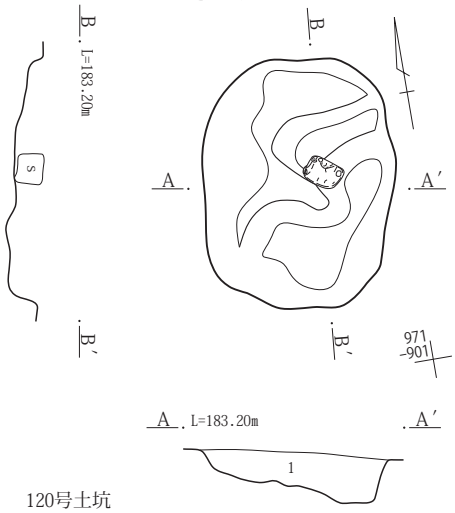
備考　調査記録に基づき土坑として掲載したが、調査時点より井戸の可能性が指摘されている。

119号土坑



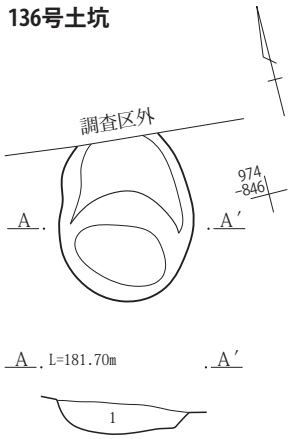
119号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)砂質、しまり強く、粘りあり。砂質のしまり強く、粘りある暗褐色土(10YR3/3)を含み、シルト質のしまり、粘りともに強い褐色土(10YR4/4)を数cm大のブロック状に含む。

120号土坑



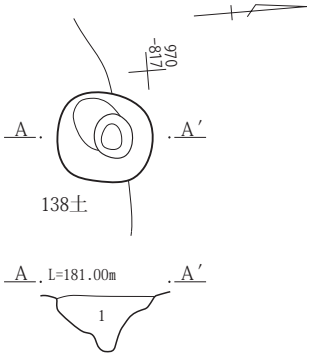
120号土坑
1　黒褐色土(7.5YR2/2)砂質(φ１mm以下)、しまりあり、粘りなし。褐色土(7.5YR4/6)粒(φ１mm)を１％含む。下部ににぶい橙色(7.5YR7/3)の粘りなし、しまりある砂質(φ１mm以下)のブロック(φ10cm程度)が混入している。

136号土坑



136号土坑
1　黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質土、しまり強く、粘りは弱い。

137号土坑

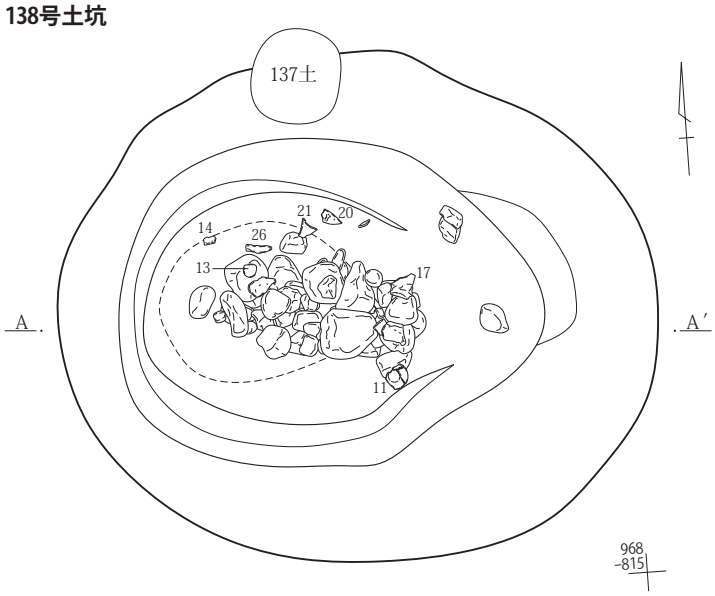


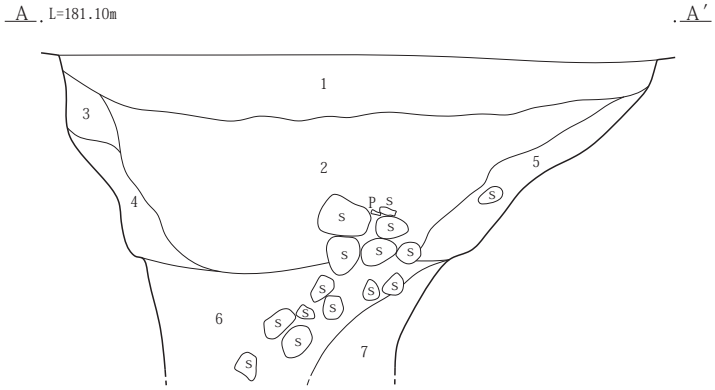
137号土坑
1　黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質土、しまり強く、粘りは弱い。

0　1：40　1m

第40図　２面土坑１

138号土坑





138号土坑

1　暗褐色土(10YR3/3)As-Ｃ、黄色粒子小量混入。粘性やや弱く、しまりやや強い。

2　黒褐色土(10YR3/2)As-Ｃ、黄褐色土ブロック(極小)、黄色粒子小量混入。粘性、しまりともにやや強い。

3　黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土ブロック(中～小)多量混入。粘性、しまりともにやや強い。

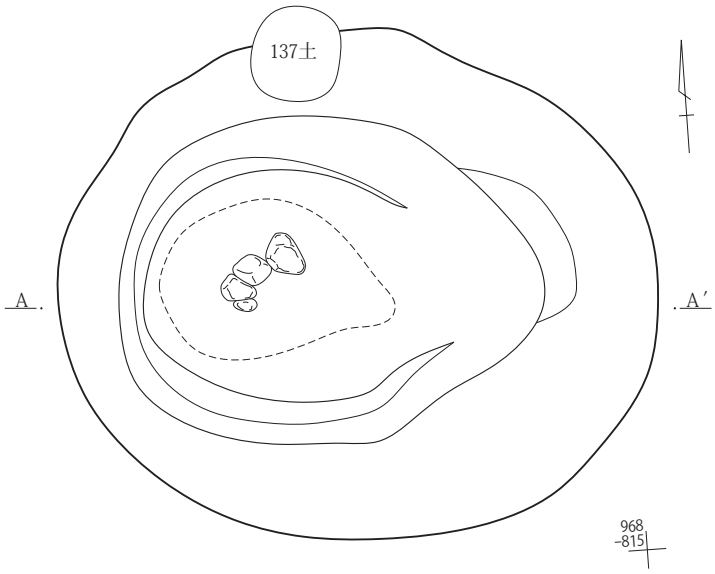
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土ブロック(中～小)多量混入。キメ細かく、粘性強く、しまりやや強い。

5　黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土ブロック、黄色粒子小量混入。粘性やや強く、しまり強い。

6　黒褐色土(10YR2/3)褐色土ブロック(大～中)小量混入。粘性やや強く、しまりやや弱い。

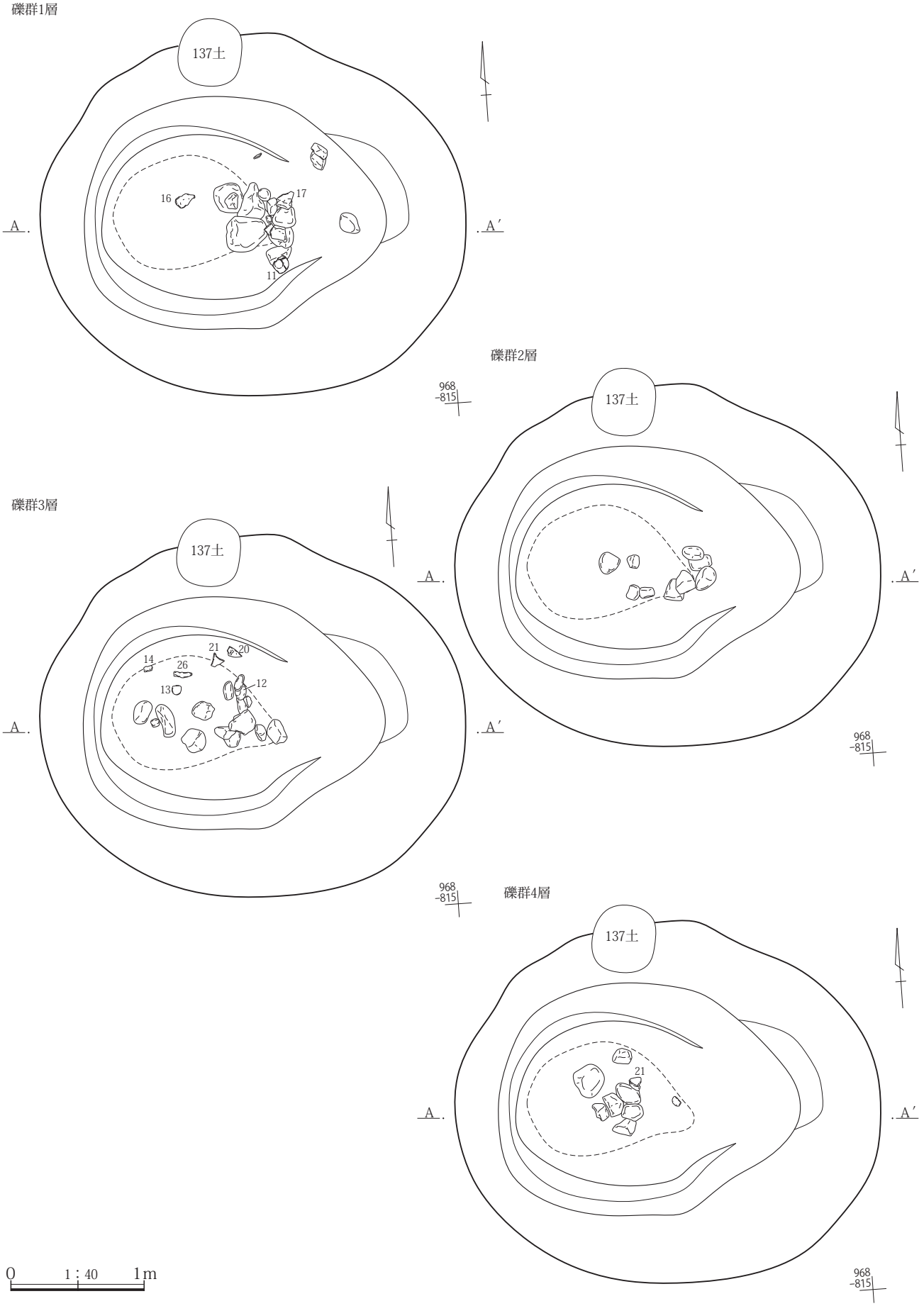
7　暗褐色土(10YR3/3)黄褐色粘質土ブロック(中～小)上部に多量混入。粘性やや強く、しまりやや弱い。

礫群最下層



0　1：40　1m

第41図　２面土坑２


礫群1層
137土
16
17
11
A
A′
礫群2層
968
-815
137土
A
A′
968
-815
礫群3層
137土
21
20
14
26
13
12
A
A′
968
-815
礫群4層
137土
21
A
A′
968
-815
0
1：40
1m

第42図　２面土坑３

第３－３－１表　２面土坑一覧

遺構名	検出位置	平面形	規模	主軸方位(度)	重複遺構
119号土坑	３区東　X＝47,966～47,968、Y＝-73,806～-73,808	円形	0.94×0.85×0.12	N-３-E	
120号土坑	３区西・東部　X＝47,971～47,973、Y＝-73,900～-73,903	隅丸長方形	1.33×1.03×0.29	N-７-E	
136号土坑	３区中央東　X＝47,973～47,975、Y＝-73,846～-73,848	長円形か	(0.86)×0.72×0.22	N-７-E	
137号土坑	３区中央東　X＝47,969～47,970、Y＝-73,816～-73,817	隅丸方形	0.50×0.47×0.32	N-５-E	138号土坑
138号土坑	３区中央東　X＝47,968～47,971、Y＝-73,814～-73,818	長円形	3.18×2.68×(1.69)	N-86-W	137号土坑

２　ピット

３区２面から検出された14基のピットは、As-C混土層の下位に位置する褐色シルト面を遺構確認面とし、いずれもAs-C混土層下位の堆積土と同種の土を埋没土としている。出土層位としては中世以前の遺構と考えられるのであるが、シルト質の褐色土ブロックを埋没土に含む遺構から中近世の遺物が検出される事例もあり、遺構の帰属時期を不明とした。

(１)285号ピット(第43図、PL.19)

位置　X＝47,967～47,968、Y＝-73,809～-73,810、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.37×0.26×0.25m

主軸方位(度)　N-６-E

埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

(２)286号ピット(第43図、PL.19)

位置　X＝47,964～47,965、Y＝-73,806～-73,808、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は隅丸長方形を呈する。

規模　0.38×0.33×0.36m

主軸方位(度)　N-26-W

埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

(３)287号ピット(第43図、PL.19)

位置　X＝47,965～47,966、Y＝-73,807～-73,808、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.28×0.23×0.27m

主軸方位(度)　N-４-W

埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

(４)288号ピット(第43図、PL.19)

位置　X＝47,963～47,964、Y＝-73,807～-73,808、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.29×0.27×0.12m

主軸方位(度)　N-83-E

埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

(５)289号ピット(第43図、PL.19)

位置　X＝47,964～47,965、Y＝-73,808～-73,810、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.37×0.32×0.38m

主軸方位(度)　N-８-W

埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

（６）290号ピット（第43図、PL.19）

位置　Ｘ＝47,963～47,964、Ｙ＝-73,809～-73,810、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.29×0.26×0.15m

主軸方位（度）　N-11-E

埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

（７）291号ピット（第43図、PL.19）

位置　Ｘ＝47,963～47,964、Ｙ＝-73,809～-73,810、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.22×0.21×0.22m

主軸方位（度）　N-11-E

埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、不明である。

（８）292号ピット（第43図、PL.19）

位置　Ｘ＝47,966～47,967、Ｙ＝-73,805～-73,806、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.28×0.26×0.24m

主軸方位（度）　N-９-W

埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

（９）293号ピット（第43図、PL.19）

位置　Ｘ＝47,963～47,964、Ｙ＝-73,802～-73,804、調査区３区東の中央付近に位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.30×0.25×0.30m

主軸方位（度）　N-６-W

埋没土　シルト質の褐色土ブロックを含む砂質の黒褐色土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

(10)334号ピット（第43図、PL.19）

位置　Ｘ＝47,965～47,967、Ｙ＝-73,823～-73,825、調査区３区中央東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は円形を呈する。

規模　0.26×0.24×0.20m

主軸方位（度）　N-50-W

埋没土　黒褐色の極細粒砂質土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は、不明である。

(11)335号ピット（第43図、PL.19）

位置　Ｘ＝47,968～47,969、Ｙ＝-73,820～-73,822、調査区３区中央東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.22×0.20×0.11m

主軸方位（度）　N-42-W

埋没土　黒褐色の極細粒砂質土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

(12)336号ピット（第43図、PL.19）

位置　Ｘ＝47,968～47,969、Ｙ＝-73,819～-73,820、調査区３区中央東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.21×0.18×0.17m

主軸方位（度）　N-35-W

埋没土　黒褐色の極細粒砂質土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

(13)337号ピット(第43図、PL.19)

位置　X＝47,969～47,971、Y＝−73,821～−73,822、調査区３区中央東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は長円形を呈する。

規模　0.42×0.39×0.27m

主軸方位(度)　N−5−W

埋没土　黒褐色の極細粒砂質土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。

(14)338号ピット(第43図、PL.19)

位置　X＝47,969～47,971、Y＝−73,819～−73,820、調査区３区中央東の東辺寄りに位置する。

形状等　平面形は偏円形を呈する。

規模　0.34×0.24×0.16m

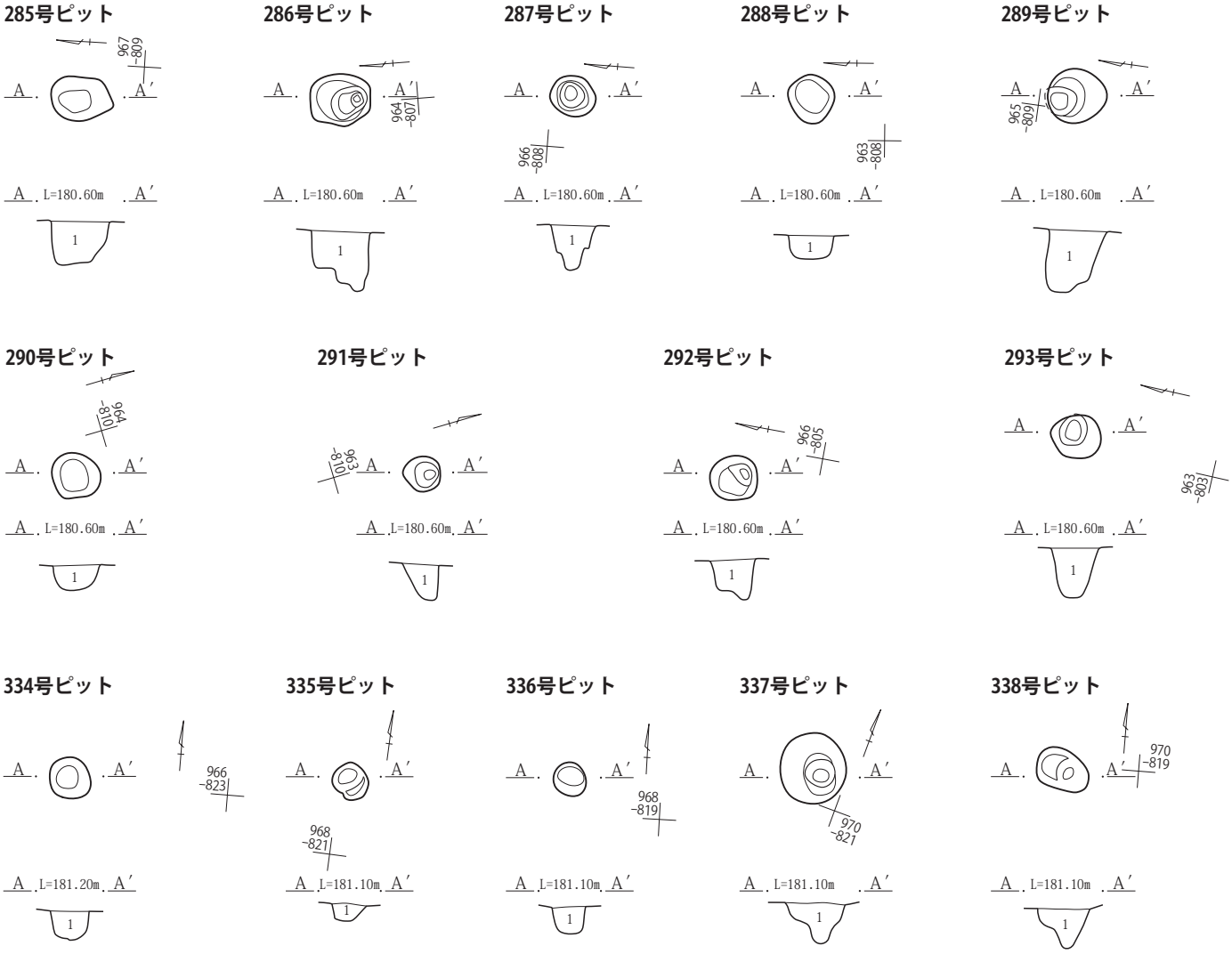
主軸方位(度)　N−51−W

埋没土　黒褐色の極細粒砂質土に覆われる。

重複　なし

遺物　なし

所見　本遺構の年代は不明である。



285～293号ピット

1　黒褐色土(10YR2/3)砂質、しまり強く、粘りあり。砂質でしまり強く、粘りある暗褐色土(10YR3/3)を含み、シルト質のしまり強く、粘り強い褐色土(10YR4/4)が数cm大のブロック状に混ざる。

334～338号ピット

1　黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質土、しまりが強く粘りは弱い。

0　1：40　1m

第43図　２面ピット

第３－３－２表　２面ピット一覧

遺構名	検出位置		平面形	規模	主軸方位(度)	重複遺構
285号ピット	３区東	X＝47,967～47,968、Y＝-73,809～-73,810	長円形	0.37×0.26×0.25	N-６-E	
286号ピット	３区東	X＝47,964～47,965、Y＝-73,806～-73,808	隅丸長方形	0.38×0.33×0.36	N-26-W	
287号ピット	３区東	X＝47,965～47,966、Y＝-73,807～-73,808	長円形	0.28×0.23×0.27	N-４-W	
288号ピット	３区東	X＝47,963～47,964、Y＝-73,807～-73,808	隅丸方形	0.29×0.27×0.12	N-83-E	
289号ピット	３区東	X＝47,964～47,965、Y＝-73,808～-73,810	偏円形	0.37×0.32×0.38	N-８-W	
290号ピット	３区東	X＝47,963～47,964、Y＝-73,809～-73,810	偏円形	0.29×0.26×0.15	N-11-E	
291号ピット	３区東	X＝47,963～47,964、Y＝-73,809～-73,810	偏円形	0.22×0.21×0.22	N-11-E	
292号ピット	３区東	X＝47,966～47,967、Y＝-73,805～-73,806	長円形	0.28×0.26×0.24	N-９-W	
293号ピット	３区東	X＝47,963～47,964、Y＝-73,802～-73,804	長円形	0.30×0.25×0.30	N-６-W	
334号ピット	３区中央東	X＝47,965～47,967、Y＝-73,823～-73,825	円形	0.26×0.24×0.20	N-50-W	
335号ピット	３区中央東	X＝47,968～47,969、Y＝-73,820～-73,822	長円形	0.22×0.20×0.11	N-42-W	
336号ピット	３区中央東	X＝47,968～47,969、Y＝-73,819～-73,820	偏円形	0.21×0.18×0.17	N-35-W	
337号ピット	３区中央東	X＝47,969～47,971、Y＝-73,821～-73,822	長円形	0.42×0.39×0.27	N-５-W	
338号ピット	３区中央東	X＝47,969～47,971、Y＝-73,819～-73,820	偏円形	0.34×0.24×0.16	N-51-W	

第４節　出土遺物

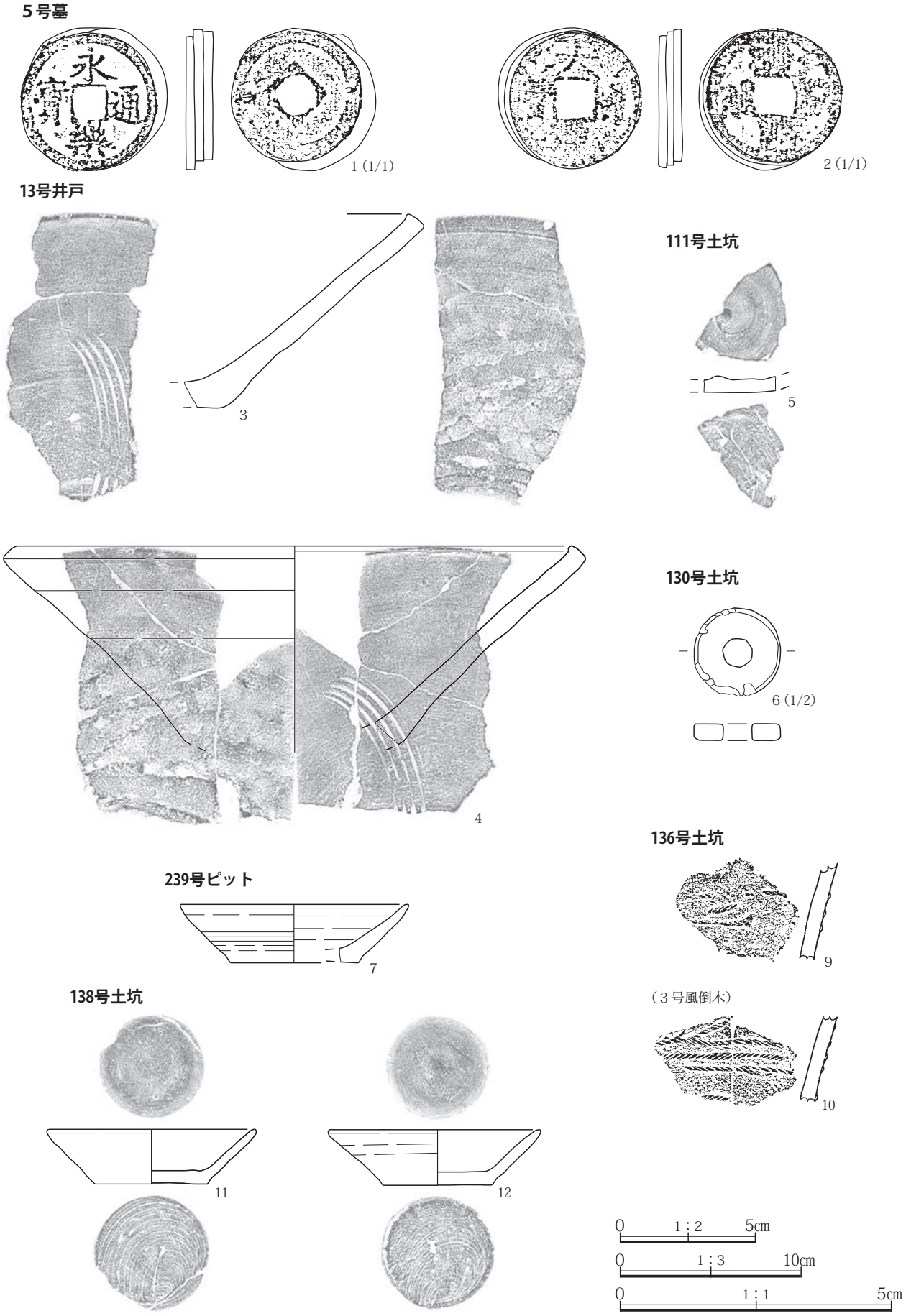
本調査区から出土した遺物の検出概況を下表(第３-４-１表)にまとめた。全調査区で弥生時代の遺物は確認されておらず、３区西からは縄文時代の遺物も検出されていない。また、３区東調査区を除き、下層である２面確認面からも近現代の遺物が検出される傾向がある。調査地は表土下平均50cm、浅ければ30cmに満たない深さから削平された遺構面(１面)が顔を出す、堆積の薄い土地柄である。調査地周辺は明治時代以前から集落としての用途が主であったと推測されるが、３区西から３区中央にかけての範囲は開発や耕作などの影響を強く受けてきたと推察される。

検出された遺構の帰属する時代時期の判定は、その遺構から出土した遺物の属性に依拠したことから、49号溝と123号土坑の帰属時期を近世以降とした。ところで、49号溝の埋没土はその位置する場所により相違する。３区西と３区西・東部はAs-C混じりの暗褐色地山土の混入する粘質層を埋没土としているのに対し、３区中央東の埋没土はAs-Cの他に上層ではHr-FP、下層では黄褐色地山ブロックが混入している。49号溝はその西半と東半とで利用状況・維持の仕方等が相違したと推測される。

なお３区中央西の49号溝底部から82.6ｇの黒色頁岩の剥片１点が出土しているほか、３区中央東からは珪質頁岩の打製石斧１点と黒色頁岩の石核１点も出土している。また縄文土器は掲載した４片の他、未掲載が３片存在する。このうち49号溝出土の１片は136号土坑出土の諸磯ｂと同一とされる。228号ピットから細片のため詳細不明の１片が出土しており、細片のため細分不明ではあるが諸磯式併行とされる破片が３区西・東部から出土している。

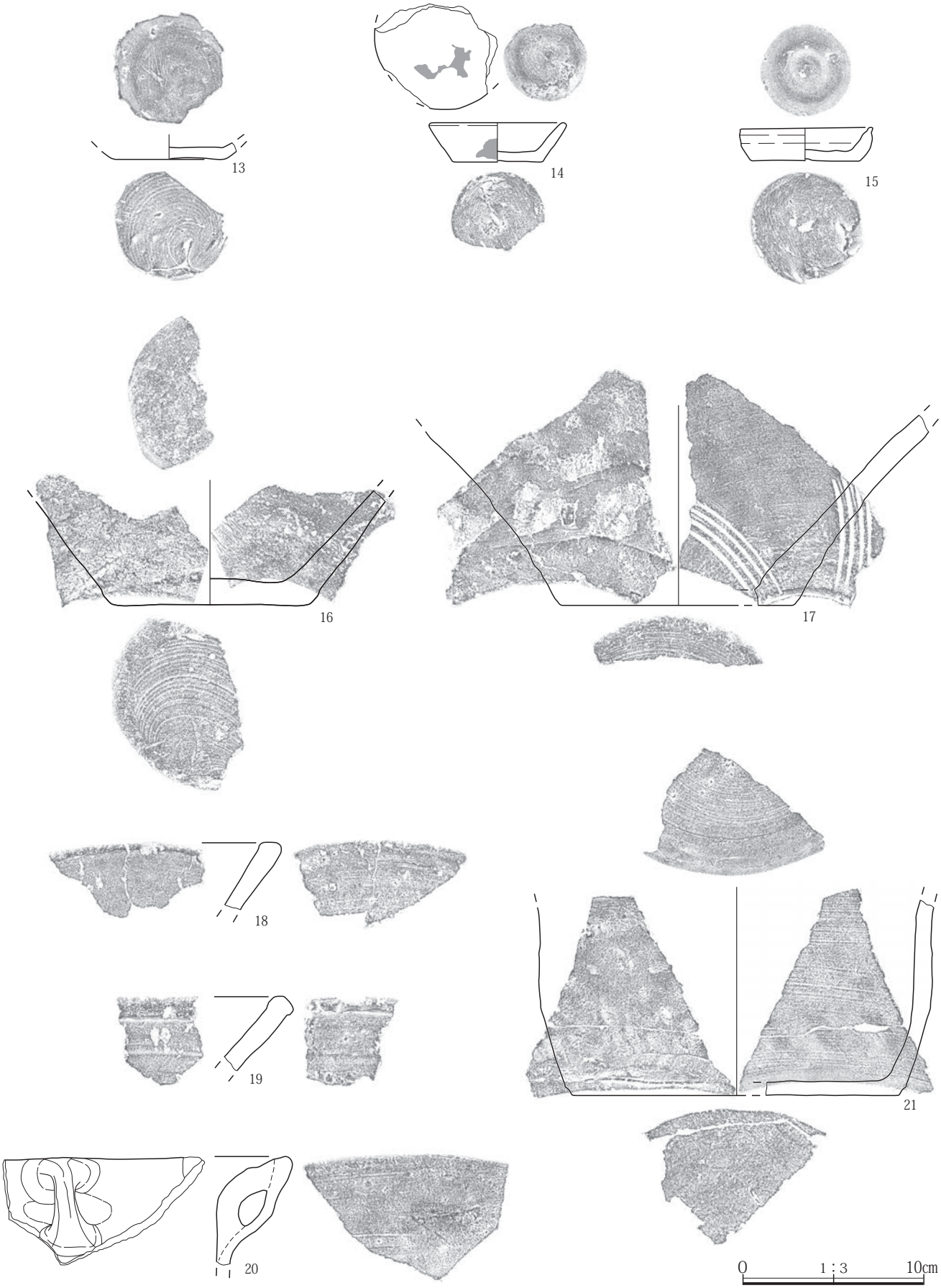
第３－４－１表　遺物出土状況

遺物出土場所			縄文		弥生	須恵器	土師器	中近世					近現代
			土器	石器等				陶器磁器	在地系	その他	石製品	銭貨	
３区西～中央	１面	49号溝	○			○	○	○	○				○
３区西	１面	遺構外					○						○
３区西	２面	遺構外						○					○
３区西・東部	１面	遺構外	○			○	○	○					○
３区西・東部	２面	遺構外				○	○						
３区中央東	１面	13号井戸					○		○				
３区中央東	１面	123号土坑					○	○	○				○
３区中央東	１面	130号土坑								○			
３区中央東	１面	遺構外	○	○		○	○	○			○		○
３区中央東	２面	136号土坑	○										
３区中央東	２面	138号土坑				○			○		○		
３区中央東	２面	遺構外					○	○					○
３区東	１面	50号溝				○	○						
３区東	１面	12号井戸					○						
３区東	１面	５号墓										○	
３区東	１面	111号土坑					○		○				
３区東	１面	113号土坑					○						
３区東	１面	220号ピット					○						
３区東	１面	228号ピット	○										
３区東	１面	234号ピット		○									
３区東	１面	239号ピット				○			○				
３区東	１面	247号ピット									○	○	
３区東	１面	249号ピット									○		
３区東	１面	遺構外					○						
３区東	２面	遺構外					○						


5号墓
永
通
1 (1/1)
2 (1/1)
13号井戸
3
4
111号土坑
5
130号土坑
6 (1/2)
136号土坑
9
（３号風倒木）
10
239号ピット
7
138号土坑
11
12
0　1：2　5cm
0　1：3　10cm
0　1：1　5cm

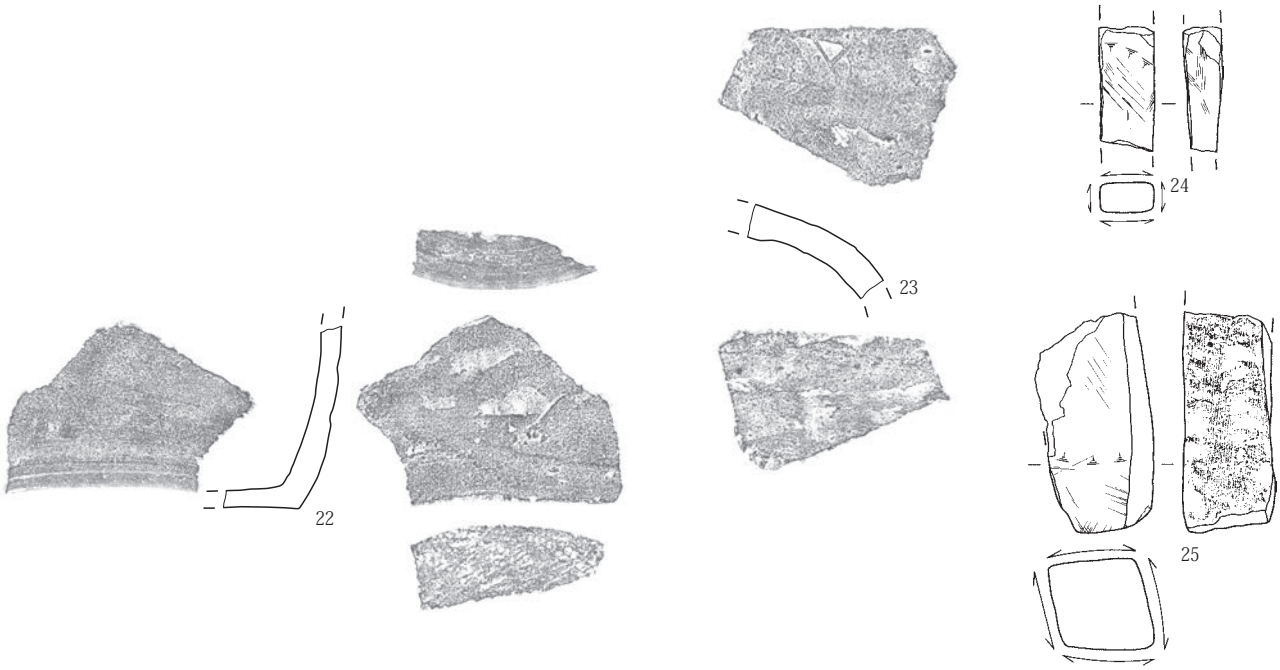
第44図　出土遺物１

（138号土坑）

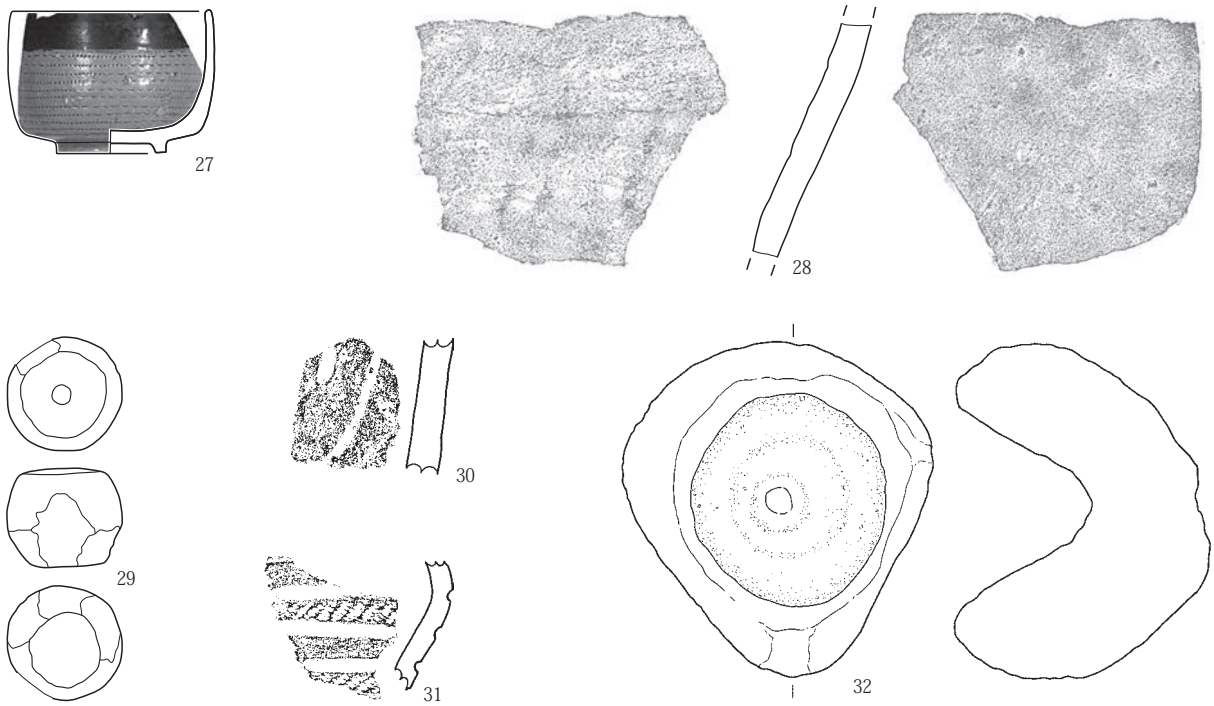


第45図　出土遺物２

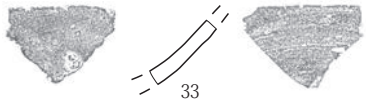
（138号土坑）

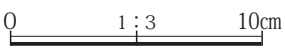


遺構外１面



遺構外２面





第46図　出土遺物３

第３－４－２表　遺構出土遺物観察表

挿　図 PL.No.	No.	種　類 器　種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備　考
第44図 PL.20	1	銭貨 永楽通寶	５墓埋没土 完形	外 内		厚 重			永楽通寶を含む３枚が癒着した状態で出土する。背側の銭は約90度回転した状態で癒着する。永楽通寶の文字、輪、郭は明瞭。	
第44図 PL.20	2	銭貨 大観通寶・ 熙寧元寶	５墓埋没土 完形	外 内		厚 重			大観通寶と熙寧元寶を含む３枚が癒着した状態で出土する。熙寧元寶の文字は劣化により不明瞭。大観通寶は一部錆が多く、つぶれてしまっている。	
第44図	3	在地系土器 片口鉢	13井戸、２層・ 礫群２，３層 口縁部から体部 片	口 底		高		白色鉱物含む/に ぶい黄橙	体部は直線的に延び、口縁部は僅かに外反。口縁端部上面は平坦で内面は小さく突き出る。内面に５本一単位のすり目。	14世紀後半～ 15世紀前半か
第44図 PL.20	4	在地系土器 片口鉢	13井戸、2,3層・ 礫群２層 口縁部から体部 片1/4	口 底	(30.6)	高		白色鉱物含む/に ぶい黄橙	体部下位は外湾し口縁部は緩く外反。口縁端部は平坦で内面は丸みを帯びて突き出る。内面に５本一単位のすり目。	14世紀後半～ 15世紀前半か
第44図	5	在地系土器 皿	111土坑埋没土 底部片	口 底		高		灰色鉱物粒含む/ 灰白	底部回転糸切無調整。轆轤右回転整形か。	中世
第44図 PL.20	6	製作地不詳 磁器 戸車	130土坑埋没土 一部欠	外 内	3.3 1.0	厚	0.6	白	使用によるものか、側面と外縁は平滑となる。外縁のみ透明釉。	18世紀後半～ 19世紀
第44図	7	在地系土器 皿	239ピット埋没 土 口縁部一部、底 部1/6	口 底	(12.5) (7.0)	高	3.2	灰色鉱物粒含む/ 灰白	体部外面に工具によると推定される条線と凹線。	14世紀後半～ 15世紀前半か
PL.20	8	銭貨 景徳元寶	247ピット埋没 土 1/2	外 内	(2.308) (2.208)	厚 重	0.096 0.3		1/2と輪の破片が残存する。劣化は見られるが面は彫が深く、文字、輪は明瞭。郭は細くやや不明瞭。背は彫は無いが輪は明瞭で郭は不明瞭。	
第44図 PL.20	9	縄文土器 深鉢	136土坑埋没土 胴部破片					粗砂、輝石/良好	横位浮線を多段にめぐらす。	諸磯ｂ式
第44図 PL.20	10	縄文土器 深鉢	３風倒木埋没土 胴部破片						No. ９と同一個体。横位浮線間に弧状の浮線を施す。	諸磯ｂ式
第44図 PL.20	11	在地系土器 皿	138土坑、２層・ 礫群１層 口縁部1/2欠	口 底	11.4 6.2	高	3.0	黒色鉱物粒含む/ 橙	体部下位は外反り。底部左回転糸切無調整。	15世紀前半
第44図 PL.20	12	在地系土器 皿	138土坑、６層・ 礫群３層 完形	口 底	11.5 6.0	高	3.1	黒色鉱物粒含む/ 橙	底部内面中央指ナデ。外面の轆轤目はやや顕著。底部左回転糸切無調整。	15世紀前半
第45図	13	在地系土器 皿	138土坑、６層・ 礫群３層 底部	口 底	6.0	高		赤色粘土粒含む/ 浅黄橙	底部左回転糸切無調整。底部内面中央に弱い指ナデ。	中世
第45図 PL.20	14	在地系土器 皿	138土坑、６層・ 礫群３層 口縁部1/2欠	口 底	(7.3) 4.9	高	2.2	黒変により不詳/ 褐灰	整形時は轆轤左回転。底部は回転糸切後に板状工具によるナデ。断面を含めた器表は黒変。内外面に黒色物付着。	15世紀前半
第45図 PL.20	15	在地系土器 皿	138土坑埋没土 口縁部一部欠	口 底	7.2 6.0	高	1.8	灰色鉱物粒含む/ 灰白	底部左回転糸切無調整。器高低く、器壁やや厚い。	14世紀
第45図 PL.20	16	在地系土器 片口鉢	138土坑、２層・ 礫群１層 体部下半から底 部1/4	口 底	(11.0)	高		白色鉱物粒含む/ 灰	還元炎焼成。体部内面から底部内面の器表摩滅。底部外面周縁の器表摩滅。底部左回転糸切無調整。	中世
第45図 PL.20	17	在地系土器 片口鉢	138土坑、２層・ 礫群１層 体部下半1/6	口 底	(12.6)	高		白色鉱物粒含む/ 灰	長径11㎜のチャート礫１個含む。還元炎焼成。内面に４本一単位のすり目。体部内面中位以下の器表摩滅。内面底部境は屈曲が強く、器表摩滅していない。	中世
第45図	18	在地系土器 片口鉢	138土坑埋没土 口縁部片	口 底		高		白色鉱物粒含む/ 灰	器表付近はにぶい黄橙色。還元炎焼成。	14世紀後半か
第45図	19	在地系土器 片口鉢	138土坑埋没土 口縁部片	口 底		高		黒色鉱物粒少量含 む/褐灰	口縁端部内面の器表摩滅、外面は小さく欠損。	15世紀か
第45図 PL.20	20	在地系土器 内耳鍋	138土坑、２層・ 礫群３層 口縁部片	口 底		高		黒色鉱物粒少量含 む/にぶい褐	外面器表は灰黄褐色、内面器表は暗灰黄色。口縁端部は丸みを帯びる。内耳は口縁部器壁に粘土紐貼付け。	15世紀後半か
第45図	21	在地系土器 内耳鍋	138土坑、２，６ 層・礫群３，４層 体部から底部 1/6	口 底	(18.0)	高		黒色鉱物粒少量含 む/にぶい黄橙	器表は黒褐色。体部外面下端から底部外面は褐灰色で置いて使用したと考えられる。体部外面下端はヘラナデ。平底。	15世紀～16世 紀前半か
第46図	22	在地系土器 内耳鍋	138土坑埋没土 体部下位片	口 底		高		白色鉱物粒含む/ 灰	外面器表は灰黄褐色、内面器表は黄灰色。平底。体部外面下端はヘラナデ。	15世紀～16世 紀前半か

挿　図 PL.No.	No.	種　類 器　種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石 材 ・ 素 材 等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備　考
第46図	23	常滑陶器 甕か壺	138土坑埋没土 肩部片	口 底		高		灰白	肩部上面の器表に自然釉薄くかかる。	中世
第46図 PL.21	24	砥石	138土坑埋没土			重	28.6	流紋岩	四面使用。表面側は著しく研ぎ減る。裏面側には斜向する粗い線条痕が見られる。上面側整形痕は粗く、折断面が部分的に残る。	
第46図 PL.21	25	砥石	138土坑、６層・ 礫群３層			重	207	砥沢石	四面使用。各面とも著しく摩耗、研ぎ減りが著しい。小口部は折断後､粗く磨き整形。被熱して砥面が剥落、部分的に煤が付着する。	
PL.21	26	砥石	138土坑、６層・ 礫群３層	長 幅	13 (3.7)	厚 重	3.7 175.4	砥沢石	四面使用。表裏面が本来の砥面で、両側面は便宜的使用に止まる。表裏面とも砥面は著しく研ぎ減る。砥石は被熱して両側面とも剥落しているが、煤がついていない砥面もあり、その後も砥石は使われたものと見られる。	

第３－４－３表　遺構外遺物観察表

挿　図 PL.No.	No.	種　類 器　種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石 材 ・ 素 材 等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備　考
第46図 PL.21	27	瀬戸・美濃 陶器 鎧碗	３区中央東表土 口縁部1/6、底 部完	口 底	(7.8) 4.3	高	5.6	灰白	体部外面回転施文具による文様。内面から口縁部外面に鉄釉。体部外面から高台内に灰釉。高台端部のみ無釉。美濃であろう。	18世紀後半～ 19世紀前半
第46図	28	常滑陶器 甕か壺	３区中央東１面 体部片	口 底		高		にぶい赤褐	外面ナデ。内面指頭厚痕顕著。	中世
第46図 PL.21	29	土製品 不詳	３区東表土 一部欠	径 上	4.5 3.5	高	3.9	黒色鉱物粒含む/ にぶい黄橙	片側小口面中央に直径6.1ミリ、深さ21ミリの貫通しない円孔をあける。	時期不詳
第46図 PL.21	30	縄文土器 深鉢	３区中央東、１ 面 胴部破片					粗砂、輝石/ふつう	弧状の帯状沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺Ⅱ式
第46図 PL.21	31	縄文土器 深鉢	３区中央東、第 ２層 胴部破片					粗砂、輝石/ふつう	横位帯状沈線を施し、LR縄文を充填施文する。	称名寺Ⅰ式
第46図 PL.21	32	石製品	３区中央東攪乱			重	1351.5	粗粒輝石安山岩	平面形状が扇状を呈す原礫を用い、中心部を漏斗状に整形する。孔内面は平滑に整形され、丁寧な作り。底部は敲打による平坦部が作出されているが、小さ過ぎて安定性に欠ける。	
第46図	33	古瀬戸陶器 平碗か	３区中央東２面 体部片	口 底		高		灰白	内面から体部外面下位に灰釉。内面に目跡１カ所。	14世紀～16世 紀か

第３－４－４表　未掲載出土遺物(古代)

出土位置			土 師 器			須 恵 器		羽　釜
			小	中	大	小	大	
３区西	49号溝				２ 片　13 g	１ 片　1 g	１ 片　81 g	
３区西	49号溝	覆土上部	２ 片　3 g	１ 片　6 g	２ 片　13 g			
３区西	49号溝	覆土	３ 片　9 g		11 片　117 g			
３区西	49号溝	覆土下部	１ 片　4 g	１ 片　14 g				
３区東	50号溝		３ 片　10 g		１ 片　4 g		１ 片　7 g	
３区東	12号井戸	覆土			１ 片　10 g			
３区中央東	13号井戸		１ 片　4 g					
３区東	111号土坑	覆土		１ 片　6 g	１ 片　16 g			
３区東	113号土坑	覆土			１ 片　13 g			
３区中央東	123号土坑	覆土			４ 片　14 g			
３区中央東	138号土坑						２ 片　53 g	
３区東	220号ピット				１ 片　2 g			
３区西	表土				２ 片　13 g			
３区中央東	表土		５ 片　14 g	２ 片　10 g	12 片　95 g			
３区東	表土		１ 片　2 g		２ 片　14 g			
３区中央東	１面				２ 片　3 g		１ 片　18 g	
３区西・東部	２面		１ 片　6 g		２ 片　22 g		１ 片　51 g	
３区中央東	２面	覆土	２ 片　1 g		１ 片　9 g			
３区東	２面		１ 片　4 g					
３区西・東部	攪乱		４ 片　10 g	１ 片　24 g	７ 片　18 g		１ 片　6 g	１ 片　23 g
３区西・東部			２ 片　1 g	１ 片　1 g	６ 片　24 g			

大中小は想定器種の大小に基づく。小は杯・椀・皿等、中は高杯・小型壺等、大は甕・羽釜・壺等。

第３－４－５表　未掲載出土遺物(中世以降)

区	層位･面	遺構番号	遺構種	中世				近世										近現代						時期不詳	
				在地系鉢・鍋		在地系皿		国産磁器		国産施釉陶器		国産焼締陶器		在地系焙烙・鍋		在地系その他		陶磁器		土器類		瓦		土器類	
				点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
３東		111	土坑			1	4																		
３東		13	井戸	1	42																				
３東		239	ピット			1	4																		
３中央東		123	土坑					1	3									1	2			2	14		
３中央東		138	土坑	4	209																			5	26
３中央東		49	溝							2	165	2	82	1	11			3	291						
３中央東	表土							3	85	5	291					1	71			1	12				
３中央東	１面									1	6											1	15	2	26
３中央東	攪乱			2	29																				
３中央東	２面																			1	16	1	49		
３中央東	２面中央													1	11										
３	攪乱			1	70																				
３西														1	7					2	30	1	8	2	12
３西	２面							1	4					1	13					2	26			1	5
３西東部	攪乱							4	24	2	28							2	32	2	65			35	293
計				8	350	2	8	9	116	10	490	2	82	4	42	1	71	6	325	8	149	5	86	45	362

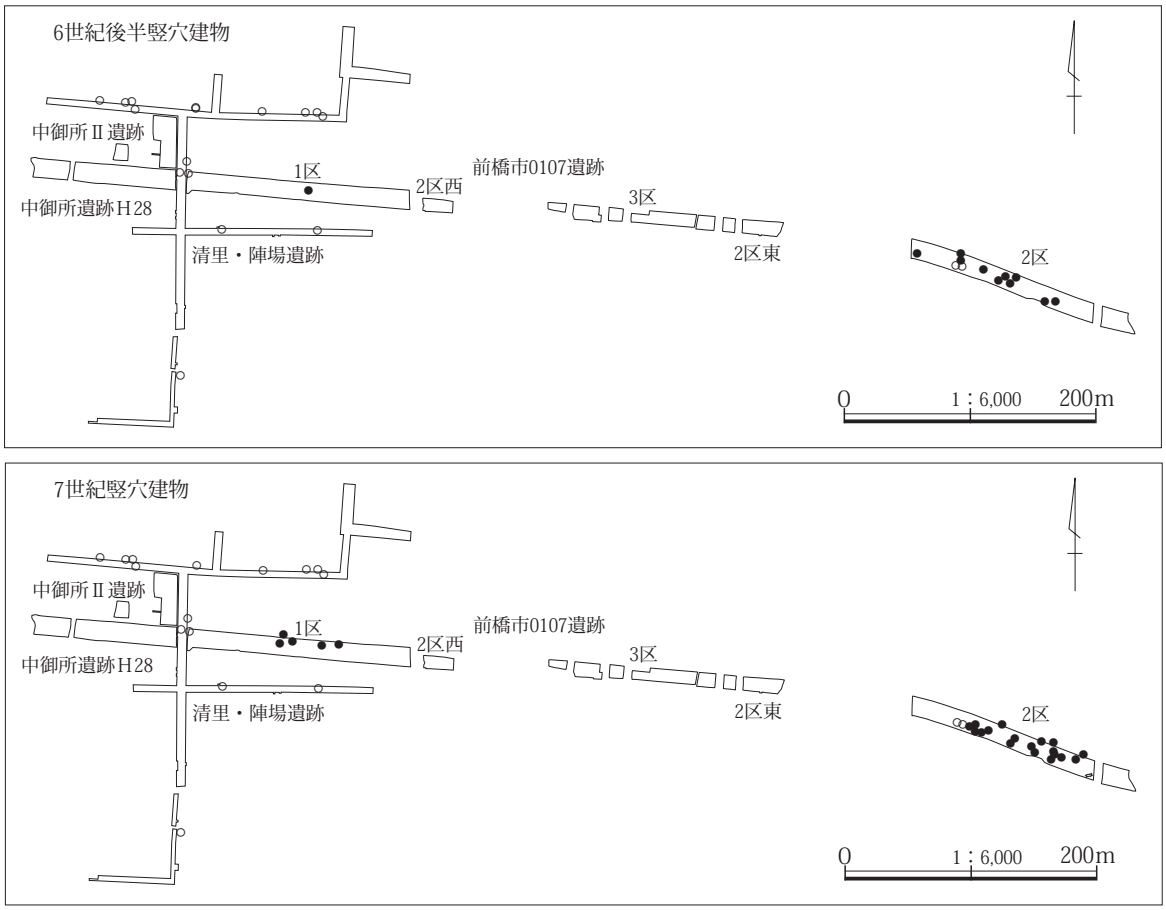
第４章　まとめ

「集落の変遷」について

書名に（２）を冠する本書では、山中（2021）の提示した「集落の変遷」の追補資料を紹介したかったのであるが、生憎と今回の調査範囲からは竪穴建物が検出されなかった。そこで本章では、前書（山中2021）でも触れられていた本遺跡の西に隣接する清里・陣場遺跡に加え、これに隣接する中御所遺跡の調査範囲も加え、古墳時代から平安時代にかけてを６期に区分した建物遺構の遺構分布図（第47～49図）を作成した。本図では当該時期の竪穴建物の所在を●で示し、帰属時期の不明な竪穴建物を○で示した。なお図の最後に、帰属年代が明記された中世の遺構の出土状況をまとめ付した。また比較資料として、本遺跡の所在する前橋市池端町周辺から確認された遺跡の所在を時代別にまとめた時代別遺跡分布図（第50図）を掲示した。

本章の遺構分布図は佐藤（2021）の「相対位置図」を拡張し、前橋市0107遺跡も含め竪穴建物等の所在を書き加えたものである。中御所Ⅱ遺跡と清里・陣場遺跡の測量基点の絶対座標を確定できなかったため、提示した遺構分布図は遺跡相互の位置関係を相対的に勘案し擦り合わせた、いわば絵合わせ的な作図に基づいており、測量図としての精度に欠け、模式図に位置図けられる。また瀧野（2005）は中御所Ⅱ遺跡の竪穴建物の年代を「10世紀後半以降多くは11世紀代」とし、個々の遺構の時期区分は明示されていなかったので、便宜上一律に土師器を伴った遺構を10世紀、他を11世紀の遺構に区分した。

第50図は本書第２章第２節で用いた遺跡の分布図（第７図）を時代別に再構成したものである。用いた記号の意味も同様に「●集落遺跡、◎古墳、■城館」であり、薄墨の●は散布地を、○は遺構の検出された遺跡を



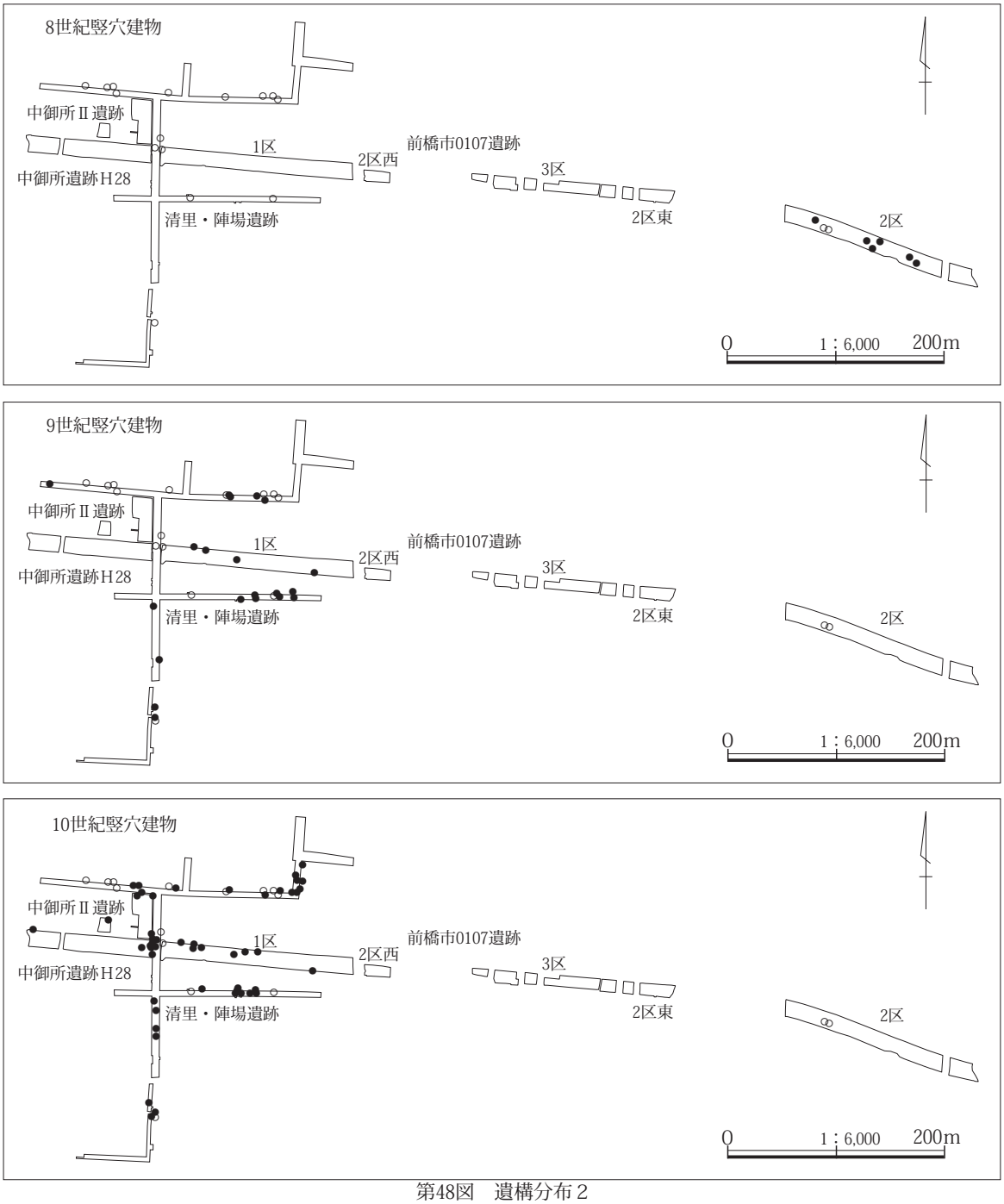
第47図　遺構分布１

意味する。

さて、遺構分布図(第47～49図)を一瞥すると居住域の消長による二つの流れに目をひかれる。一つは６世紀から８世紀にかけて存在し、一つは９世紀から11世紀にかけて存在した二群の集落変遷である。

最初の消長は山中(2021)の指摘にあるように、古墳時代から奈良時代に至る時代変化を示すものと考えられる。図の東端付近(前橋市0107遺跡２区)を主体とし、図の西寄り地点(前橋市0107遺跡１区)がこれに付随・追随する、古墳時代から続く集落が飛鳥時代に最盛期を迎え、奈良時代には減少に向かう一連の流れである。第50図の右上の図は奈良時代の遺跡分布であるが、同図左上の古墳時代の図と比べると図内右上の駒寄川中流域周辺で遺跡の密度が高まり、本遺跡の所在する図内中央付近ではやや減少する様子がうかがえる。遺構分布の示す本遺跡周辺の竪穴建物の増減はこの池端町周辺の居住域の変化に呼応する現象と推測される。

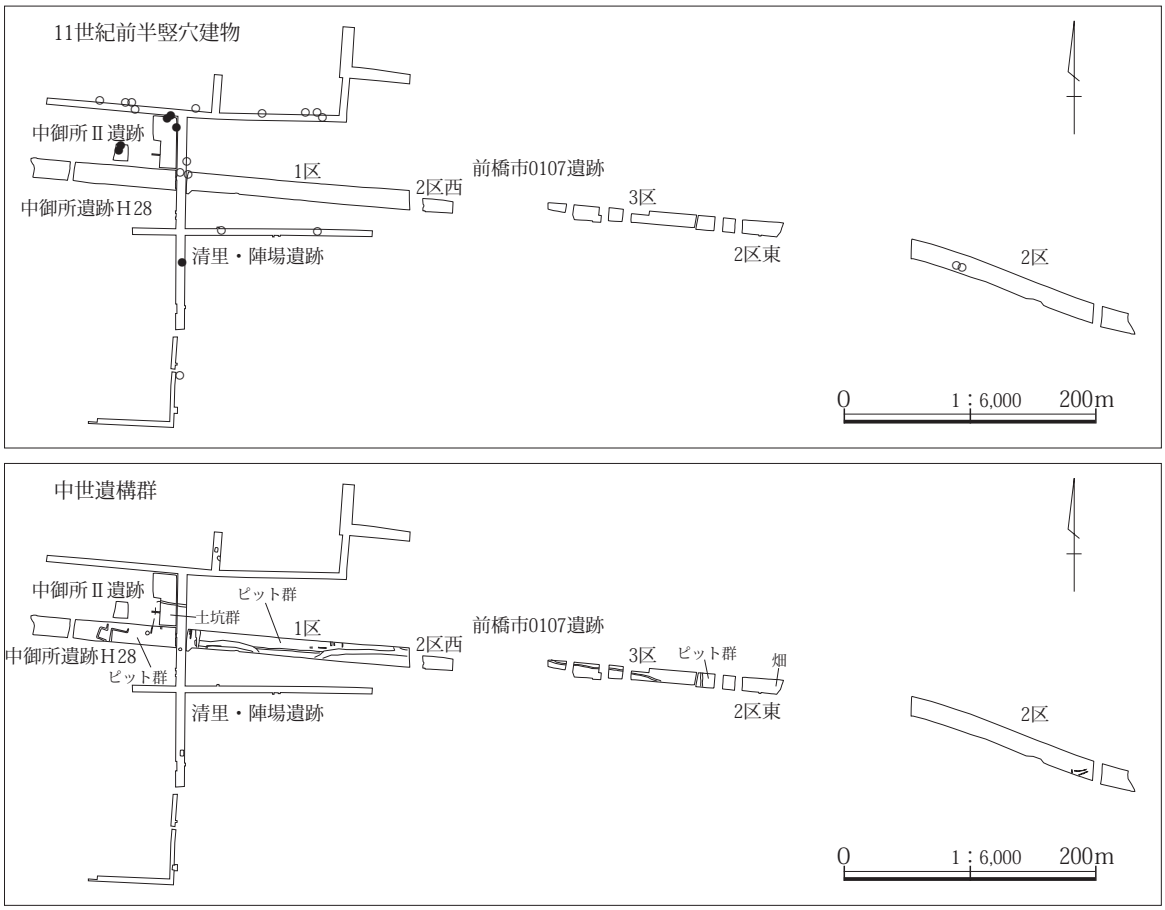
二つ目の消長は、９世紀にはじまり10世紀に最盛期を



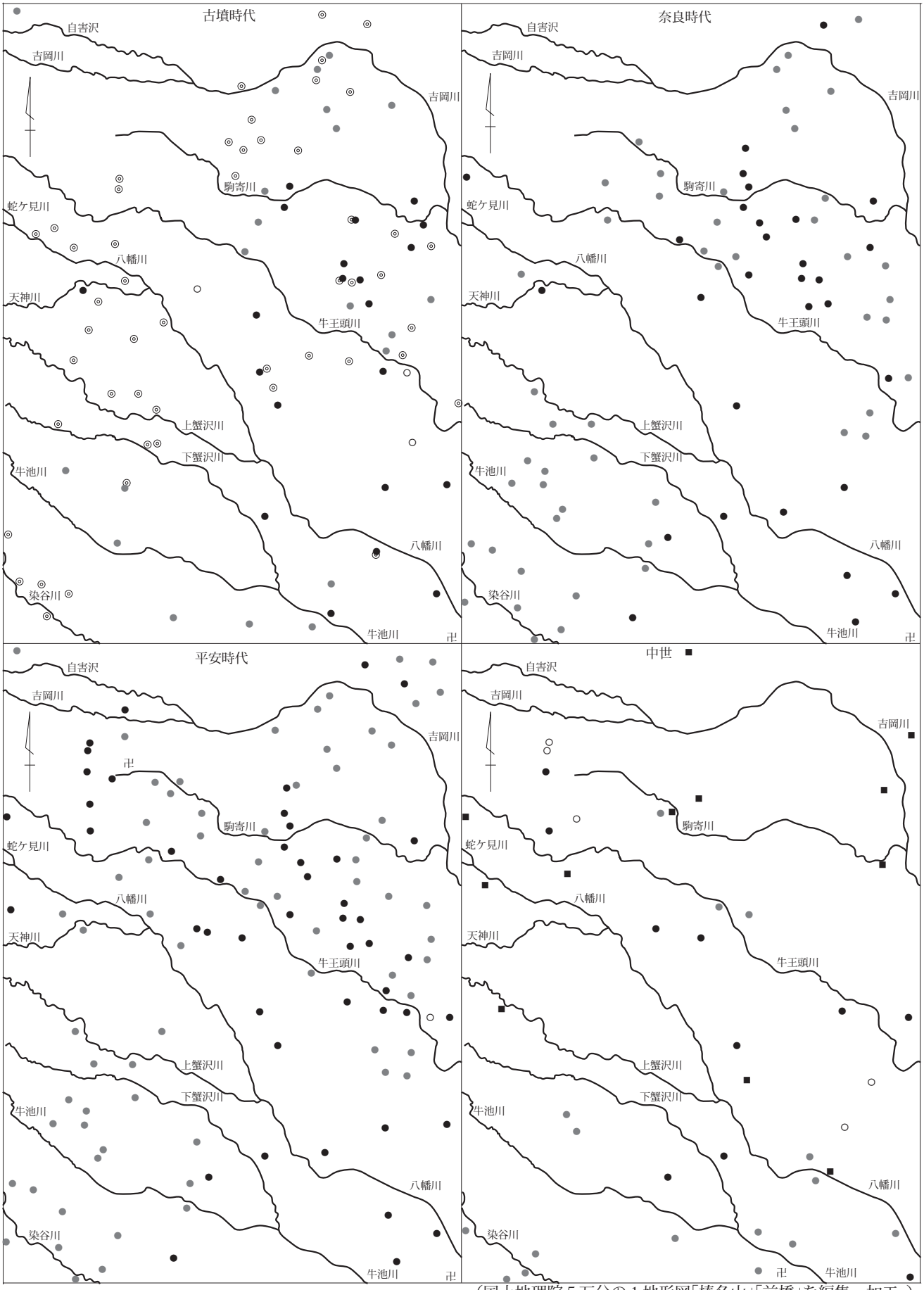
第48図　遺構分布２

迎え、11世紀に衰退する平安時代前半の集落変遷である。遺構分布図（第47～49図）の東端付近を中心としていた前代と異なり、平安時代の竪穴建物は遺構分布図の西端付近に集中している。謂わば清里・陣場遺跡を中心に展開する集落である。なお中御所遺跡では平成28年度調査区の北方250mの地点から、重複する９世紀の竪穴建物３棟が平成６年に検出されている。清里・陣場遺跡の北東隅にあり集落の北端とされた１号溝の調査区外での流れ方いかんではあるが、集落域の北辺が平成６年度調査地点まで及ぶ可能性がある。第50図の左下の図は平安時代の遺跡分布であるが、同図右上の奈良時代の図と比べると、図内左上の駒寄川上流域付近に新たな遺跡の集中が認められる。また図内中央付近とその東の牛王頭川下流域付近でも若干の増加が認められる。奈良時代から継続する遺跡に加え、新たな地点に集落が形成されており、旧来の居住域の拡張に加え、新たな居住域が榛名山寄りの地に拡大していくのが平安時代前半の動向といえよう。こうした拡大傾向を踏まえると、８世紀を最後に竪穴建物が絶えている前橋市0107遺跡２区は例外的な場所と思われる。弘仁九（818）年の地震被害の影響も想定されるが、牛王頭川左岸の遺跡はその後も奈良時代から平安時代へと居住域が継承されている。当地において居住域が継承されなかった理由を強いてこの地震に求めるなら、八幡川の土砂災害を想定すべきなのであろうか。あるいは国分寺建立に伴い周辺地域に用地制限などが生じたのであろうか。

10世紀に最盛期を迎えた平安集落は、その後急速に衰退を迎える。天慶二（939）年の平将門の乱から11世紀後半の奥州十二年合戦へと続く世相と、これに追い打ちをかけるような12世紀初頭の浅間山噴火などの故か、11世紀後半から12世紀にかけて集落らしき痕跡もほぼ確認されぬまま中世の遺構が検出されている。この中世の遺構分布で特徴的なことは遺構分布図（第49図）の西端から２か所、中央付近から１か所検出されたピット群の存在である。中御所遺跡では掘立柱建物群とこれに隣接する、テラス状の微高地の南端を囲うように位置する２条の薬研堀が確認されている。また中御所Ⅱ遺跡では中御所遺跡のピット群の北から、区画溝と思われる薬研堀に囲ま



第49図　遺構分布３



（国土地理院５万分の１地形図「榛名山」「前橋」を編集、加工。）

0　1：50,000　2km

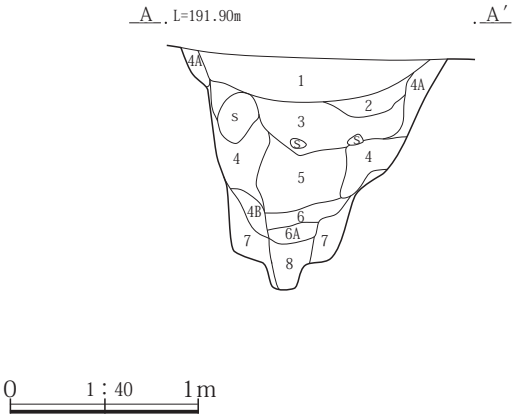
第50図　時代別遺跡分布

れた土坑群が確認されており「武士の館もしくは公的施設に関連するもの」（瀧野2001）との指摘がある。

中御所遺跡西端のピット群に隣接する４号溝からは13世紀から18世紀の遺物が発見されている。この中で出土位置が確認されている遺物はすべて在地系土器皿であり、溝埋没土の中層から出土している（第51図）。出土層位と遺物年代の組み合わせは、４層中位・15世紀中ば、４Ａ層・15世紀後半、５層上面～３層下面・15世紀末、４層上面～３層下面・15世紀末～16世紀始め、３層下面・15世紀後半となっている。４号溝の開削時期を示す資料は得られていないが、15世紀末頃には開削時のままの姿を維持される事はなくなり、少なくとも0.8mは埋没した状態が日常化していたと思われる。15世紀後半といえば箕郷町箕輪城や前橋市厩橋城が構築された時代である。また池端町の周辺でも吉岡町三宮原、榛東村広馬場などは戦場となったとされる。４号溝を屋敷や環濠集落などの防衛機構とした場合、こうした環境下において防御機能が劣化するままとされる背景として、拠点地域の変遷や戦術の変化などが想起されるが確証は得られない。なお溝に伴う土囲の存在は確認されていない。

参考資料
中沢悟1981「第５章第１節　遺構について」『清里陣場遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.222-228
瀧野巧2001「Ⅴ　まとめ」『中御所遺跡』群馬県北群馬郡吉岡町教育委員会pp.12-13
瀧野巧2005「Ⅴ　まとめ」『中御所Ⅱ遺跡』群馬県北群馬郡吉岡町教育委員会pp.31-32
山中豊2021「第５章第２節　集落の変遷」『前橋市0107遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.235-238
佐藤元彦2021「第４章　まとめ」『中御所Ⅱ遺跡（２）』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.92-93

中御所遺跡４号溝遺物出土地点付近の土層断面



４号溝
1　黒褐色土(10YR3/1)φ２～５㎜のAs-Ｃ、φ10㎜前後の小礫を含む砂質土。
2　黒褐色土(10YR3/2)φ２～４㎜のAs-Ｃ、φ20㎜の小礫を含む。砂質性あり。
3　黒褐色土(10YR3/1)微量のAs-Ｃ、φ50～70㎜の円礫混入。
4　暗褐色土(10YR3/3)軽石はほとんど含まない。φ10㎜前後の小礫を含む砂質土。
4B　４に黄褐色ブロックが混入。
4A　４よりやや粘質。
5　黒褐色土(10YR3/1)３に近似するが、小礫の混入なく砂質性ある。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)砂層。
6A　６と８の中間層。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)地山の黄褐色土ブロックが多く含まれる。
8　黒褐色土(10YR3/1)φ30～50㎜の小礫を含む砂質土。

第51図　中御所遺跡４号溝

報　告　書　抄　録

書名ふりがな	まえばししれいいちれいなないせき　に
書　　名	前橋市0107遺跡（２）
副　書　名	(一)南新井前橋線（２期工区)道路改築事業(地方道・連携)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	714
編著者名	佐藤元彦
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20221219
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　　所	群馬県渋川市北橘町下箱田 784 番地２
遺跡名ふりがな	まえばししれいいちれいなないせき
遺　跡　名	前橋市 0107 遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししいけはたまちちない
遺跡所在地	群馬県前橋市池端町地内
市町村コード	10201
遺跡番号	0107
北緯(世界測地系)	362546
東経(世界測地系)	1390036
調査期間	20200801－20200930,20210401－20210531
調査面積	1769.34
調査原因	県道整備
種　　別	集落
主な時代	中世
遺跡概要	中近世－溝３＋墓１＋井戸２＋土坑17＋ピット83／不明－溝２＋竪穴状遺構１＋集石４＋土坑６＋ピット17
特記事項	榛名山東南麓、前橋市池端町周辺の中世集落遺構の分布状況の一環が得られた。
要　　約	１区・２区として先行して調査された区画の間に位置し、既に報告されている集落域と集落域の間をつなぐ区域の調査である。１区・２区で確認された平安時代以前の集落遺構は今回確認されず、中世以降の掘立柱建物が想起されるピット群が検出された。

写 真 図 版

1　前橋市0107遺跡３区から榛名山を望む（南東から）

2　前橋市0107遺跡３区西調査区、西・東部調査区（１面、南東から）

1　前橋市0107遺跡３区西・東部調査区（１面、西から）

2　前橋市0107遺跡３区中央西調査区、中央東調査区（２面、東から）

1　前橋市0107遺跡３区中央東調査区（１面、西から）

2　前橋市0107遺跡３区東調査区（１面、南西から）

1　49号溝西端(南から)

2　49号溝西端付近(北から)

3　49号溝断面(西から)

4　49号溝土層断面(３区西　東壁、西から)

5　49号溝(東から)

6　49号溝土層断面(３区西・東部　東壁、西から)

7　49号溝(南から)

8　49号溝土層断面(３区中央西、西から)

1　49号溝(横位52号溝、東から)

2　52・49号溝土層断面(北西から)

3　49号溝南端付近(北東から)

4　49号溝土層断面(３区中央西　西壁、東から)

5　49号溝土層断面(３区中央西、西から)

6　49号溝土層断面(３区中央東　南壁、北から)

7　50号溝(南から)

8　50号溝土層断面(南から)

1　51号溝（南から）

2　51号溝土層断面（東から）

3　52号溝（縦位49号溝、西から）

4　５号墓（西から）

5　５号墓（東から）

6　５号墓土層断面（東から）

7　12号井戸（北から）

8　12号井戸（南東から）

1　13号井戸（東から）

2　13号井戸土層断面（上層、南から）

3　13号井戸土層断面（中層、北から）

4　13号井戸（底部、北から）

5　111号土坑（北から）

6　111号土坑土層断面（南から）

7　112号土坑（北から）

8　112号土坑土層断面（西から）

1　113号土坑(北から)

2　113号土坑土層断面(南から)

3　114号土坑(北から)

4　114号土坑土層断面(南から)

5　115号土坑(北から)

6　115号土坑土層断面(西から)

7　116号土坑(北から)

8　116号土坑土層断面(東から)

1　123号土坑(南から)

2　123号土坑土層断面(南から)

3　124号土坑(南から)

4　124号土坑土層断面(南から)

5　134・125・135号土坑(南から)

6　134・125・135号土坑土層断面(南から)

7　134号土坑土層断面(南から)

8　135号土坑土層断面(南から)

PL.10

1　125号土坑土層断面（南から）

2　128・129号土坑（西から）

3　128・129号土坑土層断面（西から）

4　130号土坑（南から）

5　130号土坑土層断面（南から）

6　131号土坑（南から）

7　131号土坑土層断面（南から）

8　132号土坑（南から）

1　132号土坑土層断面（南から）

2　133号土坑（北から）

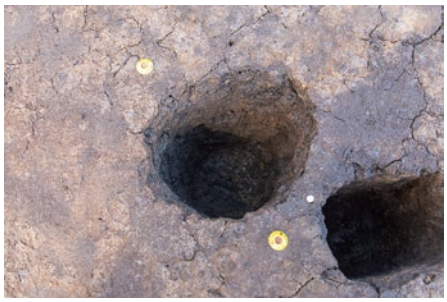
3　133号土坑土層断面（南から）

4　139号土坑（北から）

5　219号ピット（南から）

6　220号ピット（南から）

7　221号ピット（南から）



8　222号ピット（南から）

9　223号ピット（南から）

10　224号ピット（南から）

11　225号ピット（南から）

12　226号ピット（南から）

13　227号ピット（南から）

PL.12

1　228号ピット（南から）

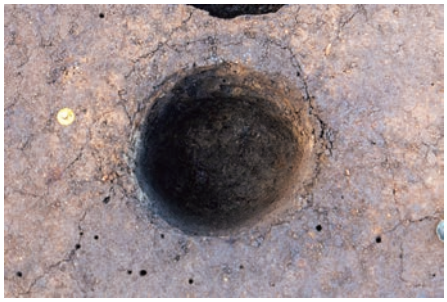
2　229号ピット（南から）

3　230号ピット（南から）

4　231号ピット（南から）

5　232号ピット（南から）

6　233号ピット（南から）


7　234号ピット（南から）

8　235・270号ピット（南から）

9　236号ピット（南から）

10　237号ピット（南から）

11　238号ピット（南から）

12　239号ピット（南から）

13　240号ピット（南から）

14　241号ピット（南から）

15　242号ピット（南から）

16　243号ピット（南から）

17　244号ピット（南から）

18　245号ピット（南から）

1　246号ピット（南から）

2　247号ピット（南から）

3　248号ピット断面（北から）

4　249号ピット（南から）

5　250号ピット（南から）

6　251号ピット（南から）

7　252号ピット（南から）

8　253号ピット（南から）

9　254・255号ピット（南から）

10　256号ピット（南から）

11　257号ピット（南から）

12　258号ピット（南から）

13　259号ピット（南から）

14　260号ピット（南から）

15　261号ピット（南から）

16　262号ピット（南から）

17　263号ピット（南から）

18　284・264号ピット（南西から）

PL.14

1　265号ピット（南から）

2　266号ピット（南から）

3　267号ピット（南から）

4　268号ピット（南から）

5　271・269号ピット（南から）

6　272号ピット（南から）

7　273号ピット（南から）

8　275、274号ピット（東から）

9　276号ピット（南から）

10　277号ピット（南から）

11　278号ピット（南から）

12　279号ピット（南から）

13　280号ピット（南から）

14　281号ピット（南から）

15　282号ピット（南から）

16　283号ピット（南から）

17　294号ピット（南から）

18　295号ピット（南から）

1　296号ピット（南から）

2　298号ピット（南から）

3　301号ピット（南から）

4　302号ピット（南から）

5　310号ピット（南から）

6　311号ピット（南から）

7　312号ピット（南から）

8　314号ピット（南から）

9　317号ピット（南から）

10　319号ピット（南から）

11　320号ピット（北から）

12　321号ピット（北から）

13　323号ピット（南から）

14　324号ピット（南から）

15　325号ピット（南から）

16　327・326号ピット（南から）

17　332号ピット（南から）

1　48号溝（南から）

2　48号溝礫群（南から）

3　６号竪穴状遺構（東から）

4　６号竪穴状遺構土層断面（北から）

5　３～５号集石（西から）

1　３号集石（西から）

2　４号集石（西から）

3　５号集石（西から）

4　６号集石（南から）

5　119号土坑（西から）

6　119号土坑土層断面（西から）

7　120号土坑（北から）

8　120号土坑土層断面（南から）

1　136号土坑（南から）

2　136号土坑土層断面・遺物出土状況（南から）

3　137号土坑（東から）

4　137号土坑土層断面（東から）

5　138号土坑（南から）

6　138号土坑上層土層断面（南から）

7　138号土坑礫群検出状況（南から）

8　138号土坑底部（西から）

1　285号ピット（西から）

2　286号ピット（西から）

3　287号ピット（西から）

4　288号ピット（西から）

5　289号ピット（西から）

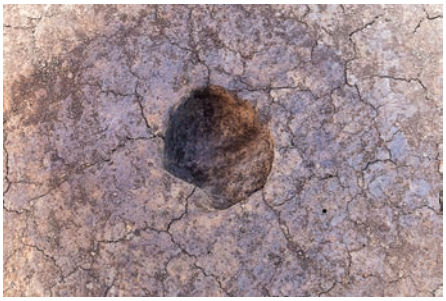
6　290号ピット（西から）

7　291号ピット（西から）

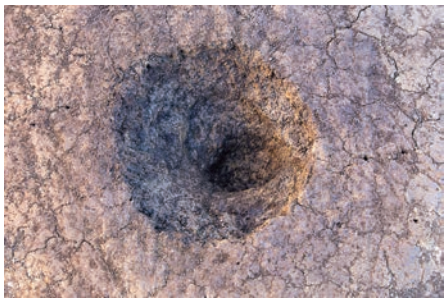
8　292号ピット（西から）

9　293号ピット（西から）

10　334号ピット（南から）


11　335号ピット（南から）

12　336号ピット（南から）


13　337号ピット（南から）

14　338号ピット（南から）

PL.20

５号墓

1

2

13号井戸

4

130号土坑

6

136号土坑

9

（３号風倒木）

10

247号ピット

8

138号土坑

11

12

14

15

16

17

20

（138号土坑）

24

25

26

遺構外１面

27

29

30

31

32

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第714集

前橋市0107遺跡（２）

(一)南新井前橋線（２期工区）道路改築事業（地方道・連携）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和４(2022)年11月16日　印刷
令和４(2022)年12月19日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／上武印刷株式会社